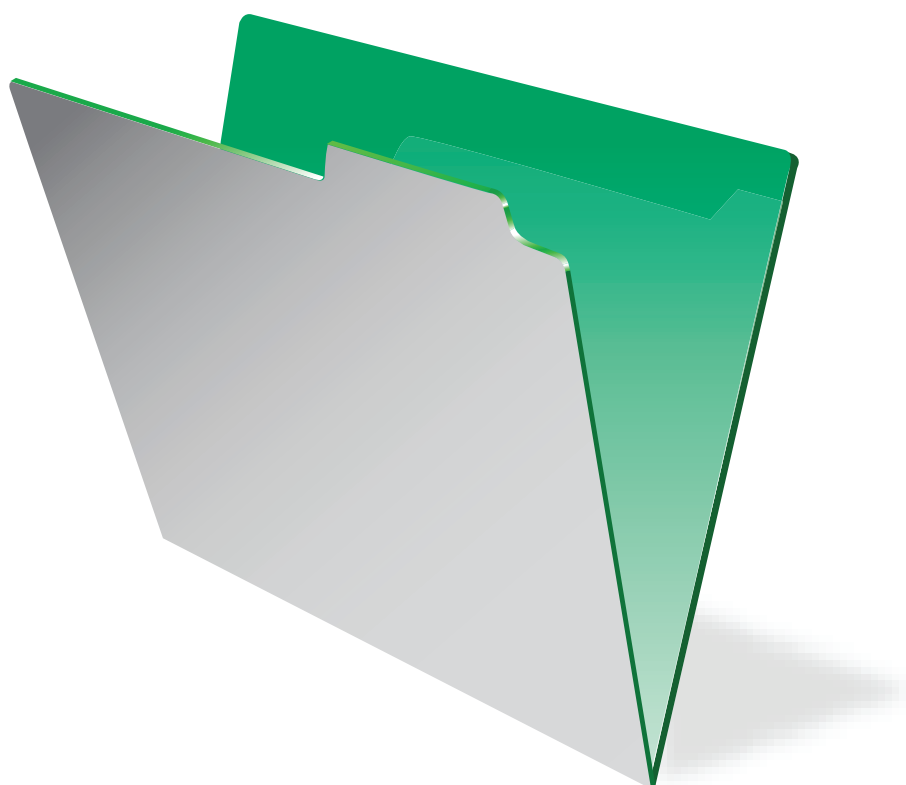


FileMaker® Server 9 ヘルプ



© 2001-2007 FileMaker, Inc. All Rights Reserved.

FileMaker, Inc.

5201 Patrick Henry Drive

Santa Clara, California 95054

FileMaker、ファイルメーカー及びファイルフォルダロゴは、FileMaker, Inc. の米国及びその他の国における登録商標です。ScriptMaker は、FileMaker, Inc. の商標です。その他記載された会社名及びロゴ、製品名などは該当する各社の商標または登録商標です。

FileMaker のドキュメンテーションは著作権により保護されています。FileMaker, Inc. からの書面による許可無しに、このドキュメンテーションを複製したり、頒布することはできません。このドキュメンテーションは、正当にライセンスされた FileMaker ソフトウェアのコピーがある場合そのコピーと共にのみ使用できます。

また、製品及びサンプルファイル等に登場する会社名、氏名、住所などのデータは全て架空のもので、実在する企業、人物とは一切関係ありません。スタッフはこのソフトウェアに付属する「Acknowledgements」ドキュメントに記載されます。

他社の製品に関する記述は、情報の提供を目的としたもので、保証、推奨するものではありません。

詳細情報については www.filemaker.co.jp をご覧ください。

FileMaker Server 9 ヘルプ

FileMaker Server に関する質問への回答



[データベースファイルのアップロード](#)

データベースのアップロードアシスタントを使用して、ネットワーク接続された任意のコンピュータから FileMaker Server にデータベースを転送します。



[データベースのバックアップ](#)

FileMaker Server にデータベースを自動的にバックアップするためのスケジュールを設定します。



[Web サイトのホスティング](#)

ファイルを保存する場所について学習します。



[トラブルシューティング](#)

一般的な問題の解決策を検索してください。

FileMaker をご使用になるのは初めてですか

[FileMaker Server とは](#)

実行できる内容。

『[FileMaker Server 入門ガイド](#)』

FileMaker Server のインストールと起動方法

開始ページを参照してください。

FileMaker Server の新機能

[すべての新しい Admin Console、サーバーサイドのスクリプト作成など](#)

Web 上

[ビデオとリソース](#)

特長と概要、およびその他のリソースについての説明。

[FileMaker Server テクノロジー](#)

ODBC、外部 SQL データソース、Web 公開、その他についての詳細。

[サポートインフォメーション](#)

[シヨーン](#)
より多くの回答の検索。

[カスタマサポート](#)

サービスとサポートの情報。

このドキュメントには、FileMaker Server 9 のオンラインヘルプシステムと同じ情報が含まれています。ヘルプシステムから独立して情報をお読みいただけるように、この形式で提供しています。

FileMaker Server 9 ヘルプ	3
FileMaker Server の概要	9
FileMaker Server 9 の新機能	10
FileMaker Server の展開	12
管理者アカウントの設定	13
FileMaker Server の名前付け	14
ODBC と JDBC 経由の共有の有効化	15
Web 公開の有効化	16
Web 公開テクノロジーの有効化	17
展開タイプの選択	19
ワーカーマシンの役割の割り当て	20
Web サーバーの指定	21
Web サーバーのテストの失敗	22
展開の概要	23
適切な展開タイプの選択	24
FileMaker Server のテスト	25
展開のステータスの確認	27
FileMaker Server の展開の変更	29
Admin Console の起動	30
データベースのホスト	32
アカウントとアクセス権セットの編集	33
データベースファイルのアップロード	34
データベースファイルの手動によるアップロード	36
ユーザ、グループ、およびアクセス権 (Mac OS)	37
アップロードするデータベースの選択	39
アップロードオプションの指定	41
データベースのアップロードステータスの表示	42
アップロードの概要の確認	43
FileMaker Pro クライアントによるデータベースの利用の確認	44
Web サイトのホスト	46
PHP Web サイトのホスト	47
XSLT Web サイトのホスト	49
XML クエリーのデータベースのホスト	51
インスタント Web 公開の使用	52
FileMaker Server の起動と停止	54
FileMaker Server サービスの起動または停止 (Windows)	55
FileMaker Server デーモンの起動または停止 (Mac OS)	56

一般設定の設定	57
サーバー情報の設定	58
電子メール通知設定	60
Admin Console の設定	62
自動起動設定	64
データベースサーバーの設定	65
FileMaker Pro クライアントの設定	66
ディレクトリサービス設定の指定	68
ディレクトリサーバー設定の公開	69
データベースの設定	70
キャッシュフラッシュ操作	72
データベースサーバーのセキュリティ設定	73
データベースアクセスの外部認証	75
デフォルトフォルダの設定	76
有効なフォルダのヒント	78
ログおよび使用状況の設定	79
サーバーのプラグインの設定	80
Web 公開の設定	81
一般 Web 公開設定	82
PHP Web 公開設定	83
XSLT Web 公開設定	85
XSLT リクエストのテキストエンコーディング	88
Web セッションとデータベースセッションの連携処理の設定	89
XML Web 公開設定	90
インスタント Web 公開設定	91
クライアントの管理	93
ユーザの詳細について	94
データベースを開くの詳細について	95
FileMaker Pro クライアントへのメッセージの送信	96
クライアントの接続解除	97
データベースの管理	98
選択したデータベースの FileMaker Pro クライアントへのメッセージの送信	100
ホストされているファイルの開き方	101
ホストされたファイルの閉じ方	102
ホストされているファイルの一時停止	103
ホストされているファイルの再開	104
ホストされているファイルの削除	105
FileMaker Server での ODBC と JDBC の使用	106
ODBC および JDBC 経由での FileMaker データベースの共有	108

ODBC および JDBC 経由での共有の有効化	109
外部 ODBC データソースへのアクセス	110
FileMaker Server の監視	112
使用状況の表示	113
ログファイルでのアクティビティの追跡	115
イベントログ	116
イベントビューアでのアクティビティの表示 (Windows)	117
イベントログの言語の変更	118
アクセスログ	120
使用状況ログ	121
Web 公開ログ	122
Web サーバーモジュールログ	123
プラグインの管理	124
サーバーサイドプラグインの有効化	125
サーバーサイドプラグインファイルのフォルダ	126
プラグインファイルアクセス権の変更 (Mac OS)	127
プラグインの自動更新の有効化	128
Mac OS プラグインファイルの .tar 形式への変換の準備	129
データの保護	130
管理タスクのスケジュール	131
データベースバックアップのスケジュール	133
データベースバックアップのヒント	134
サーバーサイドスクリプトの実行	136
ScriptMaker スクリプトの実行	137
システムレベルのスクリプトファイルの実行	139
ホストされたデータベースのクライアントへのスケジュールメッセージの送信	140
スケジュールの作成	141
スケジュール繰り返しの例	142
スケジュールの編集	143
スケジュールの複製	144
スケジュールの削除	145
手動でのスケジュールの実行	146
スケジュールの有効化と無効化	147
タスクの選択	148
データベースバックアップのスケジュール	149
データベースの選択	150
バックアップフォルダの選択	151
スケジュール頻度の選択	152
スケジュール名の指定	153
電子メールのスケジュールでの有効化	154
スケジュールが失敗したときの電子メール通知の受信	155
スケジュール詳細の確認	156

スクリプトタイプの選択	157
ScriptMaker スクリプトを実行するデータベースの選択	158
実行する ScriptMaker スクリプトの選択	159
実行するシステムレベルのスクリプトの選択	160
メッセージを送信するユーザの選択	161
メッセージの作成	162
トラブルシューティング	163
展開の問題	164
Admin Console の問題	165
一般的な問題	166
ネットワークの問題	167
FileMaker Server によって使用されるポート	168
クライアントコンピュータの問題	169
FileMaker Server イベントログメッセージ	171
コマンドラインのエラーメッセージ	174
パフォーマンスの向上	175
更新の確認	176
ライセンスキーについて	177
コマンドラインリファレンス	178
fmsadmin コマンド	181
BACKUP コマンド	182
CLOSE コマンド	183
DISABLE コマンド	184
DISCONNECT コマンド	185
ENABLE コマンド	186
HELP コマンド	187
LIST コマンド	188
OPEN コマンド	189
PAUSE コマンド	190
RESUME コマンド	191
RUN コマンド	192
SEND コマンド	193
START コマンド	194
STATUS コマンド	195
STOP コマンド	196
用語集	197
ユーザ登録	204
カスタマサポートとデータベース	205

著作権情報 206

FileMaker Server の概要

FileMaker® Server は、[FileMaker Pro](#) ファイルを開き、ネットワーク上のクライアントが使用できるようにし、Web ページやその他のアプリケーションに FileMaker データを公開するための専用データベースサーバーです。

FileMaker Server Advanced は、FileMaker Server のすべての機能のほかに、以下の機能を備えています。

- インスタント Web 公開。[インスタント Web 公開の使用](#)を参照してください。
- ODBC および JDBC を使用して SQL データソースとしてデータを共有します。[ODBC および JDBC 経由での FileMaker データベースの共有](#)を参照してください。

既存の FileMaker Server 展開を [FileMaker Server Advanced](#) にアップグレードするには、FileMaker Server Advanced のライセンスキーが必要です。ソフトウェアを再インストールせずに、新しいライセンスを入力できます。ライセンスをアップデートする方法については、[サーバー情報の設定](#)を参照してください。

サポートされているクライアント

サポートされているクライアントには、以下のものがあります。

- FileMaker Pro 7、8、8.5 および 9
- FileMaker Server [Web 公開エンジン](#)を使用してデータにアクセスする Web ユーザ
- FileMaker クライアント [ドライバ](#)を使用する FileMaker ODBC および JDBC (FileMaker Server Advanced ライセンスが必要)

Admin Console

FileMaker Server Admin Console を使用すると、FileMakerServer の設定と管理、ホストされたデータベースとクライアントの操作と監視、および使用状況情報の追跡を簡単に行うことができます。

FileMaker Server を実行中のマシン、または FileMaker Server にネットワーク接続された任意の Windows または Mac OS マシンで Admin Console を実行することができます。[Admin Console の起動](#)を参照してください。

関連項目

[FileMaker Server 9 の新機能](#)

FileMaker Server 9 の新機能

FileMaker Server 9 には、次の新機能と改善点が含まれます。:

新しい Admin Console

- 任意のネットワーク接続されたコンピュータから起動可能です。インストールは不要です。
- Windows と Mac OS のユーザインターフェースが同じです。
- すべての FileMaker Server コンポーネントを 1 つの管理アプリケーションから構成および管理します。

サーバーサイド ScriptMaker スクリプトの実行

- ホストされたデータベースで [ScriptMaker™](#) スクリプトをスケジュールして、FileMaker Server 上で実行します。[ScriptMaker スクリプトの実行](#)を参照してください。

データベースのアップロード

- データベースアップロード[アシスタント](#)を使用して、ネットワーク接続された任意のコンピュータから FileMaker Server にデータベースを[アップロード](#)します。[データベースファイルのアップロード](#)を参照してください。
- 複数のデータベースを一度にアップロードします。
- 管理者ログインが必要です。

電子メール通知の受信

- スケジュールされたバックアップとスクリプトが正常に終了したときに、電子メールメッセージを受け取ります。[電子メールのスケジュールでの有効化](#)を参照してください。
- FileMaker Server がエラーと警告を記録した時点で通知を受け取ります。[電子メール通知設定](#)を参照してください。

PHP を使用した外部 Web サイトへのデータの公開

- [PHP](#) を使用したカスタム Web 公開では、PHP Web アプリケーションから FileMaker データにアクセスできるようにします。[PHP Web サイトのホスト](#)を参照してください。
- FileMaker [API](#) for PHP は、サポートされた FileMaker データベースへのオブジェクト指向のインターフェースを提供します。

外部 SQL データソースへのサーバーベースの接続の作成

- [ODBC](#) を介した外部 [SQL データソース](#)への接続のために設計された FileMaker Pro データベースをホストします。
- FileMaker Server の外部データソースへの接続をセットアップします。FileMaker Server のクライアントは、特別な[ドライバ](#)やセットアップを必要としません。[外部 ODBC データソースへのアクセス](#)を参照してください。

その他の特長

- 使用しているクライアントとデータベースに関する詳細な情報を表示します。[クライアントの管理](#)および [データベースの管理](#)を参照してください。

FileMaker Server 9 の新機能

- Admin Console を使用して FileMaker Server からデータベースを削除します。[ホストされているファイルの削除](#)を参照してください。
- FileMaker Server により情報がどの程度記録されるかをコントロールします。[ログおよび使用状況の設定](#)を参照してください。

関連項目

[FileMaker Server の概要](#)

FileMaker Server の展開

FileMaker Server をインストールする場合、FileMaker Server を 1 台のマシンで使用するか複数のマシンで使用するかを決定します。

複数のマシンでの展開では、1 台のマシンが常にマスタになり、他のマシンがワーカーになります。

- マスタマシンになるのは、常に、[データベースサーバー](#)が使用されるマシンになります。
- ワーカーマシンは、[Web 公開エンジン](#)または [Web サーバー](#)を実行しているマシンです。

1 台のマシンの展開では、すべてのコンポーネントが、マスタマシンと考えられる 1 台のマシン上で実行されます。

詳細については、[適切な展開タイプの選択](#)を参照してください。

マスタマシンに FileMaker Server をインストールした後、展開[アシスタント](#)に従って FileMaker Server コンポーネントを配置します。

展開アシスタントを使用すると、次の作業の実行が簡単になります。

- FileMaker Server [Admin Console](#) にログインする場合に使用する管理者[アカウント](#)を作成する
- FileMaker Server 展開名を設定する
- [ODBC](#) と [JDBC](#) (FileMaker Server Advanced ライセンスが必要) を使用した共有を有効にする
- Web 公開を有効化し、使用する Web 公開テクノロジーを選択する
- 展開タイプを選択し、1 台のマシン展開の場合、[マシンの役割](#)を割り当てる
- Web サーバーを指定する (Web 公開が有効な場合)

初期設定の後で展開をテストし、ニーズの変更に応じて展開を変更できます。[FileMaker Server の展開の変更](#)を参照してください。

注意 最初の展開時に展開アシスタントをキャンセルする場合、Admin Console は終了し、FileMaker Server は展開されません。Admin Console を起動する際には、FileMaker Server の展開を完了するために展開アシスタントが起動します。

関連項目

[FileMaker Server のテスト](#)

[展開のステータスの確認](#)

管理者アカウントの設定

この展開アシスタント設定で、FileMaker Server [Admin Console](#) へのログインに使用する [アカウント](#) を設定します。

管理者アカウントを設定するには、次の操作を行います。

1. [ユーザ名] に、ログインに使用する名前を入力します。
2. [パスワード] に、ログインに使用するパスワードを入力します。
[パスワード] は空欄にできません。
3. [パスワード確認] にパスワードを再入力します。
4. [進む] をクリックして、次の手順に進みます。
[キャンセル] をクリックして、展開アシスタントを終了します。

注意

- [ユーザ名] を選択する場合、大文字と小文字は区別されません。
- [パスワード] では、大文字と小文字が区別されます。
- ユーザ名とパスワードは、Admin Console で変更できません。また、グループの全メンバーによる Admin Console へのアクセスも有効にできます。[Admin Console の設定](#) を参照してください。

関連項目

[FileMaker Server の展開](#)

FileMaker Server の名前付け

この展開アシスタントの設定で、FileMaker Server の展開に名前を割り当て、オプションで追加情報を指定します。

FileMaker Server の展開に名前を付けるには、次の操作を行います。

1. [サーバー名] に、FileMaker Server の展開の名前を入力します。
FileMaker Pro ユーザは、[共通ファイルを開く] ダイアログボックスを使用するときに、この名前が表示されます。
2. [サーバーの説明] に、FileMaker Saver の展開のオプションを入力します。
この情報は、Admin Console の開始ページで管理者に表示されます。
3. [管理者の連絡先情報] で、連絡先情報の入力を選択できます。
この情報は、Admin Console の開始ページに表示されます。この情報は、[ディレクトリサービス](#)に発行することもできます。[Admin Console の設定](#)を参照してください。
4. [進む] をクリックして、次の手順に進みます。
[戻る] をクリックして、1つ前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックして展開アシスタントを終了します。

注意 この情報は、Admin Console で変更できます。[Admin Console の設定](#)を参照してください。

関連項目

[FileMaker Server の展開](#)

ODBC と JDBC 経由の共有の有効化

FileMaker Server Advanced ライセンスを購入している場合、この展開アシスタントの設定で、[データソースの ODBC と JDBC](#) の経由をサーバーで有効にします。

ODBC と JDBC 経由の共有を有効にするには、次の操作を行います。

1. [はい、**ODBC/JDBC** を有効にします] をクリックして共有を有効にするか、[いいえ、**ODBC/JDBC** を有効にしません] をクリックして無効にします。

2. [進む] をクリックして、次の手順に進みます。

[戻る] をクリックして、1つ前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックして展開アシスタントを終了します。

注意

- この機能を有効にすると、クライアントは ODBC と JDBC を使用したデータソースとして FileMaker Server を使用できます。詳細については、開始ページの『FileMaker ODBC および JDBC ガイド』を参照してください。
- この ODBC/JDBC データソース機能は、ODBC を経由して外部 SQL データソースにアクセスする FileMaker Pro データベースをホストする場合には不要です。[外部 ODBC データソースへのアクセス](#)を参照してください。
- この設定は、Admin Console で変更できます。[ODBC および JDBC 経由での共有の有効化](#)を参照してください。

関連項目

[FileMaker Server の展開](#)

Web 公開の有効化

FileMaker データベースを Web ユーザに公開する場合は、この展開 アシスタントの設定で Web 公開を有効化します。FileMaker Server カスタム Web 公開または [インスタント Web 公開](#) を使用する場合は、この機能を有効にする必要があります。詳細については、[インスタント Web 公開の使用](#)、[XSLT Web サイトのホスト](#)、および [PHP Web サイトのホスト](#) を参照してください。

Web 公開を有効にするには、次の操作を行います。

1. [はい、**Web 公開**を有効にします] をクリックして Web 公開を有効にするか、[いいえ、**Web 公開**を有効にしません] をクリックして無効にします。
2. [進む] をクリックして、次の手順に進みます。
[戻る] をクリックして、1 つ前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックして展開アシスタントを終了します。

注意

- Web 公開を使用するには、サポートされる [Web サーバー](#) がインストールされ、有効になっている必要があります。詳細については、開始ページの「FileMaker Server 入門ガイド」を参照してください。
- Web 公開テクノロジーの設定は、Admin Console で変更できます。ただし、展開アシスタントを使用して Web 公開を全体的に有効または無効にする必要があります ([FileMaker Server の概要] ウィンドウで [サーバー展開の編集] をクリックします)。

関連項目

[FileMaker Server の展開](#)

[Web 公開テクノロジーの有効化](#)

Web 公開テクノロジーの有効化

この展開アシスタントの設定で、FileMaker データベースを Web で公開する場合に使用するテクノロジーを選択します。

Web 公開テクノロジーを有効にするには、次の操作を行います。

1. 使用する Web 公開テクノロジーを選択します。

使用するテクノロジー	有効化
HTTP リクエストを XML クエリーのコマンドとパラメータと同時に送信し、FileMaker データを XML ドキュメントとして取り出します。	XML
Web ブラウザまたはその他のアプリケーションで使用する XSLT スタイルシートを使用して、FileMaker データベースの XML データを変換、フィルタ処理、書式設定します。	XSLT
FileMaker Pro で実行する場合と非常に似た外観および機能を持つ Web で、FileMaker データベースを迅速かつ容易に公開します。	インスタント Web 公開 FileMaker Server Advanced ライセンスが必要。
PHP Web アプリケーションの FileMaker API for PHP を使用して、FileMaker データにアクセスします。	PHP

2. PHP 公開を有効にする場合、FileMaker の PHP のバージョンをインストールしているかどうかを決定します。

使用するテクノロジー	選択項目
FileMaker API for PHP をインストール	はい、 FileMaker がサポートする PHP のバージョン (PHP 5.2) をインストール すでに PHP がインストールされている場合、その PHP は無効になります。
PHP の独自のインストールを使用	いいえ、すでにインストール済みの PHP エンジンを使用 FileMaker Server は PHP バージョン 4.3.11、PHP 4.4.1、PHP 5.x をサポートします。 FileMaker API for PHP を手動でインストールする必要があります。手順については、開始ページの「FileMaker Server カスタム Web 公開 with PHP」を参照してください。

3. [進む] をクリックして、次の手順に進みます。

[戻る] をクリックして、1 つ前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックして展開アシスタントを終了します。

注意

- [インスタント Web 公開](#)を有効にするには、FileMaker Server Advanced ライセンスが必要です。
- Web 公開テクノロジーの設定は、[Admin Console](#) で変更できます。ただし、展開アシスタントを使用してオプションを変更し、FileMaker でサポートされる PHP エンジンを使用できるようにする必要があります。[PHP Web サイトのホスト](#)を参照してください。
- PHP の独自のバージョンを使用する場合、PHP 公開を使用するために FileMaker API for PHP を手動でインストールする必要があります。詳細については、『FileMaker Server カスタム Web 公開 with PHP』を参照してください。

関連項目

[FileMaker Server の展開](#)

[Web 公開の有効化](#)

[FileMaker Server の展開の変更](#)

展開タイプの選択

この展開アシスタントの設定で、FileMaker Server コンポーネントの展開方式を選択します。FileMaker Server には、[データベースサーバー](#)、[Web 公開エンジン](#)、[Web サーバー](#)の3つのコンポーネントが含まれます。展開アシスタントを使用すると、これらのコンポーネントの1台、2台、3台のマシンでの展開をニーズに合わせて選択できます。

詳細については、[適切な展開タイプの選択](#)を参照してください。

展開タイプを選択するには、次の操作を行います。

1. [展開タイプ:] で、次のいずれかを選択します。

展開タイプ	展開の詳細
単一マシン	マスタ : すべての FileMaker Server コンポーネント
2台のマシン	マスタ: データベースサーバー ワーカー : Web 公開エンジンと Web サーバー
2台のマシン (代替)	マスタ: データベースサーバーと Web 公開エンジン ワーカー: Web サーバー
3台のマシン	マスタ: データベースサーバー ワーカー: Web 公開エンジン ワーカー: Web サーバー

2. [進む] をクリックして、次の手順に進みます。

[戻る] をクリックして、1つ前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックして展開アシスタントを終了します。

注意

- マスタマシンは、必ずデータベースサーバーを稼働しているマシンになります。
- 複数のマシンに FileMaker Server コンポーネントを展開する場合、ワーカーマシン上にソフトウェアをインストールし、次にマスタマシン上にインストールして展開プロセスをスムーズに進めます。

関連項目

[FileMaker Server の展開](#)

[ワーカーマシンの役割の割り当て](#)

ワーカーマシンの役割の割り当て

この展開アシスタントの設定で、ローカルネットワーク上に割り当てられていないワーカーマシンが検出され、各マシンの役割の横のリストに [IP アドレス](#) が表示されます。ワーカーマシンを、マシンの各役割 ([Web 公開エンジン](#) または [Web サーバー](#)) に割り当てます。

ワーカーマシンの役割を割り当てるには、次の操作を行います。

1. 割り当てが必要なマシンの役割の横の [マシン] リストで、割り当てられていないワーカーマシンの IP アドレスを選択します。
ワーカーのアドレスがリスト内にはない場合は、[再スキャン] をクリックします。次にワーカーがリストに表示されているかどうかを確認します。
2. まだワーカーの IP アドレスがリストに表示されない場合、[IP アドレス] にアドレスを入力し、[ルックアップ] をクリックします。
入力した IP アドレスは、このマシンへのアクセスが可能になり、利用可能なワーカーになると [マシン] リストに追加されます。
3. [進む] をクリックして、次の手順に進みます。
[戻る] をクリックして、1 つ前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックして展開アシスタントを終了します。

注意

- ファイアウォールの必要なポートが開かれていない場合、ワーカーマシンは表示されなくなります。[FileMaker Server によって使用されるポート](#) を参照してください。
- 複数のマシンに FileMaker Server コンポーネントを展開する場合、ワーカーマシン上にソフトウェアをインストールし、次に [マスタ](#) マシン上にインストールして展開プロセスをスムーズに進めます。
- ネットワークにワーカーマシンの IP アドレスが見つからない場合、[FileMaker Server によって使用されるポート](#) を参照してください。

関連項目

[FileMaker Server の展開](#)

[展開タイプの選択](#)

Web サーバーの指定

この展開アシスタントの設定で、Web 公開に使用する [Web サーバー](#) を指定します。

Web サーバー を指定するには、次の操作を行います。

1. [**Web サーバー**] で、使用する Web サーバーを選択します。

Web サーバーの設定を後で行う場合は、[この手順をスキップして、**Web サーバー**は後ほど選択します。] をクリックします。

注意 この手順をスキップする場合、Web 公開は利用できなくなり、後で [サーバー展開の編集] を使用して Web 公開を有効にする必要があります。

2. [**進む**] をクリックして、次の手順に進みます。

[**戻る**] をクリックして、1つ前の手順に戻るか、[**キャンセル**] をクリックして展開アシスタントを終了します。

注意

- 展開アシスタントで Web サーバーを検出できない場合、Web サーバーをインストールし、有効にしているかどうかを確認します。また、必要なファイアウォールが開かれているか確認します。開始ページの『FileMaker Server 入門ガイド』を参照してください。
- 複数のマシンに FileMaker Server コンポーネントを展開する場合、最初に [ワーカー](#) マシン上にソフトウェアをインストールし、次に [マスタ](#) マシン上にインストールして展開プロセスをスムーズに進めます。
- ネットワークに Web サーバーの IP アドレスが見つからない場合、[Web サーバーのテストの失敗](#) を参照してください。

関連項目

[FileMaker Server の展開](#)

Web サーバーのテストの失敗

指定した [Web サーバー](#) に展開アシスタントから通信できない場合、詳細を指定し、再度通信を試みてください。

Web サーバーの設定を変更するには、次の操作を行います。

1. 展開アシスタントの [**Web サーバーのテストに失敗**] の手順で、Web サーバーとの通信に使用する設定を指定します。

変更する項目	実行方法
プロトコル FileMaker Server で Web サーバーとの通信に使用される内容	[プロトコル] の場合、[HTTP] または [HTTPS] を選択します。Web サーバーの設定により HTTPS が使用される場合、[HTTPS] を選択して、FileMaker Server での [SSL] を経由した Web サーバーとの安全な通信を有効にします。
Web サーバーのホストアドレス	[ホスト] に、[IP アドレス] またはホスト名を入力します。
Web サーバーとの通信に使用するポート	[ポート] に、ポート番号を入力します。

2. [**再試行**] をクリックします。
3. [**Web サーバーのテストの結果**] を確認します。
 - 成功の場合、結果は [**Web サーバーのテストにパスしました。**] になります。
 - 失敗の場合、展開アシスタントは Web サーバーとの通信に失敗しています。このテストは、Web サーバーに HTTPS が必要になる、または 80 以外のポートを使用する場合に失敗する場合があります。この情報を再入力すると、Web サーバーとの通信を再度試みることができます。

Web ブラウザなどを使用して、[マスタマシン](#) から Web サーバーにアクセスできるか確認し、再度上記の手順を試みてください。

まだ失敗する場合は、[**この手順をスキップして、Web サーバーは後ほど選択します。**] をクリックします。
4. [**進む**] をクリックして、次の手順に進みます。

[**戻る**] をクリックして、1 つ前の手順に戻るか、[**キャンセル**] をクリックして展開アシスタントを終了します。

関連項目

[FileMaker Server の展開](#)

[Web サーバーの指定](#)

展開の概要

この展開アシスタントの手順で、FileMaker Server で展開の選択内容が実装される前に、この内容を確認します。

展開を確認するには、次の操作を行います。

- 展開の詳細に問題がなければ、[完了] をクリックします。

展開アシスタントにより、選択内容に沿って FileMaker Server が展開されます。これには数分を要します。

- または [戻る] をクリックして、1つ前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックして展開アシスタントを終了します。

注意

- [マスタ](#) マシンへの展開後も [Admin Console](#) が起動しない場合は、次の手順を試みてください。
 - 開始ページで、[Admin Console の開始] をクリックします。
 - マスタマシンで Web ブラウザを開き、「http://localhost:16000」と入力します。

関連項目

[FileMaker Server の展開](#)

[FileMaker Server の展開の変更](#)

適切な展開タイプの選択

使用する展開タイプは、次にまとめるように、主に Web 公開の負荷に依存します。Web 公開の負荷が大きい場合、FileMaker Server の展開を構成するマシンの台数が増加します。最初に数台のマシンを展開し、その後負荷が増加した場合、最大 3 台のマシンを使用する設定に展開を変更します。

FileMaker Server の構成	展開タイプ
FileMaker Pro クライアントのみ	1 台のマシン。複数のマシン展開による効果は得られない。
展開とテストのソリューション	1 台のマシン。複数のマシン展開による効果は得られない。
FileMaker Pro クライアントと中度の Web 公開負荷	1 台のマシン。ほとんどの環境で、十分な Web 公開の効果が得られる。Web 公開の負荷が増加すれば、複数マシン展開に拡張できる。 2 台のマシン（代替）。別のマシンの既存の Web サーバー を統合する必要がある場合に利用可能。
中から高度の Web 公開負荷	複数マシン。負荷の増加に従って、2 台から 3 台のマシンに拡張できる。
FileMaker Pro クライアントと高度の Web 公開負荷	複数マシン。 マスタマシン に、 データベースサーバー のみを展開。 1 台または 2 台の ワーカーマシン に、 Web 公開エンジン と Web サーバーを展開。 3 台のマシン。次の場合にのみ選択。 <ul style="list-style-type: none"> 2 台のマシン展開の性能改善と、2 台のマシン（代替）展開タイプによる独立した Web サーバーを結合する必要がある場合。 FileMaker Pro と動的な Web 公開トラフィック以外に大量の静的 Web トラフィックが予想される場合。

複数マシンの展開を検討する場合、3 台の構成により、各マシンに展開するコンポーネントを柔軟に決定できます。詳細については、開始ページの『FileMaker Server 入門ガイド』のを参照してください。

関連項目

[FileMaker Server の展開](#)

[展開タイプの選択](#)

[ワーカーマシンの役割の割り当て](#)

FileMaker Server のテスト

FileMaker Server の展開をテストする最も簡単な方法は、[テクノロジーテスト] ページを利用することです。このページのリンクをクリックすると、次に示すテクノロジーを使用してホストされる FMServer_Sample.fp7 データベースにアクセスできます。テストに成功すると、すべての FileMaker Server コンポーネントが動作していることとなります。

FileMaker Server の展開をテストするには、次の操作を行います。

1. テクノロジーテスト ページを開きます。

このページを表示する方法は次の2つです。

- Admin Console を起動し、[テストページを開く] アイコンをクリックします。



- Web ブラウザに次の URL を入力します。

`http://[マスタのホストまたは IP アドレス]:16000/test`

2. テストごとに、実行するリンクをクリックします。

目的	実行方法
FileMaker Pro のテスト	<p>[FileMaker Pro のテスト] をクリックします。</p> <p>FileMaker Pro が起動し、FileMaker Server でホストされるサンプルデータベースが正常に表示される場合、データベースサーバー が動作し、FileMaker Pro クライアントからのリクエストに回答しています。</p> <p>注意 テストを実行するマシンに、FileMaker Pro または FileMaker Pro Advanced がローカルにインストールされている必要があります。</p> <p>ヒント 同じテストを別の方法で実行できます。ネットワークに接続するマシンから FileMaker Pro を起動して、[ファイル] メニューで [共有ファイルを開く] をクリックしてテストするサーバーを選択し、FMServer_Sample.fp7 を選択します。</p>
インスタント Web 公開 のテスト	<p>[インスタント Web 公開のテスト] をクリックします。</p> <p>別の Web ブラウザウィンドウまたはタブが開かれ、サンプルデータベースが表示される場合、インスタント Web 公開が動作しています。</p> <p>注意 FileMaker Server Advanced ライセンスが必要です。</p>
PHP カスタム Web 公開 のテスト	<p>[PHP カスタム Web 公開のテスト] をクリックします。</p> <p>別の Web ブラウザウィンドウまたはタブが開かれ、サンプルデータベースのデータを示したテーブルが表示される場合、PHP によるカスタム Web 公開が動作しています。</p>

目的	実行方法
XSLT カスタム Web 公開のテスト	[XSLT カスタム Web 公開のテスト] をクリックします。 別の Web ブラウザウィンドウまたはタブが開かれ、サンプルデータベースのデータを示したテーブルが表示される場合、XSLT によるカスタム Web 公開が動作しています。

関連項目

[FileMaker Server の展開](#)

[データベースサーバーの設定](#)

[Web 公開の設定](#)

展開のステータスの確認

[**FileMaker Server の概要**] ウィンドウに、数秒ごとに更新される FileMaker Server の**展開**に関するリアルタイムなステータス情報が表示されます。

[**サーバーステータス情報**] エリアには、FileMaker Server の展開の全体的な状況が表示されます。

図には展開に使用されるマシンの台数と、各マシンの **IP アドレス**、**データベースサーバー**、**Web 公開エンジン**、**Web サーバー**のステータスが示されます。コンポーネント名の横のインジケータが赤い場合、コンポーネントが機能していないか、**マスタ**マシンが、コンポーネントが稼動している**ワーカー**マシンと通信できないことを示しています。

また図には、サポートされる Web 公開テクノロジーまたは **ODBC/JDBC** 共有が有効 (ON/OFF) になっているかどうかを示されます。

[**サーバー情報**] リストには、次の内容が示されます。

サーバー情報	説明
FileMaker Server ホスト名	FileMaker Server の展開に割り当てられた名前。名前を変更する場合は、 サーバー情報の設定 を参照してください。
サーバーバージョン	FileMaker Server のバージョン。
サーバー開始時間	サーバーが最後に起動したときの日付とタイムスタンプ。
ホストされたファイル	現在開かれているデータベースの数。
FileMaker Pro クライアント	FileMaker Pro を使用して接続するクライアントの数。
インスタント Web 公開 セッション	インスタント Web 公開 で使用されている Web 公開セッションの数。
カスタム Web 公開 セッション	カスタム Web 公開 で使用されている Web 公開セッションの数。 注意 [FileMaker Server の概要] ウィンドウに示されるセッション数は、統計ログと同じ間隔で更新された特定の時間の数です。このデータには、セッションが [クライアント] ウィンドウまたは [データベース] ウィンドウに表示されるのに必要な 5 秒のしきい値は適用されません。
ODBC/JDBC セッション	ODBC クライアントと JDBC クライアントで使用されているデータベースセッションの数。

展開内のマシンの数と役割を変更する場合は、[**サーバー展開の編集**] をクリックします。詳細については、[**FileMaker Server の展開の変更**] を参照してください。

Web 公開セッションの最大数を変更する場合は、[一般 Web 公開設定](#)を参照してください。

注意

- インスタント Web 公開および ODBC/JDBC を使用した共有には、FileMaker Server Advanced ライセンスが必要です。
- マシンをワーカーとして設定した後、マスタに変更する場合は、FileMaker Server をアンインストールしてから再インストールします。インストーラの [**マスタ/ワーカーの指定**] ダイアログボックスで、[**マスタ**] を選択します。既存のインストールの移動についての詳細は、開始ページの『FileMaker Server 入門ガイド』を参照してください。

関連項目

[トラブルシューティング](#)

[FileMaker Server の展開](#)

FileMaker Server の展開の変更

まず数台のマシンに展開した後、Web 公開の負荷が時間の経過とともに増加する場合、展開アシスタントを使用して、最大 3 台のマシンを使用する設定に FileMaker Server の展開を変更します。

FileMaker Server の展開を変更するには、次の操作を行います。

1. [FileMaker Server の概要] をクリックし、[サーバー展開の編集] リンクをクリックします。
展開アシスタントが起動します。

2. 変更の必要なオプションが表示されるまで、[進む] をクリックします。
展開アシスタントに、現在の選択内容が表示されます。

3. これらの展開アシスタントの設定で、選択内容を変更します。

- [Web 公開の有効化](#)
- [Web 公開テクノロジーの有効化](#)
- [展開タイプの選択](#)
- [ワーカーマシンの役割の割り当て](#)
- [Web サーバーの指定](#)

特定の Web 公開テクノロジーを有効または無効にする以外、上記の他の手順は展開アシスタントでのみ変更できます。他の設定は Admin Console ウィンドウの [設定] で変更できます。

4. [展開の概要] 手順で、選択内容を確認し、[完了] をクリックして選択内容を確認します。

FileMaker Server により展開の変更が実装されます。これには数分を要します。

[戻る] をクリックして、1 つ前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックして展開をキャンセルします。

注意

- [マスタ](#) マシンを変更する場合、FileMaker Server をアンインストールし、新しいマスタマシンに再インストールする必要があります。また、複数マシンの展開で、[ワーカー](#) マシンをアンインストールし、再インストールします。既存のインストールからの FileMaker Server のアップグレードまたは移動についての詳細は、開始ページの『FileMaker Server 入門ガイド』を参照してください。
- 2 台のマシンの展開に、もう一台ワーカーマシンを追加したり、1 台のマシンの展開に最大 2 台のワーカーマシンを追加することができます。
- また、既存の展開から、ワーカーマシンを削除することもできます。

関連項目

[FileMaker Server の展開](#)

Admin Console の起動

FileMaker Server 展開内の **マスタ** マシンにネットワークアクセスする Windows または Mac OS コンピュータで、FileMaker Server Admin Console を起動できます。FileMaker Server は、**Java Web Start** テクノロジーを使用して、Admin Console を軽量 Java クライアントとしてリモートコンピュータに送信します。

注意 リモートコンピュータにバージョン5以上の Java Runtime Environment がインストールされていなければ、Admin Console を起動できません。

Admin Console を起動するには、次の操作を行います。

1. Web ブラウザを開き、次のコマンドを入力します。

```
http://<ホスト>:16000
```

<ホスト>には、FileMaker Server 展開内のマスタマシンの **IP アドレス** または **ドメイン名** を指定します。

Admin Console の [開始ページ] が表示されます。

2. [**Admin Console** の起動] をクリックします。

admin_console_webstart.jsp ファイルがコンピュータにダウンロードされます。

3. Admin Console が起動する前に、セキュリティメッセージに応答する必要があります。セキュリティメッセージは、製品の信憑性を保証する署名付き証明書であり、Admin Console の起動が許可される必要があります。以降のプロセスでこのメッセージを非表示にするには、次の操作を行います。

- Windows: [この発行者からのコンテンツを常に信頼します。] を有効にし、[実行] をクリックします。
- Mac OS: [証明書を表示] をクリックし、[信頼設定] を開きます。[この証明書を使用するとき] で、[常に信頼する] を選択し、[信頼] をクリックします。

4. ショートカットを作成するダイアログボックスで、[はい] をクリックし、Admin Console を後で再起動するときに使用するショートカットを作成します。

Windows: デスクトップと、[FileMaker Server] 内の [開始] メニューに、ショートカットが作成されます。インストールされているバージョンに応じて、プロンプトが表示されずにショートカットが作成されます。

Mac OS: [はい] をクリックした後、保存ダイアログボックスで、ショートカットの名前と保存先を指定し、[保存] をクリックします。

ショートカットは、同じコンピュータから複数の FileMaker Server の展開を管理している場合に有効です。ショートカット名は「FMS9-」で始まり、展開 **アシスタント** で指定した FileMaker Server 名が続きます。

5. Admin Console [ログイン] ダイアログボックスに、Admin Console **アカウント** のユーザ名とパスワードを入力します。

Admin Console が起動し、[FileMaker Server の概要] ページが表示されます。

注意

- ショートカットごとに、特定の FileMaker Server 展開の Admin Console が起動します。マスタマシンの IP アドレスが変更された場合、ショートカットを削除し、Admin Console の「開始ページ」から再度 Admin Console を起動する必要があります。
- Admin Console は、常にマスタマシンの基本 OS インストールの言語で表示されます。Admin Console を稼働するマシンの言語設定には影響しません。
- Internet Explorer: 「開始ページ」が表示されない場合、ブラウザウィンド上部の [情報バー] をクリックし、Internet Explorer での Java Web Start ActiveX Control アドインの実行を許可します。
- Admin Console がまだ起動しない場合、ブラウザが Java Web Start ファイルをダウンロードした後に、起動していない可能性があります。Web ブラウザの設定で Java が有効になっているか、あるいはダウンロードされたファイルが自動的に開くかを確認します。また、ブラウザでダウンロードしたファイルが保存される admin_console_webstart.jnlp ファイルを検索することもできます。このファイルをダブルクリックして、Admin Console を起動します。

関連項目

[Admin Console の問題](#)

[FileMaker Server の概要](#)

データベースのホスト

FileMaker Pro データベースファイルを共有する前に、ホスト用のファイルを用意する必要があります。次の手順に、このプロセスの概要を説明しています。

1. クライアントが共有アクセスに使用するアカウントとアクセス権セットを編集します。[アカウントとアクセス権セットの編集](#)を参照してください。
2. データベースファイルを FileMaker Server に[アップロード](#)します。[データベースファイルのアップロード](#)を参照してください。
3. Admin Console の [データベース] ウィンドウで、ファイルの状態を確認し、FileMaker クライアントがファイルを使用できるかどうかを確認します。[FileMaker Pro クライアントによるデータベースの利用の確認](#)を参照してください。

注意

- FileMaker Pro 6 以前のバージョンで作成されたファイルは、FileMaker Pro 7 形式に変換する必要があります。FileMaker Pro バージョン 7、8、8.5、9 は、同じファイル形式を共有します。ファイルの変更の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。
- ホストされるデータベースが、外部 [SQL データソース](#) からデータにアクセスするように設計されている場合、データベースの作成時に、FileMaker Pro を稼働しているコンピュータに設定されたのと同じ [ODBC データソース名 \(DSN\)](#) を FileMaker Server [マスタ](#) マシンに設定する必要があります。[外部 ODBC データソースへのアクセス](#)を参照してください。
- ホストされるデータベースがサーバー側の[プラグイン](#)を使用している場合、またはクライアント側プラグインを自動的に更新する場合、FileMaker Server にもプラグインを配置する必要があります。[プラグインの管理](#)を参照してください。
- FileMaker Pro のピアトゥピアデータベース共有機能は、FileMaker Server が実行されているコンピュータと同じコンピュータ上では使用できません。
- 正しく閉じられなかった、または FileMaker 8 以降の製品で開かれたことがないファイルを FileMaker Server で開くと、FileMaker Server は各ファイルに対して一貫性チェックを実行し、イベントログに結果を記録します。
- 最大 125 の FileMaker Pro データベースファイルを FileMaker Server でホストし、FileMaker Server の起動時に自動的に開くことができます。

関連項目

[データベースの管理](#)

[ホストされたファイルの閉じ方](#)

[クライアントの管理](#)

[使用状況の表示](#)

[FileMaker Pro クライアントへのメッセージの送信](#)

[プラグインの自動更新の有効化](#)

アカウントとアクセス権セットの編集

FileMaker Pro で、クライアントが各データベースにアクセスする際に使用するアカウントと[アクセス権セット](#)を編集します。[ファイル]メニューの[管理]サブメニューから[アカウントとアクセス権...]を選択します。

- 特定の拡張アクセス権セットに対して、適切な[拡張アクセス権](#)を有効にします。拡張アクセス権を使用するアクセス権セットが割り当てられたすべての[アカウント](#)は、拡張アクセス権に関連付けられたプロトコル（[FileMaker ネットワークによるアクセス]など）によって、データベースにアクセスすることができます。アカウント、アクセス権、および拡張アクセス権の詳細については、『FileMaker Pro ユーザーズガイド』を参照してください。
- 必要に応じて、アクセス権の[アイドル状態の時 **FileMaker Server** から接続を解除]を有効にして、各アカウントに対して、アイドル状態のユーザを FileMaker Server から接続を解除できるようにするか、または接続を維持できるようにします。ユーザがアイドル状態のときに接続を解除するまでの時間を設定する方法の詳細については、[FileMaker Pro クライアントの設定](#)を参照してください。
- [外部認証](#)を使用する予定であれば、クライアントが共有アクセスに使用する FileMaker Pro の各アカウントを編集する必要があります。[アカウントの編集]ダイアログボックスで、[アカウントの認証方法:]から[外部のサーバー]を選択します。FileMaker Pro アカウントの外部認証を有効にする方法の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。外部認証をサポートする FileMaker Server の設定の詳細については、[データベースサーバーのセキュリティ設定](#)を参照してください。

関連項目

[データベースファイルのアップロード](#)

[FileMaker Pro クライアントによるデータベースの利用の確認](#)

[データベースのホスト](#)

データベースファイルのアップロード

データベースアップロード[アシスタント](#)を使用して、コンピュータのファイルシステムから FileMaker Server にデータベースファイルを転送し、オプションで FileMaker Server でファイルを開きます。

データベースファイルを **FileMaker Server** にアップロードするには、次の操作を行います。

1. 適切なアカウントとアクセス権セットが有効になっていることを確認します。
[アカウントとアクセス権セットの編集](#)を参照してください。
2. データベースファイルが開かれている場合、いったん閉じなければ[アップロード](#)できません。
3. [ツールバー](#)の [データベースのアップロード] アイコンをクリックして、データベースアップロードアシスタントを起動します。



4. データベースファイルを配置する FileMaker Server フォルダを選択します。または [サブフォルダの作成] をクリックして、新しいサブフォルダを作成します。

FileMaker Server は、デフォルトデータベースフォルダ内、および[デフォルトフォルダの設定](#)の説明に従って指定する、オプション追加データベースフォルダ内のデータベースファイルをホストします。また、いずれかのフォルダに1レベルのサブフォルダを作成できます。

5. [データベースの追加] をクリックし、FileMaker Server にアップロードする1つまたは複数のデータベースを選択して [選択] をクリックします。

重要 データベースファイルを閉じなければアップロードできません。FileMaker Pro でデータベースを開いている場合は各ファイルについて、[ファイル] メニューの [閉じる] を選択します。

詳細については、[アップロードするデータベースの選択](#)を参照してください。

6. [進む] をクリックします。
7. アップロードの終了後すぐに FileMaker Server でデータベースを開く場合は、[アップロード後にデータベースを自動的に開く] を選択します。

詳細については、[アップロードオプションの指定](#)を参照してください。

8. [進む] をクリックします。
9. アップロードの進行状況を確認します。終了後、[進む] をクリックします。

詳細については、[データベースのアップロードステータスの表示](#)を参照してください。

10. アップロードされたデータベースファイルの状態を確認し、[完了] をクリックします。

詳細については、[アップロードの概要の確認](#)を参照してください。

詳細な指示については、データベースアップロードアシスタントで [ヘルプ] ボタンをクリックします。

注意

- データベースアップロードアシスタントは、別の方法でも起動できます。
 - [サーバー] メニューをクリックして、[データベースのアップロード] を選択します。

- [データベースの処理:]メニューから[アップロード]を選択し、[処理の実行]をクリックします。
- マウスを[データベース]ウィンドウに合わせ、右クリックして[アップロード]を選択します。
- アップロードの終了後、データベースで何らかの形態の共有が有効になっているか、[データベースサーバー](#)で確認されます。共有が有効になっていない場合、データベースサーバーにより、完全アクセス権セットで FileMaker ネットワークを通じた共有が自動的に有効になります ([拡張アクセス権](#) fmapp)。
- すでにホストされているデータベースを削除する方法についての詳細は、[ホストされているファイルの削除](#)を参照してください。
- .fp7 または登録済みのランタイムソリューションのファイル名拡張子を持つファイルのみアップロードできます。登録済みランタイムファイルタイプの詳細については、[データベースの設定](#)を参照してください。
- ファイル名は、フォルダまたはサブフォルダとは関係なく、サーバー全体で固有でなければなりません。
- データベースファイルは、手動で FileMaker Server にコピーすることもできます。[データベースファイルの手動によるアップロード](#)を参照してください。
- Mac OS では、データベースアップロードアシスタントによりファイルオーナーが `fmserver` に、グループが `fmsadmin` に自動的に設定されます。オーナーとグループには、いずれも読み取りと書き込みアクセス権がありますが、その他に付与されているのは読み取りアクセス権のみです。データベースを手動でアップロードする場合、所有権とアクセス権を自分で設定する必要があります。

関連項目

[FileMaker Pro クライアントによるデータベースの利用の確認](#)
[データベースのホスト](#)

データベースファイルの手動によるアップロード

FileMaker Pro データベースファイルは、データベースアップロード[アシスタント](#)を使用せずに手動で FileMaker Server にコピーすることができます。ただし、次のいずれかの操作を必ず行ってください。

- 正しい場所にデータベースファイルを配置する。
- ファイルのグループ所有権を変更する (Mac OS のみ)。

重要 ホストされたファイルを移動、コピー、または名前変更する必要がある場合は、必ず最初にファイルを閉じてください。

正しい場所にデータベースファイルを配置する

FileMaker Server で開く FileMaker Pro データベースファイル、あるいはそれらのファイルへのショートカット (Windows) またはエイリアス (Mac OS) は、次のフォルダに配置します。

- Windows: [ドライブ]:\Program Files\FileMaker\FileMaker Server\Data\Databases\
- Mac OS: /ライブラリ/FileMaker Server/Data/Databases/

または、オプションで指定した追加データベースフォルダにファイルを配置することもできます。[デフォルトフォルダの設定](#)を参照してください。

ファイルのグループ所有権を変更する (Mac OS)

Mac OS から共有するファイルで、fmsadmin グループに属するようにファイルを変更します。Mac OS から共有するデータベースを編集するには、ファイルで、グループによる [読み/書き] アクセス権も有効になっている必要があります。

詳細については、「[ユーザ、グループ、およびアクセス権 \(Mac OS\)](#)」を参照してください。

注意 データベース、バックアップ、スクリプトファイル、または[プラグイン](#)が含まれる Mac OS のサブフォルダも、fmsadmin グループによって読み込み、および実行可能でなければなりません。データベースと[バックアップ](#)フォルダは、バックアップと[アップロード](#)時に fmsadmin グループによる書き込みが可能になる必要があります。環境設定や追加ファイルのフォルダを使用するプラグインやスクリプトでは、それらのファイルやフォルダへの書き込みアクセス権が必要になる場合があります。

関連項目

[データベースファイルのアップロード](#)

[FileMaker Pro クライアントによるデータベースの利用の確認](#)

[プラグインの自動更新の有効化](#)

ユーザ、グループ、およびアクセス権 (Mac OS)

注意 データベースアップロード [アシスタント](#) により、Mac OS に正しい所有権およびアクセス権が自動的に設定されます。この節では、データベースを手動で [アップロードする](#) 場合にのみ実行する操作内容について説明します。

インストールの際に、fmserver ユーザと fmsadmin グループが作成されます。fmsadmin グループには、FileMaker Server でホストする FileMaker Pro データベースに対する [読み/書き] アクセス権が必要です。fmsadmin グループのメンバーがデータベースを編集できるようにグループアクセス権を変更する必要があります。

デフォルトでは、次の操作は、FileMaker Server をインストールした Mac OS X ユーザ [アカウント](#) のみが実行できます。

- コマンドラインから FileMaker Pro を手動で操作する
- FileMaker Server フォルダにファイルを追加する、またはファイルを削除する
- FileMaker Server のデフォルトデータベースフォルダまたは [バックアップ](#) フォルダに保存されている FileMaker Pro データベースにアクセスする

注意 ただし正しいログインを行ったユーザは、FileMaker Server Admin Console アプリケーションにアクセスできます。

FileMaker Server とデータベースファイルの操作を他のユーザアカウントに許可するには、[NetInfo](#) マネージャまたはターミナルアプリケーションを使用して、ファイルを fmsadmin グループに追加できます。この作業は、管理アクセス権を持つユーザが実行する必要があります。

Mac OS X 10.4 の NetInfo マネージャを使用して、fmsadmin グループにユーザを追加するには、次の操作を行います。

注意 Mac OS X Server を使用している場合は、ワークグループマネージャの管理ツールを使用して、ユーザを fmsadmin グループに追加することができます。

1. NetInfo マネージャアプリケーション ([/アプリケーション/ユーティリティ /NetInfo マネージャ /]) を起動します。
2. 2番目の列 ([/] というラベルが付いています) で **[groups]** を選択します。
3. [groups] 列で **[fmsadmin]** を選択します。
4. NetInfo マネージャのウィンドウの下半分にある [プロパティ] で **[users]** を選択します。
5. カギのアイコンをクリックして、管理パスワードを入力します。
6. [ディレクトリ] メニューから [値の挿入] を選択します。
7. 追加するユーザのログインアカウント名を入力します。
8. [ドメイン] メニューから [変更内容を保存] を選択します。
9. [変更の確認] 警告ボックスで、[このコピーのアップデート] をクリックして、変更内容を確認します。
10. **[NetInfo マネージャ]** メニューから **[NetInfo マネージャを終了]** を選択します。

fmsadmin グループにユーザを追加する方法の詳細については、サポートインフォメーションおよび FileMaker Knowledge Base を参照してください。[カスタマサポートとデータベース](#) を参照してください。

重要 次の手順は、ターミナルアプリケーションに精通している上級ユーザにのみお勧めします。管理アクセス権を使用してログインする必要があります。

ターミナルアプリケーションを使用して `fmsadmin` グループにユーザを追加するには、次の操作を行います。

1. ターミナルアプリケーション (/アプリケーション/ユーティリティ/ターミナル) を起動します。

2. コマンドラインで次のコマンドを入力します。

```
sudo dseditgroup -o edit -a username -t user fmsadmin
```

`username` には、`fmsadmin` グループに追加する既存のユーザの名前を指定します。

FileMaker Server でホストするデータベースファイルのグループアクセス権を変更するには、次の操作を行います。

1. フォルダ `/FileMaker Server/Data/Database/`、またはオプションの追加データベースフォルダにデータベースファイルを配置します。
2. ターミナルアプリケーションを起動し、必要に応じて `cd` コマンドを使用してパスを設定します。
3. コマンドラインで次のコマンドを入力します。

```
chmod g+rw <ファイル名>.fp7
```

`ファイル名` には、データベースの名前を指定します。

ファイルまたはフォルダのグループを `fmsadmin` グループに変更するには、次の操作を行います。

1. ターミナルアプリケーションを起動し、必要に応じて `cd` コマンドを使用してパスを設定します。
2. コマンドラインで次のコマンドを入力します。

```
chgrp fmsadmin <ファイルパス>
```

例: `chgrp fmsadmin dbfile.fp7`

関連項目

[アカウントとアクセス権セットの編集](#)

[データベースファイルのアップロード](#)

[FileMaker Pro クライアントによるデータベースの利用の確認](#)

アップロードするデータベースの選択

重要 データベースファイルを閉じなければ、[アップロード](#)できません。FileMaker Pro で開いているデータベースファイルをアップロードすると、データが損失する場合があります。FileMaker Pro でデータベースを開いている場合、各ファイルについて、[ファイル]メニューの[閉じる]を選択します。

1. データベースファイルを配置する FileMaker Server フォルダを選択します。

FileMaker Server は、デフォルトデータベースフォルダ内、および[デフォルトフォルダの設定](#)の説明に従って指定する、追加データベースフォルダ内のデータベースファイルをホストします。

または、デフォルトのデータベースフォルダ、または追加データベースフォルダにサブフォルダを作成できます。デフォルトまたは追加データベースフォルダを選択し、[サブフォルダの作成]をクリックして新規サブフォルダを作成します。ダイアログボックスに新しいフォルダの[名前](#)を入力し、[OK]をクリックします。

2. [データベースの追加]をクリックし、データベースの選択ダイアログを開きます。
3. ローカルファイルシステムで、アップロードする1つまたは複数のデータベースファイルを選択し、[選択]をクリックします。

ヒント Ctrl キー (Windows) または ⌘-click (Mac OS) を押しながら、複数のファイルを選択します。

データベースアップロード[アシスタント](#)に、選択したフォルダにアップロードするデータベースが太字で表示されます。

4. リストからデータベースを削除するには、データベースを選択し、[削除]をクリックします。

アップロードされていないデータベースのみ、リストから削除できます。リストからデータベースを削除しても、データベースファイルが削除されたり、変更されることはありません。またサブフォルダも同様に削除できます。

5. [進む]をクリックして、データベースを開くオプションを指定します。

[キャンセル]をクリックして、データベースアップロードアシスタントを終了します。

注意

- .fp7 または登録済みのランタイムソリューションのファイル名拡張子を持つファイルのみアップロードできます。フォルダ、またはアプリケーションパッケージ (Mac OS) をアップロードすることはできませんが、同じフォルダ内の複数のファイルを選択し、1度にアップロードすることができます。
- データベースアップロードアシスタントを使用して、ホストされるファイルを上書きできません。ホストされるファイルを、同じファイル名を持つ別のファイルで置換する場合は、ホストされるファイルを閉じて削除し、その後で新しいファイルをアップロードする必要があります。
- すでにホストされているデータベースを削除する方法についての詳細は、[ホストされているファイルの削除](#)を参照してください。
- データベースファイルは、アップロードする前に、Windows または Mac OS に書き込む必要があります (Mac OS ではアンロックも必要)。読み込み専用ファイル、またはロックされたファイルをアップロードする場合、警告メッセージが表示されます。読み込み専用ファイルを書き込み可能にする方法、およびファイルをアンロックする方法については、Windows ヘルプまたは Mac OS ヘルプを参照してください。

データベースのホスト

データベースファイルのアップロード

関連項目

[データベースファイルのアップロード](#)

アップロードオプションの指定

1. オプションで、[\[アップロード後にデータベースを自動的に開く\]](#)を選択できます。

[アップロード](#)の終了後に、このオプションを選択し、すべてのファイルを開きます。このオプションを選択しない場合、アップロードされたデータベースは閉じたままです。ファイルを後で開く場合は、[ホストされているファイルの開き方](#)を参照してください。

2. [\[進む\]](#)をクリックして、データベースのアップロードを開始します。

[\[戻る\]](#)をクリックして、1つ前のウィンドウに戻るか、[\[キャンセル\]](#)をクリックしてデータベースアップロード[アシスタント](#)を終了します。

注意 データベースアップロードアシスタントにより、データベースで何らかの形態の共有が有効になっているかどうかを確認されます。共有が有効になっていない場合、[データベースサーバー](#)により、完全アクセス[権セット](#)で FileMaker ネットワークを通じた共有が自動的に有効になります ([拡張アクセス権](#) fmapp)。

関連項目

[データベースファイルのアップロード](#)

データベースのアップロードステータスの表示

[アップロード](#)の間、進行状況を表示できます。アップロードが終了すると、次の作業が可能です。

- データベースのアップロードが正常に終了した後、[進む]をクリックします。
- アップロードに失敗したら、[戻る]をクリックして1つ前の手順に戻り、問題を訂正します。
- [キャンセル]をクリックして、データベースアップロード[アシスタント](#)を終了します。

注意 アップロードを停止する場合、進行状況メーターの横の[キャンセル]をクリックします。アップロードが停止し、FileMaker Server によりこの操作でアップロードされたすべてのファイルが破棄されます。

関連項目

[データベースファイルのアップロード](#)

アップロードの概要の確認

正常に[アップロードされた](#)データベースファイルは、[状態]列に **OK** が表示されます。エラーが発生した場合、[メッセージ]列に関連するデータベースのアップロードの問題が記述されます。

- [完了]をクリックして、データベースアップロード[アシスタント](#)を終了します。
[戻る]をクリックし、1つ前のウィンドウに戻ります。

注意 アップロードは、データベースが開いているため失敗します。コンピュータ上の [FileMaker Pro](#) でデータベースを開いている場合、[ファイル]メニューで[閉じる]を選択し、データベースのアップロードを再度試みます。

関連項目

[データベースファイルのアップロード](#)

FileMaker Pro クライアントによるデータベースの利用の確認

FileMaker Server は、起動時に、デフォルトデータベースフォルダおよび追加データベースフォルダ（指定されている場合）にある FileMaker Pro データベースをすべて自動的に開いてホストします。[データベース] ウィンドウで、データベースは [状態] 列で [正常] と表示されます。

FileMaker Server の起動時にデータベースが開かれ、FileMaker Pro クライアントがデータベースを利用できるかどうかを確認する場合は、次の点を確認します。

- [データベース] ウィンドウ内のファイルの状態、[正常] と表示される。
- [Pro] 列に、チェックマークが表示される（fmapp [拡張アクセス権](#)が1つ以上の[アカウント](#)に設定されている）。
- FileMaker Pro で共有ファイルを開くことができる。
- [Event.log](#)（または Windows の [イベントビューア](#)）で、ファイルの表示に関する FileMaker Server メッセージを確認します。

[データベース] ウィンドウに表示されるファイルのステータスを確認するには、次の操作を行います。

1. FileMaker Server Admin Console を起動します。[Admin Console の起動](#)を参照してください。

2. [データベース] をクリックします。

起動後にデフォルトデータベースフォルダに手動でファイルを追加している場合、それらのファイルは [閉じました] と表示され、手動で表示する必要があります。

3. データベースの状態が [閉じました] の場合、データベースを選択します。[処理:] で、[開く] を選択します。

4. [処理の実行] をクリックします。

大容量ファイルを開く場合は、数分間を要する場合があります。正しく閉じられなかった、または FileMaker 8 以降の製品で開かれたことがないファイルを FileMaker Server で開くと、FileMaker Server は各ファイルに対して一貫性チェックを実行し、イベントログに結果を記録します。

ヒント データベースを格納したフォルダが閉じられている場合、フォルダの横のハンドルをクリックして開きます。データベースがまだ表示されない場合、[データベース] ウィンドウを更新する必要があります。[データベース] を選択し、[リストを更新] をクリックします。

5. [Pro] 列にチェックマークが表示されない場合、FileMaker Pro で、ホストされているデータベースを開くことができるユーザはいません。サーバーでファイルを閉じ、FileMaker Pro で開いてから、必要なアカウントの fmapp [拡張アクセス権](#)を有効にする必要があります。

データベースが使用不可能であることを **FileMaker Pro** クライアントコンピュータから確認するには、次の操作を行います。

1. FileMaker Pro または FileMaker Pro Advanced を起動します。

2. [ファイル] メニューから [共有ファイルを開く ...] を選択します。

3. [表示:] メニューから [ローカルホスト] を選択して、一覧からサーバーを選択します。右側の列に、データベースの名前が表示されます。

データベースが表示されない場合、上記の手順、および [データベースのホスト確認](#)してください。

関連項目

[アカウントとアクセス権セットの編集](#)

[データベースファイルのアップロード](#)

[ODBC および JDBC 経由での FileMaker データベースの共有](#)

[XSLT Web サイトのホスト](#)

[PHP Web サイトのホスト](#)

[ホストされたファイルの閉じ方](#)

Web サイトのホスト

FileMaker Server では、次の方法で Web に FileMaker データベースを公開できます。

目的	使用するオプション	参照先
PHP Web アプリケーションの FileMaker API for PHP を使用して、FileMaker データにアクセスします。	PHP を使用した カスタム Web 公開	PHP Web サイトのホスト
Web ブラウザまたはその他のアプリケーションで使用する XSLT スタイルシートを使用して、FileMaker データベースの XML データを変換、フィルタ処理、書式設定します。	XSLT を使用したカスタム Web 公開	XSLT Web サイトのホスト
HTTP リクエストを XML クエリーコマンドと引数と同時に送信し、FileMaker データを XML ドキュメントとして取り出します。	XML を使用したカスタム Web 公開	XML クエリーのデータベースのホスト
FileMaker Pro で実行する場合と非常に似た外観および機能を持つ Web で、FileMaker データベースを迅速かつ容易に公開します。	インスタント Web 公開 (FileMaker Server Advanced ライセンスが必要)	インスタント Web 公開の使用

PHP Web サイトのホスト

PHP カスタム Web 公開では、PHP スクリプト言語を使用して、FileMaker データベースのデータをカスタマイズした Web ページレイアウトに統合できます。Web ページで、FileMaker [API](#) for PHP を呼び出します。この PHP クラスは、FileMaker Server でホストされるデータベースにアクセスする FileMaker により作成されます。この PHP クラスは、[Web 公開エンジン](#)に接続し、[Web サーバーの](#) PHP エンジンでデータ利用を可能にします。

PHP Web サイトの開発と、データベースの準備の詳細については、開始ページの『FileMaker Server カスタム Web 公開 with PHP』を参照してください。

PHP カスタム Web 公開を使用する Web サイトをホストするには、次の操作を行います。

1. FileMaker Pro で、データベースを開き、データベースにアクセスする [アカウントのアクセス権セット](#)を編集します。[拡張アクセス権 \[PHP Web 公開でのアクセス – FMS のみ\]](#)を有効にします。

注意 FileMaker データベースソリューションで複数の FileMaker データベースファイルが使用される場合、すべてのデータベースファイルが、[拡張アクセス権 \[PHP Web 公開でのアクセス – FMS のみ\]](#)を有効にしてこのアクセス権セットを使用する必要があります。

2. FileMaker Server Admin Console で、展開 [アシスタント](#)を使用して、PHP を使用したカスタム Web 公開を有効にし、まだ選択していない場合は、FileMaker でサポートされる PHP エンジンをインストールするかどうかを選択します。

[FileMaker Server の概要] ウィンドウで、[[サーバー展開の編集](#)] をクリックします。展開アシスタントで、設定を確認し、「Web 公開テクノロジーを有効にする」の手順に移動するまで [[進む](#)] をクリックします。詳細については、「[Web 公開テクノロジーの有効化](#)」を参照してください。

3. Admin Console で、[[Web 公開](#)] の [[PHP](#)] タブで設定を編集します。

PHP を使用したカスタム Web 公開の設定の詳細については、[PHP Web 公開設定](#)を参照してください。

4. PHP を使用したカスタム Web 公開が、FileMaker Server の [展開](#)で動作していることを確認します。手順については、[FileMaker Server のテスト](#)を参照してください。

5. データベースアップロードアシスタントで、FileMaker Server にデータベースファイルを [アップロード](#)します。[データベースのホスト](#)を参照してください。

注意 FileMaker データベースソリューションで複数の FileMaker データベースファイルを使用する場合、データベースファイルはすべて同じコンピュータ上にある必要があります。

6. Web サーバーを稼働している FileMaker Server の展開内のコンピュータで、Web サーバーソフトウェアの Web サーバーのルートフォルダに、PHP ファイルをコピーします。

- IIS (Windows) : [ドライブ]:\inetpub\wwwroot
- Apache (Mac OS) : /ライブラリ /WebServer/Documents

注意 PHP ファイルは、Web サーバールートフォルダ内のオプションフォルダ、またはフォルダ階層に保存することもできます。

7. Web サーバーコンピュータに、参照されているオブジェクトをコピーまたは移動します。

データベースの [オブジェクトフィールド](#)に実際のファイルではなくファイル参照が保存されている場合、レコードを作成または編集するときに、その参照されているオブジェクトが「FileMaker Pro

Web] フォルダに保存されます。FileMaker Server でサイトをホストするには、参照されているオブジェクトを、Web サーバーソフトウェアのルートフォルダ内の同じ相対パスのフォルダにコピーまたは移動します。

注意 データベースファイルが FileMaker Server 上で適切にホストされていてアクセス可能であれば、FileMaker データベースのオブジェクトフィールドに実際のファイルが保存されている場合は、オブジェクトフィールドの内容を操作する必要はありません。

8. PHP Web サイトにアクセスするには、次の URL 構文を使用します。

<スキーム>://<ホスト>[:<ポート>]/<パス>/<ファイル名>

各要素の意味は、次のとおりです。

- <スキーム> は、HTTP または HTTPS プロトコルです。
- <ホスト> には、Web サーバーがインストールされているホストコンピュータの [IP アドレス](#) または [ドメイン名](#) を指定します。
- <ポート> には、Web サーバーのポートを指定します（オプション）。ポートが指定されていない場合は、プロトコルのデフォルトのポート（HTTP ではポート 80、HTTPS ではポート 443）とされます。
- <パス> には、PHP ファイルが配置されている Web サーバーのルートフォルダ内のフォルダを指定します（オプション）。
- <ファイル名> は、Web サイトのページのファイル名です。

例：

`http://192.168.123.101/my_site/home.php`

関連項目

[PHP Web 公開設定](#)

[Web サイトのホスト](#)

XSLT Web サイトのホスト

XSLT を使用したカスタム FileMaker カスタム Web 公開では、**XML** データを変換、フィルタ、または書式設定して、Web ブラウザや他のアプリケーションで使用できます。XSLT スタイルシートを使用して、FileMaker XML 文法と他の XML 文法の間でデータを変換して、他のアプリケーションやデータベースで使用できます。

XSLT Web サイトの開発と、データベースの準備の詳細については、開始ページの『FileMaker Server カスタム Web 公開 with XML and XSLT』を参照してください。

XSLT カスタム Web 公開を使用する **Web サイト**をホストするには、次の操作を行います。

1. FileMaker Pro で、データベースを開き、データベースにアクセスする [アカウントのアクセス権セット](#)を編集します。[拡張アクセス権 \[XSLT Web 公開でのアクセス – FMS のみ\]](#)を有効にします。

注意 FileMaker データベースソリューションで複数の FileMaker データベースファイルが使用される場合、すべてのデータベースファイルが、[拡張アクセス権 \[XSLT Web 公開でのアクセス – FMS のみ\]](#)を有効にしてこのアクセス権セットを使用する必要があります。

2. FileMaker Server Admin Console で、**[Web 公開]**の**[XSLT]**タブを使って XSLT Web 公開を有効にし、設定します。
3. XSLT を使用したカスタム Web 公開が、FileMaker Server の**展開**で動作していることを確認します。手順については、[FileMaker Server のテスト](#)を参照してください。
4. データベースアップロード [アシスタント](#)で、FileMaker Server にデータベースファイルを [アップロード](#)します。[データベースのホスト](#)を参照してください。

注意 FileMaker データベースソリューションで複数の FileMaker データベースファイルを使用する場合、データベースファイルはすべて同じコンピュータ上にあることが必要です。

5. XSLT スタイルシートを、[Web 公開エンジン](#)を稼働しているコンピュータ上の次のディレクトリにコピーします。
 - Windows: [ドライブ]:\Program Files\FileMaker\FileMaker Server\Web Publishing\xslt-template-files
 - Mac OS: /ライブラリ/FileMaker Server/Web Publishing/xslt-template-files

注意 スタイルシートは、「xslt-template-files」フォルダ内のオプションのフォルダまたはフォルダ階層に保存することもできます。

6. [Web サーバー](#)コンピュータに、参照されているオブジェクトをコピーします。

データベースの [オブジェクトフィールド](#)に実際のファイルではなくファイル参照が保存されている場合、レコードを作成または編集するときに、その参照されているオブジェクトが FileMaker Pro の「Web」フォルダに保存されます。サイトをステージングするには、参照されているオブジェクトを、Web サーバーソフトウェアのルートフォルダ内の同じ相対パスの場所にコピーまたは移動します。

注意 データベースファイルが FileMaker Server 上で適切にホストされていてアクセス可能であれば、FileMaker データベースのオブジェクトフィールドに実際のファイルが保存されている場合は、オブジェクトフィールドの内容を操作する必要はありません。

7. 次の URL 構文を使用して XSLT スタイルシートを要求および処理し、表示される HTML を生成します。

<スキーム>://<ホスト>[:<ポート>]/fmi/xsl/<パス>/<スタイルシート>.xsl[?<クエリー文字列>]

各要素の意味は、次のとおりです。

- <スキーム> は、HTTP または HTTPS プロトコルです。
- <ホスト> には、Web サーバーがインストールされているホストコンピュータの [IP アドレス](#) または [ドメイン名](#) を指定します。
- <ポート> には、Web サーバーのポートを指定します（オプション）。ポートが指定されていない場合は、プロトコルのデフォルトのポート（HTTP ではポート 80、HTTPS ではポート 443）とされます。
- <パス> はオプションで、XSLT スタイルシートが保存されている「xslt-template-files」フォルダ内のフォルダを指定します。
- <スタイルシート> は、スタイルシートの名前と拡張子 .xsl です。
- <クエリー文字列> には、XSLT を使用したカスタム Web 公開で使用する 1 つのクエリーコマンドと 1 つまたは複数のクエリー引数の組み合わせを指定することができます。

関連項目

[XSLT Web 公開設定](#)

[Web サイトのホスト](#)

XML クエリーのデータベースのホスト

XML を使用した FileMaker カスタム Web 公開を使用する場合、FileMaker Server へのクエリーリクエストの送信、応答データの表示、変更、操作を必要に応じて実行できます。適切なクエリーコマンドと引数を指定した HTTP リクエストを使用して、FileMaker データを XML ドキュメントとして取得できます。

データベースの準備と XML データへのアクセスの詳細については、開始ページの『カスタム Web 公開 with XML and XSLT』を参照してください。

XML カスタム Web 公開を使用するデータベースをホストするには、次の操作を行います。

1. FileMaker Pro で、データベースを開き、データベースにアクセスする [アカウントのアクセス権セット](#)を編集します。[拡張アクセス権 \[XML Web 公開でのアクセス – FMS のみ\]](#)を有効にします。

注意 FileMaker データベースソリューションで複数の FileMaker データベースファイルが使用される場合、すべてのデータベースファイルが、[拡張アクセス権 \[XML Web 公開でのアクセス – FMS のみ\]](#)を有効にしてこのアクセス権セットを使用する必要があります。

2. FileMaker Server Admin Console で、**[Web 公開]**の **[XML]** タブを使用して **[XML 公開を有効にする]**を選択します。
3. カスタム Web 公開のデータベースを準備します。詳細については、『FileMaker Server カスタム Web 公開 with XML and XSLT』を参照してください。
4. データベースアップロード [アシスタント](#)で、FileMaker Server にデータベースファイルを [アップロード](#)します。[データベースのホスト](#)を参照してください。

注意 FileMaker データベースソリューションで複数の FileMaker データベースファイルを使用する場合、データベースファイルはすべて同じコンピュータ上にある必要があります。

5. HTML フォーム、HREF リンク、またはプログラムや Web ページ内のスクリプトを使用して、FileMaker XML 文法、1つのクエリーコマンド、および1つまたは複数の FileMaker クエリーパラメータを指定した URL の形式で、HTTP または HTTPS リクエストを [Web 公開エンジン](#)に送信します。Web ブラウザに URL を入力することもできます。

XML データの URL の指定の詳細については、『FileMaker Server カスタム Web 公開 with XML and XSLT』を参照してください。

関連項目

[XML Web 公開設定](#)

[Web サイトのホスト](#)

インスタント Web 公開の使用

インスタント Web 公開を使うと、データベースをすばやく簡単に Web 上で公開することができます。データベースファイルを変更したり、他のソフトウェアをインストールする必要はありません。互換性のある Web ブラウザソフトウェアを所有し、インターネットまたはイントラネットにアクセス可能なユーザは、データベースに接続して、レコードの表示、編集、ソート、および検索を行うことができます。ただし、その場合にはこれらの操作を行うための[アクセス権](#)が必要となります。

注意 インスタント Web 公開は、FileMaker Server Advanced ライセンスを保有している場合にのみ利用できます。

インスタント Web 公開で正しく機能する FileMaker Pro データベースの開発の詳細については、開始ページの『FileMaker インスタント Web 公開ガイド』を参照してください。

インスタント Web 公開を使用して Web サイトをホストするには、次の操作を行います。

1. FileMaker Pro で、データベースを開き、データベースにアクセスする[アカウントのアクセス権セット](#)を編集します。[拡張アクセス権](#) [インスタント Web 公開でのアクセス] を有効にします。

注意 FileMaker データベースソリューションで複数の FileMaker データベースファイルが使用される場合、すべてのデータベースファイルが、[拡張アクセス権](#) [インスタント Web 公開でのアクセス] を有効にしてこのアクセス権セットを使用する必要があります。

2. データベースアップロード[アシスタント](#)で、FileMaker Server にデータベースファイルを[アップロード](#)します。[データベースのホスト](#)を参照してください。

注意 FileMaker データベースソリューションで複数の FileMaker データベースファイルを使用する場合、データベースファイルはすべて同じコンピュータ上にある必要があります。

3. FileMaker Server Admin Console で、[Web 公開] の [インスタント Web 公開] タブを使ってインスタント Web 公開を有効にし、設定します。
4. (オプション) Web ユーザがセッションのログアウト時、またはセッションのタイムアウト時に表示されるデフォルトのデータベースホームページを置き換えることができます。

[Web 公開エンジン](#)を稼働しているコンピュータ上の次の場所に、カスタムホームページ iwp_home.html を配置します。

- Windows: [ドライブ]:%Program Files%FileMaker%FileMaker Server%Web Publishing%IWP
- Mac OS: /ライブラリ/FileMaker Server/Web Publishing/IWP

5. FileMaker データベースに静的 HTML ページ、イメージ、その他の外部参照ファイルを使用している場合、それらのファイルを [Web サーバー](#)ソフトウェアのルートフォルダに移動する必要があります。相対パスが保持されていることを確認します。

- IIS (Windows) の場合は、ファイルを [ドライブ]:%inetpub%wwwroot に移動します。
- Apache (Mac OS) の場合は、ファイルを /ライブラリ/WebServer/Documents に移動します。

6. データベースがインスタント Web 公開を使用して公開されることをテストします。Web ブラウザに次の URL を入力します。

http://<アドレス>/fmi/iwp

<アドレス>には、Web サーバーの [IP アドレス](#)かホスト名を指定します。

関連項目

[インスタント Web 公開設定](#)

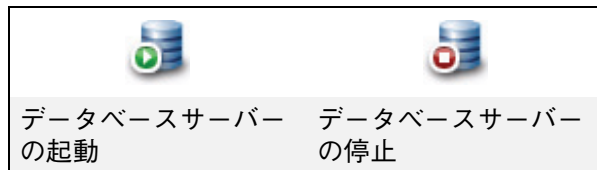
[Web サイトのホスト](#)

FileMaker Server の起動と停止

Admin Console を使用すると、[データベースサーバー](#)や [Web 公開エンジン](#)を、マシンを再起動することなく個別に起動、停止することができます。

[データベースサーバー](#)を起動または停止するには、次の操作を行います。

Admin Console で、[\[ツールバー\]](#) アイコンの1つをクリックします。



[Web 公開エンジン](#)を起動または停止するには、次の操作を行います。

Admin Console で、[\[ツールバー\]](#) アイコンの1つをクリックします。



注意

- データベースサーバーの起動時に、同じマシン上ですでに [FileMaker Pro](#) が稼働している場合、データベースサーバーは起動しますが、突然停止します。FileMaker Pro を停止してから、データベースサーバーを起動してください。この問題が解消されない場合は、コンピュータを再起動し、データベースサーバーを起動してから、FileMaker Pro を起動してください。
- 容量の大きいファイル、または多くのクライアントが接続しているファイルがある場合、データベースサーバーを閉じる処理には数分かかることがあります。問題が発生した場合は、クライアントの接続を解除してください。詳細については、「[クライアントの接続解除](#)」を参照してください。または、ホストされたファイルを閉じてみてください。詳細については、「[ホストされたファイルの閉じ方](#)」を参照してください。
- データベースサーバーを停止すると、Admin Console の機能は FileMaker Server の概要に制限されます。その他の機能を利用するには、再度データベースサーバーを起動する必要があります。
- Web 公開エンジンを停止した場合は、Web 公開エンジンの設定を行う前に再起動する必要があります。
- FileMaker Server [サービス](#)または [デーモン](#)を手動で起動または停止する必要がある場合は、「[FileMaker Server サービスの起動または停止 \(Windows\)](#)」または「[FileMaker Server デーモンの起動または停止 \(Mac OS\)](#)」を参照してください。

関連項目

[自動起動設定](#)

FileMaker Server サービスの起動または停止 (Windows)

場合によっては、マシン上の FileMaker Server のすべてのコンポーネントを起動または停止する必要があるかもしれません。たとえば、Admin Console ([一般設定] > [Admin Console] タブ) へのアクセスを制限した後は、すべての FileMaker Server のコンポーネントを再起動する必要があります。FileMaker Server のすべてのコンポーネントを再起動するには、マシンを再起動するか、あるいは FileMaker Server サービスを再起動します。

Windows では、FileMaker Server は、マシン上のすべての FileMaker Server コンポーネントを管理する「FileMaker Server」というサービス名で稼働します。複数のマシンに展開する場合は、各マシン上で FileMaker Server サービスを起動します。

一般的に、FileMaker Server サービスはコンピュータの起動時に自動的に起動されます。Windows の起動時に FileMaker Server サービスを自動的に起動するよう選択していない場合や、FileMaker Server サービスを停止した場合、FileMaker Server サービスを手動でもう一度起動することができます。

FileMaker Server サービスを起動または停止するには、次の操作を行います。

FileMaker Server が稼働しているマシンの管理者権限でログインする必要があります。

1. [スタート] ボタン > [コントロールパネル] > [管理ツール] の順にクリックします。
2. 「サービス」をダブルクリックします。
3. [サービス] ウィンドウで、[名前] 列から [FileMaker Server] を選択します。
4. [操作] メニュー > [開始] を選択してサービスを起動するか、または [操作] メニュー > [停止] を選択してサービスを停止します。

コマンドプロンプトから **FileMaker Server サービスを起動または停止するには、次の操作を行います。**

- コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

目的	入力コマンド
FileMaker Server を起動	<code>net start "FileMaker Server"</code>
FileMaker Server を停止	<code>net stop "FileMaker Server"</code>

関連項目

[FileMaker Server の起動と停止](#)

FileMaker Server デーモンの起動または停止 (Mac OS)

場合によっては、マシン上の FileMaker Server のすべてのコンポーネントを起動または停止する必要があるかもしれません。たとえば、Admin Console ([一般設定] > [Admin Console] タブ) へのアクセスを制限した後は、すべての FileMaker Server のコンポーネントを再起動する必要があります。FileMaker Server のすべてのコンポーネントを再起動するには、マシンを再起動するか、あるいは FileMaker Server デーモンを再起動します。

Mac OS では、FileMaker Server を複数のバックグラウンドプロセス、またはデーモンとして実行します。デーモンは、FileMaker Server がインストールされると起動します。複数のマシンに展開する場合は、各マシン上で FileMaker Server デーモンを起動します。

一般的に、FileMaker Server デーモンはコンピュータの起動時に自動的に起動されます。Mac OS の起動時に FileMaker Server デーモンを自動的に起動するよう選択していない場合や、デーモンを停止した場合、FileMaker Server デーモンを手動でもう一度起動することができます。

FileMaker Server を手動で起動または停止するには、次の操作を行います。

FileMaker Server が稼働しているマシンにログインする必要があります。

- ターミナルアプリケーションを開き、起動または停止コマンドを入力します。

目的	入力コマンド
FileMaker Server デーモンを 起動	<code>sudo launchctl start com.filemaker.fms</code>
FileMaker Server デーモンの 停止	<code>sudo launchctl stop com.filemaker.fms</code>

注意 sudo コマンドを実行するには、権限が必要です。

関連項目

[FileMaker Server の起動と停止](#)

一般設定の設定

[一般設定] を選択し、次のいずれかのタブを選択して、FileMaker Server の設定を指定します。

選択項目	目的
サーバー情報	FileMaker Server 名と説明を指定し、追加サーバーと管理者の連絡先を指定します。さらに、FileMaker Server ライセンスを更新します。 「サーバー情報の設定」 を参照してください。
電子メール通知	FileMaker Server にエラーまたは警告が発生した場合に、電子メールを受信するユーザを指定します。電子メール通知を送信するには、電子メールサーバーの SMTP 情報が必要となります。 「電子メール通知設定」 を参照してください。
Admin Console	Admin Console へのアクセスを制限し、Admin Console のユーザ名とパスワードを変更します。fmsadmin グループのメンバーがログインできるようになり、FileMaker Server の更新情報を確認することができます。 「Admin Console の設定」 を参照してください。
自動起動	コンピュータの起動時に、 「データベースサーバー」 または 「Web 公開エンジン」 を起動します。 「自動起動設定」 を参照してください。

タブで設定を変更した後は、[保存] をクリックして、変更内容をすぐに保存します。あるいは、このページの他のタブで変更を行う場合は、別のタブをクリックして変更を行ってから、[保存] をクリックします。[復帰] をクリックすると、最後に保存してからこれらのタブで行った変更内容をすべて元に戻すことができます。

関連項目

[データベースサーバーの設定](#)

[Web 公開の設定](#)

[ODBC および JDBC 経由での共有の有効化](#)

サーバー情報の設定

[一般設定]>[サーバー情報]タブでは、次の設定を指定します。

- FileMaker Admin Console と [FileMaker Pro](#) に表示されているホスト名および Admin Console の開始ページに表示されているサーバーの説明を指定します。
- [ディレクトリサービス](#)や開始ページで公開されている FileMaker Server の連絡先情報を入力します。
- 現在の FileMaker Server ライセンス情報を参照して、ライセンスを更新します。

サーバー情報の設定を指定するには、次の操作を行います。

1. [一般設定]>[サーバー情報]タブを選択します。

目的	実行方法
FileMaker Server Admin Console および FileMaker Pro に表示されるホスト名を指定する	<p>[サーバー名]を入力します。</p> <p>ヒント スペースを除く、標準的な ASCII 文字で構成される名前を使用します。</p> <p>サーバー名は、次の場所に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 開始ページ • FileMaker Pro ユーザが開く [共有ファイルを開く] ダイアログボックス
サーバーの説明を指定する	<p>[サーバーの説明]に、FileMaker Server コンピュータの説明を入力します。この説明は、開始ページに表示されません。</p>
FileMaker Server の所有者、電子メールアドレス、場所、電話番号を指定する	<p>[管理者の連絡先情報]に、この FileMaker Server の展開を管理する担当者の連絡先情報を入力します。</p> <p>この連絡先情報は、次の場所に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 開始ページ • ディレクトリサービス <p>ディレクトリサービスへの管理者の連絡先情報の公開については、「FileMaker Pro クライアントの設定」を参照してください。</p>

目的	実行方法
FileMaker Server のライセンス情報を確認または更新する	<p data-bbox="643 247 1331 310">[ライセンス情報] で、[ライセンスキーの更新] をクリックします。</p> <ol data-bbox="691 331 1267 478" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="691 331 1267 394">1. [ユーザ名]、[所属]、新しい [ライセンスキー] を入力します。 <li data-bbox="691 415 1267 478">2. [更新] をクリックしてから、[閉じる] をクリックします。 <p data-bbox="643 499 1331 667">FileMaker Server のライセンス情報はタブに一覧表示されます。「ライセンスキーについて」を参照してください。評価版を使用している場合、または FileMaker Server Advanced にアップグレードする場合も、ライセンスキーを更新することができます。</p> <p data-bbox="643 688 1331 875">FileMaker Server Advanced にアップグレードすることで、インスタント Web 公開の利用、および ODBC/JDBC による SQL データソース としてのデータ共有が可能となります。必要なファイルはすべてインストールされているため、アップグレードのために追加インストールを行う必要はありません。</p>

2. [[保存](#)] をクリックします。

関連項目

[データベースファイルのアップロード](#)
[データベースサーバーのセキュリティ設定](#)
[Admin Console の設定](#)
[一般設定の設定](#)

電子メール通知設定

FileMaker Server を設定して、エラーや警告の検出時に電子メール通知を送信したり、タスクスケジュールの電子メール通知を受信することができます。電子メール通知を設定するには、SMTP サーバー設定を入力し、接続テストのためにテストメッセージを送信します。次に、エラーまたは警告の通知を受信するユーザの電子メールアドレスを入力します。

電子メール通知の設定を指定するには、次の操作を行います。

1. [一般設定] > [電子メール通知] タブを選択します。

目的	実行方法
電子メールサーバーの SMTP 設定情報を入力する	<p>SMTP 情報には、次の項目があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 送信元アドレス : 送信者の電子メールアドレスを入力します。 • Reply-to アドレス : FileMaker Server からエラーまたは警告の電子メールを受信した際に、ユーザが返信可能な電子メールアドレスを入力します。たとえば、FileMaker Server 管理者の電子メールなどになります。 • SMTP サーバーアドレス : IP アドレス (例 : 127.1.1.1)、またはホスト名 (例 : postoffice.emailserver.com) を入力します。 • ポート : SMTP サーバーへの接続に必要なポート番号。デフォルトのポート番号は 25 です。 • 必要に応じて [SMTP 認証] を選択し、認証タイプを以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [テキスト] : LOGIN メカニズムを使用したテキスト認証 • [CRAM-MD5] : SMTP メールサーバーのパスワードを暗号化する Challenge-Response Authentication Mechanism-Message Digest 5 認証 <p>注意 認証の要不要、および使用されている認証タイプについては、電子メール管理者にお問い合わせください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザ : SMTP サーバーにログインするために必要なユーザ名を入力します。 • パスワード : ユーザのパスワードを入力します。
SMTP 設定をテストする	<p>[テスト SMTP 設定] をクリックします。ダイアログボックスに電子メールアドレスを入力し、[OK] をクリックして、テストメッセージを送信します。</p> <p>テストメッセージの送信に失敗した場合は、SMTP 設定または電子メールアドレスを確認してください。</p>

目的	実行方法
電子メール通知を有効にする	<p>[通知設定] では、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [電子メールの通知を有効にする] を選択します。 電子メールの通知の送信先：通知の送信先ユーザの電子メールアドレスを入力します。 複数の電子メールアドレスは、コンマで区切ってください。 • 重さのレベル：FileMaker Server がエラーを検出した場合のみ、あるいは FileMaker Server が警告またはエラーを検出した場合に電子メールを送信するかどうかを指定します。

2. [保存] をクリックします。

注意 各スケジュールを有効にすると、スケジュールが完了した際に電子メール通知を送信することができます。各スケジュールには独自の電子メールアドレスセットを指定することができますが、すべての電子メール通知には同じ SMTP 設定が使用されます。タスクスケジュールで電子メール通知を有効にする詳細については、「[電子メールのスケジュールでの有効化](#)」を参照してください。

関連項目

[FileMaker Pro クライアントの設定](#)

[スケジュールの作成](#)

[一般設定の設定](#)

Admin Console の設定

[一般設定] > [Admin Console] タブでは、次の設定を指定することができます。

- Admin Console が、[IP アドレス](#)で指定される特定のシステム、またはシステムの範囲に対して稼働することを制限します。

FileMaker Server Admin Console を使用して、FileMaker Server がインストールされていてデータベースがホストされているコンピュータとは異なるコンピュータから、FileMaker Server をリモートで制御（管理）することができます。

現在コンソールが稼働しているシステム、または指定した IP アドレスのシステムへの Admin Console からのアクセスを制限することができます。

- FileMaker Server 管理者のユーザ名またはパスワードを変更するか、または fmsadmin グループのメンバーにログインを許可します。
- FileMaker Server の更新を確認します。

Admin Console の設定を指定するには、次の操作を行います。

1. [一般設定] > [Admin Console] タブを選択します。

目的	実行方法
指定した IP アドレスに対して Admin Console を制限する	<p>[アクセス制限] では、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [アクセス制限を有効にする] を選択します。 • 1 つまたは複数の IP アドレスを入力します。複数の場合はカンマで区切ります。 <p>注意 この設定を変更した場合は、マスタマシンの FileMaker Server を再起動します。「FileMaker Server サービスの起動または停止 (Windows)」または「FileMaker Server デーモンの起動または停止 (Mac OS)」を参照してください。</p> <hr/> <p>重要 アクセス制限を有効にしても、マスタマシン上で FileMaker Server Admin Console を実行することができます。</p>
Admin Console の アカウント のユーザ名とパスワードを変更する	<p>[認証] では、次の設定を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [ユーザ名/パスワードを変更] をクリックして、ダイアログボックスを開きます。 2. [新ユーザ名] を入力します。 3. [現在のパスワード] を入力します。 4. [新パスワード] を入力し、同じパスワードを再度 [新パスワード確認] に入力します。 5. [OK] をクリックします。 <p>この変更はただちに有効となります。</p>

目的	実行方法
fmsadmin グループのメンバーにログインを許可する	<p>[認証] で、[" fmsadmin " グループのメンバーにログインを許可] を選択します。</p> <p>Admin Console ユーザには、fmsadmin グループのメンバーのアカウントでログインを許可することができます。このグループは、FileMaker Server が稼働するマスタマシンで定義します。</p>
FileMaker Server の更新を確認する	<p>[更新の確認] で、[FileMaker Server の更新の確認を有効にする] を選択します。</p> <p>更新を確認するには、[ヘルプ] メニュー > [更新の確認] を選択します。「更新の確認」を参照してください。</p>

2. [保存] をクリックします。

関連項目

[データベースサーバーのセキュリティ設定](#)

[一般設定の設定](#)

自動起動設定

システムの再起動時に、[データベースサーバー](#)を自動的に起動させることができます。また、システムの再起動時に、[Web 公開エンジン](#)を自動的に起動させることも可能です。

自動起動設定を指定するには、次の操作を行います。

1. [一般設定]>[自動起動]タブを選択します。
2. [自動起動]オプションを選択します。

目的	実行方法
コンピュータの再起動時に、 マスタ マシンのデータベースサーバーコンポーネントを自動起動する	[データベースサーバーを自動的に起動する]を選択します。
コンピュータの再起動時に、Web 公開エンジンを自動起動する	[Web 公開エンジンを自動的に起動する]を選択します。 注意 このオプションは、[データベースサーバーを自動的に起動する]が選択されている場合にのみ有効です。

3. [保存]をクリックします。

注意

- データベースサーバーまたは Web 公開エンジンは、マシンを再起動せずに起動または停止することができます。「[FileMaker Server の起動と停止](#)」を参照してください。
- [自動起動]オプションを有効にしていない場合は、データベースサーバーや Web 公開エンジンを手動で起動することができます。マシンを再起動すると、Admin Console を起動し、データベースサーバー、Web 公開エンジン、あるいはその両方を起動することができます。

関連項目

[データベースファイルのアップロード](#)
[データベースサーバーのセキュリティ設定](#)
[一般 Web 公開設定](#)
[一般設定の設定](#)

データベースサーバーの設定

[データベースサーバー] を選択し、次のいずれかのタブを選択して、FileMaker Server の設定を指定します。

選択項目	目的
FileMaker Pro クライアント	同時に接続可能な FileMaker Pro クライアント の最大数、およびクライアントの接続を解除する前の最大アイドル時間を指定します。また、FileMaker Server を ディレクトリサービス と連携するよう設定することもできます。「 FileMaker Pro クライアントの設定 」を参照してください。
データベース	FileMaker Server がホスト可能なデータベースの最大ファイル数、データベースの キャッシュ 値を指定し、FileMaker Server が ランタイムソリューション を自動的にホストするよう許可します。「 データベースの設定 」を参照してください。
セキュリティ	FileMaker Server への接続時の FileMaker Pro クライアントの 認証 方法、各ユーザがアクセスを許可されているデータベースだけを表示するかどうかを選択します。さらに、 SSL (Secure Sockets Layer) を使用して クライアント の接続を暗号化するかどうかを選択することができます。「 データベースサーバーのセキュリティ設定 」を参照してください。
デフォルトフォルダ	データベースファイルをホストする追加データベースフォルダと バックアップ フォルダを指定します。「 デフォルトフォルダの設定 」を参照してください。
ログ	クライアントのアクセス状況を Access.log に、または使用率統計を Stats.log に記録するかどうかを選択します。また、ログの容量と収集間隔を指定することも可能です。「 ログおよび使用状況の設定 」を参照してください。
サーバープラグイン	ホストされたデータベースに プラグイン を使用するかどうかを選択し、使用するプラグインを選択します。「 サーバーのプラグインの設定 」を参照してください。

タブで設定を変更した後は、[保存] をクリックして、変更内容をすぐに保存します。あるいは、このページの他のタブで変更を行う場合は、別のタブをクリックして変更を行い、完了後に [保存] をクリックします。[復帰] をクリックすると、最後に保存してからこれらのタブで行った変更内容をすべて元に戻すことができます。

関連項目

[一般設定の設定](#)

[Web 公開の設定](#)

[ODBC および JDBC 経由での共有の有効化](#)

FileMaker Pro クライアントの設定

[データベースサーバー]>[FileMaker Pro クライアント]タブでは、以下の設定を指定することができます。

- FileMaker Server に同時に接続可能な [FileMaker Pro のクライアント](#)の最大数を指定します。
- FileMaker Pro ユーザが、ホストされているデータベースで使用する最新の[プラグイン](#)をダウンロードできるようにします。
- FileMaker Pro クライアントの接続を解除する前の最大アイドル時間を指定します。
- FileMaker Server を[ディレクトリサービス](#)と連携するよう設定することができます。

FileMaker Pro クライアントの設定を指定するには、次の操作を行います。

1. [データベースサーバー]>[FileMaker Pro クライアント]タブを選択します。

目的	実行方法
FileMaker Server にホストされたデータベースに同時にアクセス可能な FileMaker Pro クライアントの最大数を設定する	<p>[FileMaker Pro の接続の最大数]に数値を入力します。</p> <p>FileMaker Server の必要メモリ容量は、接続されているクライアント数、開いているファイル数、データベースのキャッシュの容量に直接関連しています。クライアント数やファイル数の多いサーバーでは、データベースのキャッシュ用に確保した RAM 容量を増やしてパフォーマンスを向上させることができます。詳細については、「データベースの設定」を参照してください。</p>
FileMaker Pro クライアントが、FileMaker Server でホストされているデータベースで使用する最新のプラグインをダウンロードできるようにする	<p>[FileMaker Pro クライアントによって更新を自動的にダウンロードできるようにする]を選択します。</p>
FileMaker クライアントの最大アイドル時間を設定する	<p>[FileMaker クライアントの最大アイドル時間を設定]を選択して、時間を入力します。</p> <p>FileMaker Server でホストされているデータベースに接続しているときに FileMaker Pro クライアントがアイドル状態を維持できる最大時間を設定することができます。FileMaker Server は、これを設定した場合にのみ FileMaker Pro に通知を送信します。FileMaker Pro では、アクセス権を編集して、[アイドル状態の時 FileMaker Server から接続を解除]オプションを有効にする必要があります。このオプションはアクセス権セットごとに設定することができるため、特定のユーザの接続は解除しつつ、他のユーザは常に接続を維持できるように設定することができます。</p> <p>注意 接続を解除されたクライアントはファイルを再度開く必要があるため、接続が頻繁に解除されないように、余裕のあるアイドル時間を設定する必要があります。</p>

目的	実行方法
FileMaker Server をディレクトリサービスと連携するよう設定する	<p>次の手順で、ディレクトリサービス アシスタント を使用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [ディレクトリサービスを構成] をクリックして、ディレクトリサービスアシスタントを開きます。 2. ディレクトリサービスの設定を入力します。「ディレクトリサービス設定の指定」 を参照してください。[進む] をクリックします。 3. 公開する情報を選択します。「ディレクトリサーバー設定の公開」 を参照してください。 4. [完了] をクリックして、このタブのディレクトリサービス情報を更新します（このタブの [保存] をクリックする必要はありません）。 <p>Windows Active Directory、Netscape Directory、OpenLDAP、または Open Directory (Mac OS) などの LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) に準拠したディレクトリサービスが組織で使用されている場合は、FileMaker Server をディレクトリサービスに登録することによって、ホストされたデータベースを一元管理することができます。</p> <p>FileMaker Server をディレクトリサービスに登録すると、ホスト名と IP アドレス がディレクトリサービスに公開されるため、FileMaker Pro クライアントはこのディレクトリサービスを使用してネットワーク内のサーバーを検索することができます。FileMaker Server 管理者の連絡先情報も公開することができます (「サーバー情報の設定」 を参照)。これは、クライアントがホストされたデータベースにアクセスできない場合など、ディレクトリサービスの管理者が FileMaker Server 管理者に問い合わせる必要がある場合に便利です。</p> <p>注意 ディレクトリサービスの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。</p>

2. [\[保存\]](#) をクリックします。

関連項目

[クライアントの管理](#)

[データベースサーバーのセキュリティ設定](#)

[データベースサーバーの設定](#)

ディレクトリサービス設定の指定

このディレクトリサービスアシスタントの手順では、サーバーの設定を指定します。

1. [サーバー情報]に次の情報を入力します。

- ディレクトリサーバー（ホスト名または [IP アドレス](#)）。
- [LDAP](#) 接続用のポート番号
- ディレクトリエントリポイント [ディレクトリサービス](#)内での FileMaker Server の場所を指定する識別名。例：

```
ou=FileMaker,dc=mydomain,dc=filemaker,dc=com
```

コンマの後のスペースはオプションです。

2. [ログイン情報]で、ディレクトリサービスの[認証](#)方法を選択します。

- ディレクトリサービスにログインする必要がある場合は、[ディレクトリサービスにログイン]を選択して、[ユーザ名]と[パスワード]を入力します。
- 指定したユーザ名とパスワードが Windows ドメインで定義されている場合は、[Windows の認証を利用する]を有効にして、Windows [Active Directory](#) にアクセスしてください。

3. [ディレクトリサービス設定のテスト]をクリックして、FileMaker Server がディレクトリサービスと通信できるかどうかを検証します。

4. [進む]をクリックします。

[キャンセル]をクリックすると、ディレクトリサービスアシスタントが終了します。

詳細については、「[FileMaker Pro クライアントの設定](#)」を参照してください。

ディレクトリサーバー設定の公開

このディレクトリサービス[アシスタント](#)の手順では、公開する情報を選択します。

1. **[FileMaker Server の公開]** を選択して、FileMaker Server 名、ホスト名、[ディレクトリサービス](#) への [IP アドレス](#) を公開します。
2. **[管理者の連絡先情報の公開]** を選択して、**[一般設定]** > **[サーバー情報]** タブで指定した管理者の連絡先情報を公開します。
3. **[完了]** をクリックして、**[データベースサーバー]** > **[FileMaker Pro クライアント]** タブのディレクトリサービス情報を更新します（このタブの **[保存]** をクリックする必要はありません）。
前の手順に戻るには **[戻る]** を、ディレクトリサービスアシスタントを終了するには **[キャンセル]** をクリックします。

詳細については、「[FileMaker Pro クライアントの設定](#)」を参照してください。

データベースの設定

[データベースサーバー]>[データベース]タブでは、次の設定を指定します。

- FileMaker Server がホスト可能なファイルの最大数を指定します。
- FileMaker Server が、登録されている [ランタイムソリューション](#) を自動的にホストするかどうかを選択します。
- データベースの [キャッシュ](#) のメモリ容量を指定します。
- データベースのキャッシュフラッシュの間隔を指定します。

データベース設定を指定するには、次の操作を行います。

1. [データベースサーバー]>[データベース]タブを選択します。

目的	実行方法
FileMaker Server で同時に開くことができるデータベースファイルの最大数を指定する	<p>[ホストする最大のファイル数:] に、数字を入力します。</p> <p>注意 FileMaker Server の必要メモリ容量は、クライアント数および開いているファイル数に直接関連しています。ここに大きい値を指定する場合は、データベースキャッシュ用に予約する RAM の量も増やす必要があります。</p>
ランタイムソリューションファイルを自動的にホストする	<p>[登録済みランタイムソリューション] で、[FileMaker Server が登録済みのランタイムソリューションを自動的にホストするようにする] を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ランタイムソリューションのファイルタイプを登録するには、[登録] をクリックして、ファイル拡張子を入力します。[OK] をクリックします。 • 登録されているファイルタイプを削除するには、[ファイルタイプ] リストからファイルタイプを選択して、[削除] をクリックします。[はい] をクリックして確認します。 <p>FileMaker Pro Advanced で作成されたランタイムデータベースソリューションをホストしている場合は、FileMaker Server の起動時にランタイムソリューションが自動的に開くよう FileMaker Server を設定することができます。ランタイムソリューションは、必ず指定された場所のいずれかに保存する必要があります。[デフォルトフォルダの設定] を参照してください。</p> <p>ランタイムソリューションのファイル拡張子が .fp7 でない場合は、FileMaker Server にファイル拡張子を登録する必要があります。</p>

目的	実行方法
データベースキャッシュ用に確保する RAM 容量を指定する	<p>[データベースキャッシュに予約されている RAM] で、メモリ容量を選択します。</p> <p>最大の設定は、物理 RAM に基づいて動的に決定されます。最大の設定は、(物理 RAM - 128MB) / 4 です。ただし、固定最小容量は 64MB、最大固定容量は 800MB、また物理 RAM は、FileMaker Server を展開している <u>マスタ</u> マシンで利用可能な RAM 容量となります。</p> <p>特に、大容量のファイル、または多数のクライアントやファイルをサーバーでホストする場合は、データベースキャッシュ用に予約する RAM を増やすと、適切に設計されたデータベースの全体的なパフォーマンスを向上させることができます。</p>
キャッシュフラッシュの間隔を指定する	<p>[キャッシュフラッシュの間隔] にキャッシュフラッシュの間隔を時間および分単位で入力します。</p> <p>パフォーマンスを向上させるため、FileMaker Server は変更を RAM ベースのキャッシュに保存します。1 分ごとに、キャッシュの一部がディスクに保存（「フラッシュ」）されます。</p> <p>デフォルトでは、FileMaker Server は 1 分ごとにキャッシュ全体をスキャンします。この間隔を増やしてキャッシュ全体をフラッシュするまでの時間を延ばすことができますが、1 分ごとにスキャンされるキャッシュの量が減ります。詳細については、「キャッシュフラッシュ操作」を参照してください。</p>

2. [保存] をクリックします。

関連項目

[データベースファイルのアップロード](#)

[データベースの管理](#)

[データベースサーバーの設定](#)

キャッシュフラッシュ操作

FileMaker Server では、[キャッシュ](#)は継続的にフラッシュされます。キャッシュフラッシュルーチンによってキャッシュがスキャンされ、変更されたページが検索されます。FileMaker Server は、最大でキャッシュの 1/60 を調べ、変更されたページを発見した場合はディスクに書き込みます。この処理は継続的に繰り返され、スケジュールバックアップの実行中も、1 秒ごとにキャッシュの 1/60 がディスクに書き込まれます。

たとえば、64 MB のキャッシュの場合、FileMaker Server はキャッシュの 1/60（1 メガバイト強）を調べて、見つかった変更レコードをすべてフラッシュします。続いて、1 秒待機してから再び処理を開始し、最大でキャッシュの 1/60 を調べて、変更されたレコードを検索します。このキャッシュフラッシュ方法によって、ハードディスクへの書き込みは 1 分間の範囲に均等に分散されます。

デフォルトでは、キャッシュフラッシュ機能は、キャッシュ全体を 1 分間でスキャンしようとしています。つまり、ほとんどの場合、サーバー上でキャッシュされている変更内容の中に 1 分以上経過したものはないこととなりますが、これらの結果は、データベースのサイズとハードディスクの速度によって変わることがあります。

この動作を変更して、キャッシュフラッシュをより長い間隔で実行するには、[[キャッシュフラッシュの間隔](#)（時：分）] の値を大きくします。FileMaker Server 内の未保存の変更は、指定した間隔よりも古くなることはありません。FileMaker Server が 1 秒ごとに調べるデータの量は、より小さい値（最小で 128 K/秒）に減ります。

キャッシュフラッシュの間隔を増やす前に、管理者はコンピュータの障害発生時にデータが失われるリスクを十分考慮に入れてください。最大限のパフォーマンスが必要で、データ損失の可能性に関してそれほど不安がない場所では、より長いキャッシュフラッシュ間隔を使用することができますが、データの整合性を最大限に保つ必要がある場所では、より短いキャッシュフラッシュ間隔を使用する必要があります。

たとえば、キャッシュが 64 MB の場合にキャッシュフラッシュの値を 10 分に設定すると、1 秒ごとにキャッシュの 1/600、つまりキャッシュの約 110 K（これは最小の量より小さいので、実際にはキャッシュの 128 K）がエンジンによって調べられ、変更のあったデータのみがディスクに書き込まれます。一方、キャッシュが 500 MB の場合にこの間隔を 10 分に設定すると、デフォルト値であるキャッシュの 1/60（8.5 MB）ではなく、853 K のみが調べられます。このような方法によって、サーバーは、ディスクへの書き込みを一定の時間内に分散することができます。したがって、8.5 MB と比べると 853 K を調べる方がはるかに短時間で済むため、サーバーの CPU は、[クライアント](#)リクエストへのサービスに、より高い優先度を割り当てることができます。

関連項目

[データベースの設定](#)

データベースサーバーのセキュリティ設定

[データベースサーバー]>[セキュリティ]タブでは、次のセキュリティ設定を行うことができます。

- [クライアント](#)の認証に、FileMaker のアカウントだけを使用するか、あるいは外部の[認証サーバー](#)も使用するかを指定する。
- クライアントから参照可能なホストされたデータベース一覧を制限する。
- [データベースサーバー](#)とクライアントの間で送受信されるデータを暗号化する。

データベースサーバーのセキュリティ設定を指定するには、次の操作を行います。

1. [データベースサーバー]>[セキュリティ]タブを選択します。

目的	実行方法
ホストされたデータベースへのアクセス認証に外部サーバーを使用するかどうかを指定する	<p>[クライアント認証]で、次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FileMaker アカウントのみ: ユーザ名とパスワードは、ホストされたデータベースの FileMaker Pro アカウントで指定したアカウント名とパスワードに対して認証されます。 • FileMaker と外部サーバーアカウント: ユーザ名とパスワードは、FileMaker Pro アカウントで指定したアカウント名とパスワードに対して、あるいは外部サーバーに対して認証されます。外部サーバーによってユーザが属するローカルおよびドメイングループアカウントが返された後、返されたグループアカウントが、FileMaker Pro の外部サーバーアカウントで指定されているグループアカウントに照らして認証されません。 <p>詳細については、「データベースアクセスの外部認証」を参照してください。</p> <p>外部サーバーによって認証されるアカウントの作成の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。</p>
次の場所にあるデータベースの一覧をフィルタするかどうかを指定する	<p>[ファイル表示フィルタ]で、次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべてのデータベースをリスト表示: ホストされているすべてのデータベースを表示します。 • 各ユーザがアクセスを許可されているデータベースのみをリスト表示: ホストされている各データベースの中で、ユーザがアクセス権を持っているデータベースだけを表示します。

目的	実行方法
データベースサーバーとクライアントの間で送受信されるデータを暗号化する。	<p>[FileMaker Server への接続を保護する]を選択します。</p> <p>データベースサーバーのクライアント接続には、すべて ODBC および JDBC 接続を除き SSL (Secure Sockets Layer) が使用されます。データのセキュリティの詳細については、「データの保護」を参照してください。</p> <p>保護された接続を使用すると、データが暗号化されるため速度が低下します。データの転送速度は、クライアントの数と転送されるデータの量に応じて変わります。</p> <p>注意 この設定を変更した場合は、変更内容を有効にするためにデータベースサーバーを再度停止して、起動し直す必要があります。「FileMaker Server の起動と停止」を参照してください。</p>

2. [保存] をクリックします。

関連項目

[自動起動設定](#)

[Admin Console の設定](#)

[データベースサーバーの設定](#)

データベースアクセスの外部認証

FileMaker Server は、FileMaker Pro データベース内に定義されている FileMaker [アカウント](#)を持つユーザを認証します。さらに、FileMaker Server は、以下の外部で定義されたアカウントとグループによる [認証](#)もサポートしています。

- [マスタ](#)マシン上にローカルに定義された Windows または Mac OS のアカウントおよびグループ
- 一元管理された認証サーバー上に保存可能な、Apple Open Directory および Windows [Active Directory](#) のアカウントとグループ

FileMaker Server で FileMaker Pro のデータベースファイルをホストしている場合は、既存の認証サーバーを使用することで、各 FileMaker Pro データベースファイルの個別のアカウントリストを管理することなくデータベースへのアクセスを制御することができます。

[データベースサーバー]>[セキュリティ] タブで **[FileMaker と外部サーバーアカウント]** を選択すると、クライアントの [アクセス権](#)は、ホストされたデータベースで定義されたアカウント、およびマスタマシンまたは認証サーバーで定義されたアカウントによって決まります。FileMaker Pro では、アカウントの認証に FileMaker または外部認証サーバーを使用するかどうかをデータベースに指定します。アカウントには、Active Directory アカウント (Windows) と Open Directory アカウント (Mac OS) があります。特定のネットワーク構成によっては、あるプラットフォーム上の外部認証サーバーで、他のプラットフォーム上のユーザを認証することができます。つまり、Mac OS ユーザを Active Directory で認証したり、Windows ユーザを Mac OS X サーバーの Open Directory で認証することが可能です。

[FileMaker と外部サーバーアカウント] を選択すると、すべてのログオン試行のレコードが Windows セキュリティログに記録されます。セキュリティログの詳細については、Windows のマニュアルを参照してください。

重要 データベースファイルに1つまたは複数の外部サーバーアカウントが含まれる場合は、オペレーティングシステムのセキュリティ設定を使用して、ファイルへの直接アクセスを制限してください。制限しない場合、権限のないユーザが、認証サーバーの環境を複製した別のシステムにファイルを移動して、ファイルへのアクセスを取得できることがあります。外部サーバー機能を使用して認証されるアカウントのグループ名は、テキスト文字列として保存されています。グループ名を別のシステムに複製すると、コピーされたファイルに、グループのメンバーに割り当てられた [アクセス権セット](#) を使用してアクセスすることができ、データが不適切に公開される可能性があります。

注意

- FileMaker Pro のアカウント設定の詳細については、FileMaker Pro ヘルプの「外部サーバーで認証するアカウントの作成」を参照してください。
- 外部認証設定の詳細については、www.filemaker.com/kb にアクセスし、キーワード「external」と「authentication」（さらに、オプションで「cross-platform」）を含む記事を検索してください。

関連項目

[データベースサーバーのセキュリティ設定](#)

[データの保護](#)

デフォルトフォルダの設定

[データベースサーバー]>[デフォルトフォルダ] タブを選択して、次の設定を指定します。

- データベースファイルに追加データベースフォルダを指定します。
- データベースファイルに[バックアップ](#)フォルダを指定します。

追加データベースフォルダの設定

FileMaker Server は、起動時に、デフォルトデータベースフォルダ（および1レベル下のサブフォルダ）で、ホストするデータベースを検索します。また、オプションで追加データベースフォルダも検索します。データベースはデフォルトバックアップフォルダにバックアップされます。

デフォルトデータベースフォルダの完全パスは、次のとおりです。

- Windows: [ドライブ名]¥Program Files¥FileMaker¥FileMaker Server¥Data¥Databases¥
- Mac OS: /ライブラリ/FileMakerServer/Data/Databases/

1. [データベースフォルダ] で、[追加データベースフォルダの使用] を選択します。
2. 追加データベースフォルダの場所への完全パスを入力します。パスの長さは最大 255 文字です。
 - Windows: 入力するパスは、filewin:/ で始まりスラッシュ (/) で終わる必要があります。たとえば、filewin:/ ドライブ文字:/フォルダ名/ のようになります。
 - Mac OS: 入力するパスは、filemac:/ で始まりスラッシュ (/) で終わる必要があります。たとえば、filemac:/ ボリューム名/フォルダ名/ のようになります。

注意 変更したパスを元に戻すには、[元に戻す] をクリックします。

3. [検証] をクリックして、入力したパスが正しいかどうか確認します。

パスが有効であることが確認されると、ラベルが「無効なパス」から「有効なパス」に変わります。パスが有効でない場合は、「[有効なフォルダのヒント](#)」を参照してください。
4. [保存] をクリックします。

バックアップデータベースフォルダの設定

[データベースのバックアップ] タスクスケジュールの実行時に FileMaker Server によって使用されるフォルダのパスを指定します。

重要 ホストされるデータベースと同じフォルダ、またはそのフォルダ内のサブフォルダにあるデータベースは、FileMaker Server の起動時にすべて自動的に開かれるため、これらのフォルダ内にはデフォルトバックアップフォルダを配置しないでください。

1. [バックアップフォルダ] に、新しいデフォルトバックアップフォルダの場所への完全パスを入力します。パスの長さは最大 255 文字です。
 - Windows: 入力するパスは、filewin:/ で始まりスラッシュ (/) で終わる必要があります。たとえば、filewin:/ ドライブ文字:/フォルダ名/ のようになります。
 - Mac OS: 入力するパスは、filemac:/ で始まりスラッシュ (/) で終わる必要があります。たとえば、filemac:/ ボリューム名/フォルダ名/ のようになります。

注意 変更したパスを元に戻すには、[元に戻す] をクリックします。

2. [検証] をクリックして、入力したパスが正しいかどうか確認します。

パスが有効であることが確認されると、ラベルが「無効なパス」から「有効なパス」に変わります。
パスが有効でない場合は、「[有効なフォルダのヒント](#)」を参照してください。

3. [保存] をクリックします。

関連項目

[データベースファイルのアップロード](#)

[データベースサーバーの設定](#)

有効なフォルダのヒント

バックアップフォルダや追加データベースフォルダとして指定するフォルダは、有効でなければなりません。

- フォルダは、リモートボリュームではなくローカルボリュームに指定します。
リモートボリュームにデータベースのバックアップを保存する場合は、最初にデータベースをローカルボリュームにバックアップしてから、それをリモートボリュームにコピーしてください。
- フォルダのアクセス権が正しく設定されており、FileMaker Server がフォルダに対して読み書きできることを確認してください。
(Mac OS) フォルダの所有者は、ユーザ「fmserver」（あるいは、「fmsadmin」グループのユーザ）でなければなりません。
- フォルダは絶対パスで指定します。
 - Windows: 入力するパスは、filewin:/ で始まりスラッシュ (/) で終わる必要があります。
たとえば、filewin:/ ドライブ文字 :/ フォルダ名 / のようになります。
 - Mac OS: 入力するパスは、filemac:/ で始まりスラッシュ (/) で終わる必要があります。
たとえば、filemac:/ ボリューム名 / フォルダ名 / のようになります。

詳細については、サポートインフォメーションおよび FileMaker Knowledge Base を参照してください。
[「カスタマサポートとデータベース」](#) を参照してください。

関連項目

[デフォルトフォルダの設定](#)

ログおよび使用状況の設定

[データベースサーバー]>[ログ] タブでは、FileMaker Server の稼働中にデータベースサーバーがイベント、クライアントアクセス、使用状況情報を収集し記録する方法を設定することができます。使用状況ログを有効にすれば、指定した間隔でパフォーマンス情報を収集してログに書き込むようにすることができます。

このタブでは、次の設定を指定することができます。

- **使用状況** データベースサーバーが、表示用さらにはオプションで記録用に使用状況情報を収集する間隔を指定します。
- **ログ** FileMaker Server の稼働中に追加クライアントアクセスを収集するかどうかを指定します。使用状況ログを有効にすれば、指定した間隔でパフォーマンス情報を収集してログファイルに書き込むようにすることができます。

FileMaker Server の使用状況ログを有効にすると、「FileMaker Server/Logs/」フォルダに「Stats.log」という名前のログファイルが作成されます。「Stats.log」はタブ区切りのテキストファイルです。リアルタイムの使用状況は、[使用状況] ウィンドウに表示されます。また、Stats.log ファイルは、FileMaker Pro、スプレッドシート、テキストエディタでも参照することができます。

Access.log、Event.log、Stats.log ファイルの最大容量を指定したり、Stats.log の収集間隔を指定して、ファイルサイズが大きくなることを防ぐこともできます。

イベントログの設定を指定するには、次の操作を行います。

1. [データベースサーバー]>[ログ] タブを選択します。

目的	実行方法
使用状況ログの収集間隔を設定する	[収集間隔] に、時間を分および秒単位で入力します。 収集間隔によって、FileMaker Server が使用状況情報を収集する頻度が決まります。この情報は、[使用状況] ウィンドウに表示され、オプションで Stats.log ファイルに記録することもできます。
ログサイズを指定する	[ログサイズ] に、Access.log、Event.log、Stats.log ファイルの最大容量を指定します。
ログを有効にする	イベントはすべて Event.log ファイルに記録されます。イベントの記録を無効にすることはできません。 [アクセス] を選択すると、FileMaker Server への接続情報が Access.log ファイルに記録されます。 [使用状況] を選択すると、パフォーマンスの測定値が Stats.log ファイルに記録されます。

2. [保存] をクリックします。

関連項目

[一般 Web 公開設定](#)

[使用状況の表示](#)

[ログファイルでのアクティビティの追跡](#)

[データベースサーバーの設定](#)

サーバーのプラグインの設定

[データベースサーバー]>[プラグイン]タブでは、FileMaker Server が、サーバーサイドのプラグインを使用するよう設計されているホストされた FileMaker Pro データベースで外部機能の [プラグイン](#)を使用できるように設定することができます。

プラグインの詳細については、「[プラグインの管理](#)」を参照してください。

FileMaker Server でプラグインを使用できるようにするには、次の操作を行います。

1. [FileMaker Server でプラグインを使用できるようにする]を選択します。
プラグインフォルダにあるプラグインが一覧表示されます。
2. FileMaker Server で実行する各プラグインの [有効にする]を選択します。
3. [保存]をクリックします。

関連項目

[サーバーサイドプラグインの有効化](#)
[データベースファイルのアップロード](#)
[データベースサーバーの設定](#)

Web 公開の設定

[**Web 公開**] を選択し、次のいずれかのタブを選択して、FileMaker Server の設定を指定します。

選択項目	目的
一般設定	Web 公開のエラーのログレベルおよび Web 公開セッションの最大数を指定します。「 一般 Web 公開設定 」を参照してください。
PHP	カスタム Web 公開を PHP で有効にし設定します。「 PHP Web 公開設定 」を参照してください。
XSLT	カスタム Web 公開を XSLT で有効にし設定します。「 XSLT Web 公開設定 」を参照してください。
XML	カスタム Web 公開を XML で有効にし設定します。「 XML Web 公開設定 」を参照してください。
インスタント Web 公開	インスタント Web 公開 を有効にし設定します。「 インスタント Web 公開設定 」を参照してください。

タブで設定を変更した後は、[**保存**] をクリックして、変更内容をすぐに保存します。あるいは、このページの他のタブで変更を行う場合は、別のタブをクリックして変更を行ってから、[**保存**] をクリックします。[**復帰**] をクリックすると、最後に保存してからこれらのタブで行った変更内容をすべて元に戻すことができます。

Web 公開設定を行うと、設定の変更内容を保存した後に **Web 公開エンジン** を再起動するよう、Admin Console によってメッセージが表示されます。こうすることにより、Web 公開エンジンの再起動中は、Web ユーザがすべての Web 公開されているデータベースを利用できなくなります。

重要 Web 公開設定は、Web 公開エンジンが使用されていない場合にのみ変更してください。Web 公開クライアントは、Web 公開エンジンの再起動時に、保存していない作業内容を失う可能性があります。

関連項目

[一般設定の設定](#)

[データベースサーバーの設定](#)

[ODBC および JDBC 経由での共有の有効化](#)

一般 Web 公開設定

[Web 公開] > [一般設定] タブでは、次の Web 公開設定を指定することができます。

- Web 公開のログレベルを選択する。
- Web 公開セッションの最大数を設定する。

Web 公開設定を指定するには、次の操作を行います。

1. [Web 公開] > [一般設定] タブを選択します。

目的	実行方法
アクセスログを有効にする	[アクセスログを有効にして、 Web 公開コア の内部アクセスログを生成する] を選択します。 アクセスログは、Web 公開コアの内部アクセスログ（「wpc_access_log.txt」および「pe_internal_access_log.txt」）を有効にします。
エラーログを有効にする	[エラーログを有効にして、 Web 公開エンジン のアプリケーションログを生成する] を選択します。 エラーログは、 Web 公開エンジン のアプリケーションログ（「pe_application_log.txt」）を有効にします。
ScriptMaker のエラーを記録する	[ScriptMaker エラー] を選択して、pe_application_log.txt ファイルにエラーを記録します。 Web 公開エンジンの要求で実行された ScriptMaker スクリプトのエラーだけが記録されます。
XSLT ユーザエラーを記録する	[ユーザ (XSLT のみ)] を選択して、XSLT スタイルシートの XSLT <xsl:message> 要素によって生成されたメッセージを pe_application_log.txt に記録します。
Web 公開セッションの最大数を設定する	Web 公開セッションの接続の最大数 を指定します。 指定した数は、FileMaker Server で有効なすべての Web テクノロジーで許可される同時クライアントセッションの最大数です。

2. [保存] をクリックします。

Web 公開ログファイルの詳細については、「[Web 公開ログ](#)」を参照してください。

関連項目

[データベースの管理](#)

[クライアントの管理](#)

[ログおよび使用状況の設定](#)

[Web 公開の設定](#)

PHP Web 公開設定

PHP でのカスタム Web 公開によって、PHP Web アプリケーションは FileMaker API for PHP を使用してデータにアクセスできるようになります。[Web 公開エンジン](#)から API へのレスポンス方法を設定することができます。

[Web 公開] > [PHP] タブでは、次の PHP 公開設定を指定することができます。

- PHP 公開を有効にする。
- レコードデータの事前検証を有効にする。
- デフォルトの文字エンコードを選択する。
- PHP 公開で使用する言語を選択する。

注意 これらの設定を変更した場合は、Web 公開エンジンを再起動する必要があります。

PHP Web サイトのホストの詳細については、「[PHP Web サイトのホスト](#)」を参照してください。PHP Web サイトの作成および FileMaker API for PHP の使用方法については、開始ページの『FileMaker Server カスタム Web 公開ガイド with PHP』を参照してください。

PHP 公開設定を指定するには、次の操作を行います。

1. [Web 公開] > [PHP] タブを選択します。

目的	実行方法
PHP を使用したカスタム Web 公開を有効にする	[PHP 公開を有効にする] を選択します。 このタブで他の設定を行うには、この設定を有効にする必要があります。
Web サーバー 上のレコードデータの事前検証を有効にする	[レコードデータの事前検証を有効にする] を選択します。 FileMaker API for PHP を有効にして、 データベースサーバー にレコードを確定する前にレコードデータを検証します。この機能を使用するには、必須メソッドであり検証エラーに応答する validate() メソッドを PHP コードで呼び出す必要があります。
デフォルトの文字エンコードを選択する	[デフォルトの文字エンコーディング] で、エンコードを選択します。 選択したエンコードは、PHP ファイルの <head> セクションで使用しているエンコードと一致する必要があります。 PHP のデフォルトの言語は Latin-1 です。FileMaker Server のデフォルトは Unicode です。データに Latin 以外の文字が含まれる場合は UTF-8 を使用してください。
PHP 公開エラーメッセージ言語を選択する	[言語] で、FileMaker API for PHP が返すエラーメッセージの言語を選択します。

2. [保存] をクリックします。

注意 FileMaker API for PHP とサポートされている PHP エンジンには、PHP を使用したカスタム Web 公開の Web サーバー上にインストールする必要があります。詳細については、「[Web 公開テクノロジーの有効化](#)」を参照してください。

関連項目

[データベースの管理](#)

[クライアントの管理](#)

[一般 Web 公開設定](#)

[Web 公開の設定](#)

XSLT Web 公開設定

[Web 公開] > [XSLT] タブでは、次の **XSLT** 公開設定を指定することができます。

- XSLT 公開を有効にする。
- データベースセッションを有効にする。
- セッションタイムアウト値を設定する。
- **SMTP** 情報を設定して、XSLT スタイルシートで電子メールメッセージを送信する。
- デフォルトの文字エンコードを選択する。

注意 これらの設定を変更した場合は、**Web 公開エンジン**を再起動する必要があります。

XSLT Web 公開の詳細については、開始ページの『FileMaker Server カスタム Web 公開 with XML and XSLT』を参照してください。

XSLT 公開を有効にするには、次の操作を行います。

1. [Web 公開] > [XSLT] タブを選択します。

目的	実行方法
XSLT 公開を有効にする	[XSLT 公開を有効にする] を選択します。 このタブで他の設定を行うには、この設定を有効にする必要があります。
エラーの生成方法を選択する	次のいずれかのモードを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 開発モード：Web 公開エンジンでエラーが発生した場合に、特定のエラーページを生成します。 このモードは、XSLT スタイルシートの開発およびテスト時に使用します。開発モードでは、サーバーサイドでのスタイルシートのキャッシュを有効にすることはできません。 • 実作業モード：Web 公開エンジンでエラーが発生した場合に、エラーページにデフォルトの汎用のテキストメッセージを生成します。 このモードは、XSLT スタイルシートをホストする Web 公開エンジンを使用するために使用します。
サーバーサイドでのスタイルシートのキャッシュを有効にする	[実作業モード] を選択した場合は、[スタイルシートのキャッシングを有効にする] を選択して、[キャッシュサイズ] の値を選択します。 サーバーサイドでのキャッシュを使用すると、使用頻度の高い XSLT スタイルシートがメモリに格納され、Web 公開エンジンのパフォーマンスが向上します。Web 公開エンジンでは、キャッシュは実作業モードの場合にのみ使用されます。

目的	実行方法
XSLT データベースセッションを有効にする。	<p>[データベースセッションを有効にする] を選択します。</p> <p>XSLT を使用したカスタム Web 公開では、セッションはオプションです。詳細については、[Web セッションとデータベースセッションの連携処理の設定] を参照してください。</p>
デフォルトのセッションタイムアウト値を設定する	<p>[セッションタイムアウト] に、XSLT を使用したカスタム Web 公開のデフォルトのセッションタイムアウトを設定します。</p> <p>XSLT を使用したカスタム Web 公開では、セッションはオプションで、<code>fmxml:create_session()</code> 拡張関数を使用して作成します。デフォルトの設定を上書きするには、<code>fmxml:invalidate_session()</code> と <code>fmxml:set_session_timeout()</code> 拡張関数を使用します。[FileMaker Server カスタム Web 公開 with XML and XSLT] を参照してください。</p>
XSLT スタイルシートで送信される電子メールメッセージの SMTP 情報を指定する	<p>次の項目を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SMTP サーバーアドレス : IP アドレス (例 : 127.1.1.1)、またはホスト名 (例 : postoffice.emailserver.com) を入力します。 • ポート : SMTP サーバーへの接続に必要なポート番号。デフォルトのポート番号は 25 です。 • 必要に応じて [SMTP 認証] を選択し、認証タイプを以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [テキスト] : LOGIN メカニズムを使用したテキスト認証 • [CRAM-MD5] : SMTP メールサーバーのパスワードを暗号化する Challenge-Response Authentication Mechanism-Message Digest 5 認証 <p>注意 認証の要不要、および使用されている認証タイプについては、電子メール管理者にお問い合わせください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザ : SMTP サーバーにログインするために必要なユーザ名を入力します。 • パスワード : ユーザのパスワードを入力します。
デフォルトの文字エンコードを選択する	<p>[デフォルトの文字エンコーディング] で、[ページエンコーディング] と [電子メールエンコーディング] を選択します。[XSLT リクエストのテキストエンコーディング] を参照してください。</p>

2. [[保存](#)] をクリックします。

関連項目

[データベースの管理](#)

[クライアントの管理](#)

[一般 Web 公開設定](#)

[電子メール通知設定](#)

[Web 公開の設定](#)

XSLT リクエストのテキストエンコーディング

[Web 公開エンジン](#)をインストールした状態では、[XSLT](#) リクエストに対するデフォルトのテキストエンコードの初期状態の設定は UTF-8 になっています。電子メールメッセージでは、デフォルトは Shift_JIS です。必要に応じて、これらのデフォルトのテキストエンコードの設定を変更することができます。リクエストごとのデフォルト設定の上書きについては、開始ページの『FileMaker Server カスタム Web 公開 with XML and XSLT』を参照してください。

エンコード	説明
US-ASCII	基本 ASCII 文字セット。一般的には、標準テキストの英語の電子メールに使用されます。
ISO-8859-1	Latin 1 文字セット。一般的には、ローマ字ベースの Web ページや電子メールメッセージに使用されます。
ISO-8859-15	Latin 9 文字セット。Latin 1 文字セットとほぼ同じですが、ユーロ記号が追加されています。
ISO-2022-JP	ISO の日本語エンコード。一般的には、日本語の電子メールメッセージに使用されます。
Shift_JIS	日本語エンコード。一般的には、日本語の Web ページに使用されます。
UTF-8	Unicode の 8 ビットのエンコーディング。UTF-8 では Unicode 文字の全範囲がサポートされているため、すべての言語のページを処理できます。

関連項目

[XSLT Web 公開設定](#)

Web セッションとデータベースセッションの連携処理の設定

セッションを使用すると、リクエスト間でデータを保存したり、状態を維持することができます。[XSLT](#)を使用したカスタム Web 公開では、次の2つのタイプのセッションがサポートされています。

- **データベースセッション**：データベースセッションは、FileMaker Server がリクエストに対してデータを取得する際に FileMaker Server によって作成されます。同時データベースセッションの最大数は、使用する FileMaker Server ライセンスによって決まります。
- **Web セッション**：Web セッションは、XSLT スタイルシートで `fmxml:create_session()` 拡張関数が使用されている場合に、[Web 公開エンジン](#)によって作成されます。
`fmxml:create_session()` 拡張関数の詳細については、開始ページの『FileMaker Server カスタム Web 公開 with XML and XSLT』を参照してください。Web セッションの最大数は、Web 公開エンジンのマシンに搭載されているメモリの量によってのみ制限されます。

Admin Console で、[[データベースセッションを有効にする](#)] オプションを使用して、これら2つのタイプのセッション間の連携処理を設定することができます。このオプションを有効にすると、Web 公開エンジンは、各 Web セッションに対してデータベースセッションを使用します。このオプションが無効になっている場合、Web 公開エンジンは、各リクエストに対してデータベースセッションを使用します。このオプションは、デフォルトでは無効です。

データベースセッションを有効にした場合、次のような長所と短所があります。

- リクエスト間でグローバル変数の値が保存される。
- [ScriptMaker](#) スクリプトで状態を変更した場合、リクエスト間で変更後の状態が維持される。たとえば、アカウントを切り替えるために [再ログイン] スクリプトステップによって変更されたアクセス権がリクエスト間で維持されます。
- Web セッションの総数が FileMaker Server 上の同時データベースセッションの最大数に制限される。この制限は、[インスタント Web 公開](#)セッションと XSLT セッションに適用されます。

データベースセッションを無効にした場合、次のような長所と短所があります。

- リクエスト間でグローバル変数の値が保存されない。
- スクリプトで状態を変更した場合、リクエスト間で変更後の状態が維持されない。
- XSLT Web セッションの数が FileMaker Server 上の Web データベースセッションの最大数に制限されない。これによって、カスタム Web 公開の拡張性が向上します。ただし、インスタント Web 公開セッションは制限されることがあります。

リクエスト間で状態を維持する必要があるグローバル変数やスクリプトをスタイルシートで使用しない場合、データベースセッションは無効にすることをお勧めします。[[データベースセッションを有効にする](#)] オプションの設定は、Web 公開エンジン上に展開されるすべてのスタイルシートに適用されます。

関連項目

[XSLT Web 公開設定](#)

XML Web 公開設定

[Web 公開] > [XML] タブでは、[XML](#) を使用したカスタム Web 公開を有効または無効にすることができます。[XML 公開を有効にする] を選択すると、FileMaker Server はクエリーコマンドと引数に基づいてホストされたデータベースから XML データを生成することができます。

注意 XML を無効にしても、[XSLT](#) または FileMaker [API for PHP](#) を使用する機能に影響はありませんが、その他のサードパーティの Web テクノロジーの接続性に影響が及ぶおそれがあります。

関連項目

[データベースの管理](#)

[クライアントの管理](#)

[一般 Web 公開設定](#)

[Web 公開の設定](#)

インスタント Web 公開設定

[Web 公開]>[インスタント Web 公開] タブでは、次の [インスタント Web 公開設定](#) を指定することができます。

- インスタント Web 公開を有効にする。
- インスタント Web 公開のセッションタイムアウト値を設定する。
- インスタント Web 公開のステータスエリアに表示される言語を選択する。

注意

- これらの設定を変更した場合は、[Web 公開エンジン](#) を再起動する必要があります。
- インスタント Web 公開には、FileMaker Server Advanced ライセンスが必要です。

インスタント Web 公開設定を指定するには、次の操作を行います。

1. [Web 公開]>[インスタント Web 公開] タブを選択します。

目的	実行方法
インスタント Web 公開を有効にする	[インスタント Web 公開を有効にする] を選択します。 このタブで他の設定を行うには、この設定を有効にする必要があります。
データベースセッションのタイムアウト値を設定する	[セッションタイムアウト] の値を設定します。 指定したタイムアウト時間非アクティブなユーザの接続を解除するよう Web 公開エンジンを設定します。 インスタント Web 公開ソリューションではデータベースセッションは自動的に使用され、ユーザが無効にすることはできません。
ステータスエリアのラベルの言語を選択する	[ステータスエリアの言語] で、インスタント Web 公開ページのステータスエリアに表示されるラベルの言語を選択します。 この設定を行うと、インスタント Web 公開のユーザインターフェイスにあるすべてのテキストの言語が変更されます。この中には、ステータスエリア、インスタント Web 公開のホームページ、フォームベースの 認証 、ダイアログボックス、エラーメッセージなどが含まれます。 ステータスエリアの言語の設定によって、データベースに保存されたデータの言語が変更されることはありません。

2. [保存] をクリックします。

詳細については、開始ページの『FileMaker インスタント Web 公開ガイド』を参照してください。

関連項目

[データベースの管理](#)
[クライアントの管理](#)

[一般 Web 公開設定](#)
[サーバー情報の設定](#)
[Web 公開の設定](#)

クライアントの管理

[クライアント] ペインには、FileMaker Pro や Web 公開クライアントなど FileMaker Server でホストされているデータベースに現在接続しているすべてのユーザが一覧表示されます。ここでは、各ユーザの詳細表示、ユーザへのメッセージ送信、ユーザの接続解除を行うことができます。

クライアントの詳細表示

[ユーザ名] を選択すると、[接続されたクライアント] リストの下にクライアントの詳細が表示されます。[データベースを開く] タブをクリックすると、ユーザが現在使用しているデータベースの一覧を表示することができます（「[データベースを開くの詳細について](#)」を参照）。あるいは、[ユーザの詳細] タブを選択して、ユーザのシステム詳細を表示することができます（「[ユーザの詳細について](#)」を参照）。

クライアント接続の管理

1 つまたは複数のクライアントを選択し、次の [処理:] のいずれかを選択してから、[処理の実行] をクリックします。

[処理:] の選択肢	目的
メッセージを送信	FileMaker Server に接続している、選択した FileMaker Pro クライアントにテキストメッセージを送信します。「 FileMaker Pro クライアントへのメッセージの送信 」を参照してください。
すべてのクライアントへメッセージを送信	FileMaker Server に接続している、すべての FileMaker Pro クライアントにテキストメッセージを送信します。「 FileMaker Pro クライアントへのメッセージの送信 」を参照してください。
接続解除	FileMaker Server に接続している、選択したクライアントの接続を解除します。「 クライアントの接続解除 」を参照してください。
すべてのクライアントを接続解除	FileMaker Server に接続している、選択したクライアントの接続を解除します。「 クライアントの接続解除 」を参照してください。

注意

- 一覧表示されたクライアントを昇順または降順に並べ替えるには、列タイトルをクリックします。
- 列の幅を変更するには、列タイトルを選択して横方向にドラッグします。
- 列を異なる順序に並べ替えるには、列タイトルをクリックしてドラッグし、挿入先の場所にドロップします。
- クライアントリスト、データベースオープンリスト、ユーザ詳細リストから情報をコピーするには、行を選択して、[編集]メニュー->[コピー]を選択します。

関連項目

[FileMaker Pro クライアントの設定](#)

[一般 Web 公開設定](#)

[ODBC および JDBC 経由での共有の有効化](#)

ユーザの詳細について

[ユーザの詳細] タブには、FileMaker Server に接続している [クライアント](#) の詳細情報が一覧表示されます。

詳細	説明
コンピュータ名	クライアントのコンピュータ名。
MAC アドレス	クライアントが FileMaker Server への接続に使用しているコンピュータネットワークアダプタの MAC (メディアアクセスコントロール) アドレス。
オペレーティングシステム	クライアントのコンピュータのオペレーティングシステム名。
クライアント/ブラウザのバージョン	FileMaker Pro のクライアントの場合は、そのクライアントが使用している FileMaker Pro のバージョン。 インスタント Web 公開 の場合は、クライアントが使用している Web ブラウザ名。
言語	クライアントが使用している言語。

関連項目

[クライアントの管理](#)

データベースを開くの詳細について

[データベースを開く] タブには、[クライアント](#)とそのクライアントが現在使用しているデータベースの詳細情報が一覧表示されます。

詳細	説明
データベース名	クライアントが使用しているデータベース。クライアントが複数のデータベースに接続している場合は、ここにデータベースが一覧表示されます。
アカウント名	FileMaker Server へのログインに使用した アカウント 名。
アクセス権セット	ホストされているデータベースにアクセスするアカウントで使用する、FileMaker Pro の アクセス権セット 。
接続時間	クライアントがデータベースに接続した日付と時間。

関連項目

[クライアントの管理](#)

FileMaker Pro クライアントへのメッセージの送信

FileMaker Server でホストされたデータベースに接続している FileMaker Pro [クライアント](#)にメッセージを送信することができます。メッセージは、FileMaker Pro のすべてのクライアント、または選択したクライアントに贈ることが可能です。

1 人または複数のクライアントにメッセージを送信するには、次の操作を行います。

1. [クライアント] を選択し、[接続されたクライアント] リストからクライアントを選択します。
2. [処理:] で、[メッセージを送信] または [すべてのクライアントへメッセージを送信] を選択します。

[処理の送信] を選択すると、メッセージは選択したクライアントに送信されます。

[すべてのクライアントへメッセージを送信] を選択すると、メッセージは FileMaker Server でホストされたすべてのデータベースに接続しているすべてのクライアントに送信されます。

3. [処理の実行] をクリックして、[メッセージを送信] ダイアログボックスを開きます。
4. メッセージを入力し、[メッセージを送信] をクリックします。

FileMaker Server によって、選択されたクライアントにメッセージが送信されます。

注意

- [インスタント Web 公開](#)または[カスタム Web 公開](#)経由で接続しているクライアントへは、メッセージを送信することができません。
- [メッセージを送信] タスクをスケジュールすることによってメッセージを FileMaker Pro のクライアントに送信することもできます。

関連項目

[選択したデータベースの FileMaker Pro クライアントへのメッセージの送信](#)

[クライアントの接続解除](#)

[ホストされたデータベースのクライアントへのスケジュールメッセージの送信](#)

[クライアントの管理](#)

クライアントの接続解除

FileMaker Server から選択したクライアント、またはすべてのクライアントの接続を解除するには、次の操作を行います。

1. [クライアント] を選択し、[接続されたクライアント] リストから [クライアント](#) を選択します。
2. [処理:] で、[接続解除] または [すべてのクライアントを接続解除] を選択します。
3. [処理の実行] をクリックします。

[クライアントの接続解除] ダイアログボックスが開きます。

4. [メッセージ] に、接続を解除する前にクライアントに送信するメッセージを入力します。
5. [遅延時間] に、通知が送信されてからクライアントが接続解除されるまでの時間（分）を数字で入力します。
6. [メッセージを送信] をクリックします。

クライアントには、ファイルへの接続を閉じるよう要求するメッセージが含まれる通知ダイアログボックスが表示されます。

クライアントがまだ接続を解除していない場合、FileMaker Server は、所定の遅延時間が経過した時点でクライアントの接続を解除します。

関連項目

[FileMaker Pro クライアントへのメッセージの送信](#)

[ホストされたファイルの閉じ方](#)

[クライアントの管理](#)

データベースの管理

[データベース] パネルには FileMaker Server によってホストされるすべてのデータベースが一覧表示されます。データベースファイルはデフォルトの [データベースフォルダ](#)、追加のデータベースフォルダ、およびその他のサブフォルダにグループ分けされます。ホストされているデータベースを管理するには、[処理:] メニューの [処理の実行] をクリックして目的の操作を選択します。

ホストされたデータベースについて

FileMaker Server を起動すると、FileMaker Server のデータベースフォルダ、オプションの追加データベースフォルダ、および 1 レベル下のサブフォルダ内にあるファイルがすべて自動的に開かれます (ホストされます)。[データベースのホスト](#) を参照してください。

データベースの詳細の表示

各データベースの [状態]、FileMaker Pro によって有効になる [拡張アクセス権](#)、および現在データベースに接続している [クライアント](#) の [詳細情報] を表示できます。

ホストされたデータベースの管理

1 つまたは複数のデータベースを選択し、次の [処理:] の 1 つを選択して [処理の実行] をクリックします。

選択する処理	目的
メッセージの送信	選択したデータベースに接続しているすべての FileMaker Pro クライアントにテキストメッセージを送信する。 選択したデータベースの FileMaker Pro クライアントへのメッセージの送信 を参照してください。
全員にメッセージを送信	FileMaker Server でホストされているデータベースに接続しているすべての FileMaker Pro クライアントにテキストメッセージを送信する。 選択したデータベースの FileMaker Pro クライアントへのメッセージの送信 を参照してください。
開く	選択したデータベースのうち [状態] が [閉じました] または [チェック中] のものを開く。 ホストされているファイルの開き方 を参照してください。
すべて開く	[状態] が [閉じました] または [チェック中] であるすべてのデータベースを開く。 ホストされているファイルの開き方 を参照してください。
閉じる	選択したデータベースのうち [状態] が [正常]、[一時停止中]、[開き中]、または [チェック中] のものを閉じる。 ホストされたファイルの閉じ方 を参照してください。
すべて閉じる	[状態] が [正常] または [一時停止中] であるすべてのデータベースを閉じる。 ホストされたファイルの閉じ方 を参照してください。
一時停止	選択したデータベースのうち [状態] が [正常] であるものを一時停止する。 ホストされているファイルの一時停止 を参照してください。

選択する処理	目的
すべて一時停止	[状態] が [正常] であるすべてのデータベースを一時停止する。 ホストされているファイルの一時停止 を参照してください。
再開	選択したデータベースのうち [状態] が [一時停止中] のデータベースを再開する。 ホストされているファイルの再開 を参照してください。
すべて再開	[状態] が [一時停止中] のすべてのデータベースを再開する。 ホストされているファイルの再開 を参照してください。
削除	選択したデータベースのうち [状態] が [閉じました] のものを削除するか、または空のサブフォルダを削除する。 ホストされているファイルの削除 を参照してください。
アップロード	FileMaker Pro データベースを アップロード する。このオプションを選択すると、データベースアップロード アシスタント が開き、データベースファイルが FileMaker Server デフォルトフォルダまたは追加フォルダにコピーされます。 データベースファイルのアップロード を参照してください。

注意

- データベースリスト内のショートカットメニューを使用して [処理:] メニュー内のコマンドを実行できます。選択したデータベースを右クリックして操作を選択します。
- 列の幅を変更するには、列タイトルの境界を選択して横方向にドラッグします。
- 列の順序を変更するには、列タイトルをクリックしてドラッグし、目的の位置にドロップします。
- データベースリストまたは詳細リストから情報をコピーするには、行を選択して [編集] メニューから [コピー] を選択します。

関連項目

[データベースのホスト](#)

[データベースサーバーのセキュリティ設定](#)

[データベースバックアップのスケジュール](#)

選択したデータベースの FileMaker Pro クライアントへのメッセージの送信

選択したデータベースまたは FileMaker Server によってホストされているすべてのデータベースに接続されている FileMaker Pro [クライアント](#) にメッセージを送信できます。

メッセージを送信するには、次の手順を行います。

1. [データベース] を選択します。
2. データベースフォルダを開くか、または必要に応じて追加のデータベースフォルダを開きます。
3. メッセージを選択したデータベースのクライアントに送信している場合は、1 つまたは複数のデータベースを選択します。
4. [処理:] で、[メッセージを送信] または [全員にメッセージを送信] を選択します。

[メッセージを送信] を選択した場合は、メッセージは選択したデータベースに接続されているすべての FileMaker Pro クライアントに送信されます。

[全員にメッセージを送信] を選択した場合は、メッセージは FileMaker Server によってホストされている任意のデータベースに接続されているすべての FileMaker Pro クライアントに送信されます。

5. [処理の実行] をクリックすると、[メッセージの送信] ダイアログボックスが表示されます。
6. メッセージを入力して [メッセージの送信] をクリックします。

FileMaker Server によって、選択したデータベースに接続されたクライアントにメッセージが送信されます。

注意 [インスタント Web 公開](#) または [カスタム Web 公開](#) を介して接続されたクライアントにはメッセージを送信できません。

関連項目

[FileMaker Pro クライアントへのメッセージの送信](#)

[ホストされたデータベースのクライアントへのスケジュールメッセージの送信](#)

[データベースの管理](#)

ホストされているファイルの開き方

[閉じました]状態のデータベースファイルを開きます。

ホストされたデータベースを開くには、次の手順を行います。

1. [データベース]を選択します。
2. データベースフォルダを開くか、または必要に応じて追加のデータベースフォルダを開きます。
3. 選択したデータベースを開いている場合は、1つまたは複数の[閉じました]データベースを選択します。
4. [処理:]で、[開く]または[すべて開く]を選択します。
5. [処理の実行]をクリックします。

注意

- [データベース]の一覧でフォルダを選択した場合は、そのフォルダ内のすべてのファイルが FileMaker Server によって開かれます。
- 状態が[チェック中]の場合は、FileMaker Server がファイルを開く前にファイルの構造をチェックしています。サイズが大きいファイルのチェックには数分かかる場合があります。
- [チェック中]状態のデータベースを開いて一貫性チェックをスキップすることもできます。これはデータベースが開かない場合にのみ実行してください。

関連項目

[ホストされたファイルの閉じ方](#)

[クライアントの接続解除](#)

[データベースの管理](#)

ホストされたファイルの閉じ方

[正常] または [一時停止] 状態の1つまたは複数のホストされているデータベースを閉じます。

データベースを閉じてクライアントの接続を解除するには、次の手順を行います。

1. [データベース] を選択します。
2. データベースフォルダを開くか、または必要に応じて追加のデータベースフォルダを開きます。
3. 選択したデータベースを閉じている場合は、1つまたは複数の [正常] または [一時停止中] データベースを選択します。
4. [処理:] で、[閉じる] または [すべて閉じる] を選択します。
5. [処理の実行] をクリックします。
6. [データベースを閉じる] ダイアログボックスが表示されたら、次の操作を行います。
 - [メッセージ] には、接続が解除される前に クライアント に送信するメッセージを入力します。
 - [遅延時間] には、通知が送信される時間とクライアントの接続が解除されるまでの時間の分数を入力します。
 - [メッセージの送信] をクリックします。

クライアントには、ファイルへの接続を閉じるよう要求するメッセージが含まれる通知ダイアログボックスが表示されます。

遅延時間が経過すると、FileMaker Server は、まだ接続しているクライアントの接続を解除して、フォルダ内のファイルを閉じます。対象のファイルの状態が [閉じました] に変わります。

FileMaker Server がファイルを閉じる処理を開始したことを示すために、閉じるファイルの [状態] が [終了中] に変わります。

多くのデータベースファイル、容量の大きいデータベースファイル、または多くのクライアントが接続しているファイルを閉じる処理が完了するまでには、数分かかる場合があります。

注意 [閉じる] は、[開き中] または [チェック中] 状態のデータベースに実行でき、ファイルが開いているときには実行されている一貫性チェックをキャンセルできます。

関連項目

[クライアントの接続解除](#)

[使用状況の表示](#)

[FileMaker Pro クライアントへのメッセージの送信](#)

[データベースの管理](#)

ホストされているファイルの一時停止

状態が [正常] である 1 つまたは複数の開いているデータベースへのアクセスを一時的に停止します。接続されている [クライアント](#) は、一時停止している間、データベースからデータを読み取ることができませんが、データベースが再開されるまでデータベースを修正することはできません。たとえば、データベースを一時停止してファイルのコピーを作成してオペレーティングシステムを安全に使用することができます。

1 つまたは複数のホストされているデータベースを一時停止するには、次の手順を行います。

1. [データベース] を選択します。
2. データベースフォルダを開くか、または必要に応じて追加のデータベースフォルダを開きます。
3. 選択したデータベースを一時停止している場合は、1 つまたは複数の [正常] データベースを選択します。
4. [処理:] で、[一時停止] または [すべて一時停止] を選択します。
5. [処理の実行] をクリックします。

関連項目

[ホストされているファイルの再開](#)
[ホストされているファイルの開き方](#)
[ホストされたファイルの閉じ方](#)
[データベースの管理](#)

ホストされているファイルの再開

一時停止されている1つまたは複数のデータベースを利用可能にします。

1つまたは複数のホストされているデータベースを再開するには、次の手順を行います。

1. [データベース] を選択します。
2. [Databases] フォルダを開くか、または必要に応じて追加のデータベースフォルダを開きます。
3. 選択したデータベースを再開する場合は、1つまたは複数の[一時停止中]データベースを選択します。
4. [処理:] で、[再開] または [すべて再開] を選択します。
5. [処理の実行] をクリックします。

関連項目

[ホストされているファイルの一時停止](#)

[ホストされているファイルの開き方](#)

[ホストされたファイルの閉じ方](#)

[データベースの管理](#)

ホストされているファイルの削除

状態が [閉じました] の選択したデータベースの1つまたは複数削除するか、または空のサブフォルダを削除することができます。選択したデータベースは Removed_by_FMS/Removed フォルダに移動されます。Removed_by_FMS/Removed フォルダは、選択したデータベースがある場所によってデフォルトの [データベースフォルダ](#) または追加のデータベースフォルダのどちらかの中に作成されます。

次の表は、ホストされているデータベースが削除された後に移動される場所の例を示しています。

削除前の場所	削除後の場所
Databases¥ABC.fp7	Databases¥Removed_By_FMS\ Removed¥ABC.fp7
Databases¥[Subfolder]¥ ABCsub.fp7	Databases¥Removed_By_FMS¥Removed¥ [Subfolder]¥ABCsub.fp7
[Additional]/ABCadd.fp7	[Additional]/Removed_By_FMS/Removed/ ABCadd.fp7
[Additional]/[Subfolder]/ ABCsub.fp7	[Additional]/Removed_By_FMS/Removed/ [Subfolder]/ABCsub.fp7

1つまたは複数のデータベースを削除するには、次の手順を行います。

1. [データベース] を選択します。
2. [Databases] フォルダを開くか、または必要に応じて追加のデータベースフォルダを開きます。
3. 1つまたは複数の [閉じました] データベースを選択します。
4. [処理:] で、[削除] を選択します。
5. [処理の実行] をクリックします。
6. [はい] をクリックして選択したデータベースを削除します。

注意 ホストされているファイルを削除する場合は、同じファイル名のファイルを [アップロード](#) して、2番目のファイルを削除します。次に FileMaker Server によって最初の削除されたファイルが2番目の削除されたファイルで上書きされます。

空のサブフォルダを削除するには、次の手順を行います。

1. [データベース] を選択します。
2. リストから1つまたは複数の空のサブフォルダを選択します。
サブフォルダを削除するには、サブフォルダからすべてのファイルを削除する必要があります。
3. [処理:] で、[削除] を選択します。
4. [処理の実行] をクリックします。
5. [はい] をクリックして空のフォルダを削除します。
選択した空のフォルダが削除されます。データベースが削除される時のようには移動されません。

関連項目

[ホストされたファイルの閉じ方](#)

[データベースのホスト](#)

[データベースの管理](#)

FileMaker Server での ODBC と JDBC の使用

次のような方法で FileMaker Server を使用することができます。

- **データソース**。FileMaker Server Advanced ライセンスがある場合に使用できます。ホストされている FileMaker Pro データベースファイルを **ODBC** (Open Database Connectivity) および **JDBC** (Java Database Connectivity) を使用して同じコンピュータで他のアプリケーションと共有できます。たとえば、他のアプリケーションで FileMaker Pro データを使用して、グラフを作成したり、数値を分析したり、レポートを生成したりすることができます。
- ODBC **クライアントアプリケーション**。ホストされている FileMaker Pro データベースは同じコンピュータ上またはネットワーク上でデータソースと情報交換を行うことができます。たとえば、ホストされている FileMaker Pro データベースは FileMaker Pro **リレーションシップグラフ** およびレイアウトで定義するとおり Oracle データソースと情報交換を行うことができます。

データソースとしての FileMaker Server Advanced

FileMaker Server Advanced には、データベースを ODBC と JDBC を介してデータソースとして共有するのに必要なすべてのソフトウェアが含まれています。これには、他の ODBC または JDBC 互換アプリケーションからデータベースにアクセスする場合に使用する、FileMaker クライアント**ドライバ**が含まれます。データベースファイルの共有化の詳細については、[ODBC および JDBC 経由での FileMaker データベースの共有](#)を参照してください。

サポートされる **SQL** ステートメント、式、Catalog 関数、クライアントドライバについては、開始ページの『FileMaker ODBC と JDBC ガイド』を参照してください。

ODBC クライアントアプリケーションとしての FileMaker Server

FileMaker Server または FileMaker Server Advanced をクライアントアプリケーションとして使用する場合、ODBC データソース用のドライバをインストールして設定し、FileMaker Pro データベースが使用するように指定されているデータソース名 (DSN) にアクセスしてセットアップする必要があります。たとえば、ODBC を使用して Oracle データベースからのデータにアクセスするには、Oracle ODBC クライアントドライバをインストールし、FileMaker Pro データベースが使用するように指定されていたのと同じ DSN を設定する必要があります。FileMaker Server は複数のサードパーティドライバをサポートします。詳細については、[「外部 ODBC データソースへのアクセス」](#)を参照してください。

次の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

- ODBC データソースをインタラクティブに、リアルタイムに、リレーションシップグラフおよびレイアウトを使用して操作する。
- SQL クエリーを使用したバッチ操作で、ODBC データをインポートする。

FileMaker Server で必要な ODBC の操作

操作	参照先	製品
FileMaker Pro データベースをデータソースとしてホストする	ODBC および JDBC 経由での FileMaker データベースの共有 開始ページの『FileMaker ODBC と JDBC ガイド』	FileMaker Server Advanced ライセンスが必要

操作	参照先	製品
外部 ODBC データソースにアクセスする FileMaker Pro データベースをホストする	外部 ODBC データソースへのアクセス FileMaker Pro ヘルプ	FileMaker Server または FileMaker Server Advanced

関連項目

[サーバー情報の設定](#)

ODBC および JDBC 経由での FileMaker データベースの共有

FileMaker Server Advanced を使用して FileMaker データベースファイルを データソース としてホストし、ODBC および JDBC を使用して他のアプリケーションとデータを共有できます。FileMaker Server は最大 50 までの接続が使用でき、ローカルアクセス（同じコンピュータ）、およびリモートアクセス（Web サーバー などのミドルウェアと、デスクトップ生産性向上アプリケーションからのリモート クライアント アクセスの両方）をサポートしています。

ホストされている **FileMaker Pro** データベースを **ODBC** および **JDBC** を経由して共有するには、次の手順を行います。

1. FileMaker Pro で、データベースを開いてデータベースにアクセスするアカウント用の アクセス権セット を編集します。 拡張アクセス権 ODBC/JDBC によるアクセスを有効にします。詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

注意 FileMaker データベースソリューションが複数の FileMaker データベースファイルを使用している場合は、すべてのデータベースファイルは拡張アクセス権 **ODBC/JDBC** によるアクセスが有効になっているアクセス権セットを使用する必要があります。

2. FileMaker Server Admin Console で、**[ODBC/JDBC]** をクリックして **[ODBC/JDBC を有効にする]** を選択します。
3. データベースファイルを FileMaker Server にアップロードします。 データベースのホスト を参照してください。

注意 FileMaker データベースソリューションで複数の FileMaker データベースファイルを使用する場合、すべてのデータベースファイルは同じ FileMaker Server 展開上 でホストされている必要があります。

4. ホストされているデータベースにアクセスする必要がある各クライアントコンピュータ上で、FileMaker ODBC または JDBC クライアント ドライバ をインストールして設定します。

FileMaker データソースにアクセスするようにクライアントドライバをインストールおよび設定する際の詳細については、開始ページの『FileMaker ODBC と JDBC ガイド』を参照してください。

関連項目

[ODBC および JDBC 経由での共有の有効化](#)

[FileMaker Server での ODBC と JDBC の使用](#)

ODBC および JDBC 経由での共有の有効化

FileMaker Server Advanced は、他のアプリケーション（スプレッドシート、ワードプロセッサ、およびレポートツール）に対して [ODBC/JDBC](#) を経由してデータをホストすることができます。ユーザは、ホストされている FileMaker データベース内のデータを表示、分析、および修正することができます。データをホストするには、この機能を FileMaker Server Admin Console 内で有効にし、FileMaker Pro を使用して共有する各データベース内で ODBC/JDBC を経由した共有を有効にする必要があります。

詳細については、「[ODBC および JDBC 経由での FileMaker データベースの共有](#)」を参照してください。

注意 ODBC/JDBC を経由した共有には FileMaker Server Advanced ライセンスが必要です。

ODBC/JDBC を経由した共有を無効にするには、次の操作を行います。

1. **[ODBC/JDBC]** を選択します。
2. **[ODBC/JDBC を有効にする]** を選択します。
3. **[保存]** をクリックします。

注意

- この機能を有効にすると、クライアントが ODBC および JDBC を経由して FileMaker Server を [データソース](#) として使用できます。ODBC を経由して外部 SQL データソースにアクセスする FileMaker Pro データベースをホストするためにこの ODBC/JDBC データソース機能を有効にする必要はありません。[外部 ODBC データソースへのアクセス](#) を参照してください。
- 他のアプリケーションが FileMaker Server サーバ上でホストされている FileMaker データにアクセスするには、ODBC および JDBC クライアント [ドライバ](#) がそれらのアプリケーションを実行しているコンピュータ上にインストールされている必要があります。クライアントドライバ用のインストーラは FileMaker Server CD で提供されています。また、ダウンロードすることもできます。
- FileMaker Pro を使用して、共有したいデータベースそれぞれで ODBC/JDBC 共有を有効にする必要があります。ODBC/JDBC を経由した共有の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。
- クライアントドライバのインストールの詳細および FileMaker Server Advanced でサポートされている [SQL](#) ステートメントの詳細については、開始ページの『FileMaker ODBC と JDBC ガイド』を参照してください。

関連項目

[データベースファイルのアップロード](#)

[電子メール通知設定](#)

[データベースサーバーのセキュリティ設定](#)

[サーバー情報の設定](#)

外部 ODBC データソースへのアクセス

外部 [ODBC データソース](#)内のデータと情報交換する FileMaker Pro データベースをホストする場合は、[ODBC クライアントドライバ](#)を FileMaker Pro データベースがアクセスする ODBC データソース用に構成する必要があります。たとえば、データベースが Oracle データベースからレコードにアクセスする場合は、Oracle クライアントドライバを設定する必要があります。

注意 ODBC クライアントドライバは FileMaker Server [展開](#)上の [マスタ](#)コンピュータ上にインストールして設定する必要があります。

FileMaker Pro または Web 公開クライアントがホストされている FileMaker Pro データベースに接続すると、FileMaker Server はクライアントの代わりとして外部 ODBC データソース内のデータにアクセスします。したがって、FileMaker Server に接続しているクライアントは、外部データソースとは直接情報交換をせず、ODBC クライアントドライバをインストールして設定する必要はありません。FileMaker Server 展開上のマスタコンピュータのみに ODBC クライアントドライバが必要です。

外部データソースにアクセスする FileMaker Pro データベースの指定に関する詳細は、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

ODBC クライアントドライバを設定して DSN を FileMaker Server 上にセットアップする方法

データソースとの情報交換、パスワードの提供、およびクエリーを実行して結果を表示する方法は、それぞれのアプリケーションのクライアントドライバによって異なります。また、データソースの設定も ODBC クライアントドライバの製造元によって異なる場合があります。

サポートされるデータソースおよび ODBC クライアントドライバのリストについては、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

データソースを設定するための一般的なガイドラインとして、次の手順に従ってください。詳細については、各データソースアプリケーションに付属のマニュアルを参照してください。

1. (Windows の場合) Windows コントロールパネルで、[管理ツール]>[データソース (ODBC)] を選択します。Windows XP では、管理ツールはパフォーマンスとメンテナンスカテゴリに表示されます。

(Mac OS の場合) ODBC データソースアドミニストレータを起動します。ODBC アドミニストレータユーティリティは、Mac OS X (アプリケーション/ユーティリティフォルダ) で使用できます。

2. [システム DSN] タブをクリックします。

データソースが一覧に表示される場合、ドライバはすでに設定されています。残りの手順を省略して、ODBC データにアクセスするか、データソースを選択して [設定] をクリックして、データソースの操作方法を変更することができます。

システム [DSN](#) (データソース名) は、コンピュータにログインするすべてのユーザが利用できます。ユーザ DSN は、ログインしている場合にのみ利用できます。

重要 FileMaker Pro [リレーションシップグラフ](#)の ODBC テーブルを使用して作業する FileMaker Pro データベースでは、システム DSN だけがサポートされています。

3. [追加 ...] をクリックして、データソースのドライバを設定します。

コンピュータにインストールされている ODBC クライアントドライバがすべて一覧表示されます。

FileMaker Server は複数のサードパーティドライバをサポートします。サポートされているドライバの詳細については、www.filemaker.co.jp を参照してください。

新しいドライバをインストールするには、ドライバのインストールプログラムを使用します。

4. ホストされている FileMaker Pro データベースがアクセスするように指定されているデータソース用のドライバを選択して、[完了] をクリックします。
セットアップダイアログボックスが表示されます。
5. [データソース名] に FileMaker Pro データベースが接続するように指定されている同一のデータソース名を入力します。

重要 ここに入力するデータソース名は、FileMaker Pro 内で使用するよう指定されているデータベース名と同一でなければなりません。ホストする各データベースによって使用されるそれぞれのデータソース名に対して、FileMaker Server マスタコンピュータ上で一致するデータソース名を設定する必要があります。

多くのドライバでは、データソースへのアクセス方法をカスタマイズするためのオプションも提供されています（特定のデータソースファイルを指定するなど）。

6. [OK] をクリックします。

関連項目

[FileMaker Server での ODBC と JDBC の使用](#)

FileMaker Server の監視

使用状況を表示したり、FileMaker Server アクティビティを追跡できます。Admin Console には、サーバーパフォーマンスの監視に役立つ使用状況が表示されます。FileMaker Server [展開](#)の監視、および問題のトラブルシューティングの支援のために、FileMaker Server では、以下のタスクの実行がサポートされます。

- [使用状況の表示](#)
- [ログファイルでのアクティビティの追跡](#)

以下の表は、FileMaker Server で追跡される情報の参照箇所をまとめています。

監視	参照先	説明
使用状況	[使用状況] ペイン Stats.log (マスタマシン)	FileMaker Server のパフォーマンス、およびログインしたクライアント数
イベント	Events.log (マスタマシン) Windows: イベントビューア (マスタマシン)	データベースサーバー の起動および停止イベント、一貫性チェック、FileMaker Server 設定でのエラー状況
データベースサーバーへの クライアントアクセス	Access.log (マスタマシン)	クライアントの接続または接続解除、およびデータベースを開くまたは閉じる処理
Web 公開コア の内部アクセス	wpc_access_log.txt (Web 公開エンジンマシン)	FileMaker API for PHP からのリクエストなど、 XML の生成および FileMaker Server インスタント Web 公開 を求めるエンドユーザーリクエスト
	pe_internal_access_log.txt (Web 公開エンジンマシン)	XSLT リクエストの処理中に Web 公開エンジンの XSLT-CWP ソフトウェアコンピュータによって実行されるすべての内部 XML リクエスト
Web 公開エンジン のアプリケーションログ	pe_application_log.txt (Web 公開エンジンマシン)	Web 公開エンジンの起動および停止イベント、エラー、スクリプト、およびユーザーログ情報
Web サーバーモジュール	web_server_module_log.txt (Web サーバーマシン)	Web サーバー間、および Web 公開エンジン間での通信エラー

すべてのログファイルは、「Logs」フォルダ内の次の場所にあります。

- Windows: [ドライブ]:\Program Files\FileMaker\FileMaker Server\Logs
- Mac OS: /ライブラリ/FileMaker Server/Logs

注意 複数のマシン展開では、これらのログファイルは、上記の表に示したマシンにあります。

使用状況の表示

FileMaker Server の使用状況を Admin Console で表示するには、[[使用状況](#)] を選択します。[[使用状況](#)] ペインには、[[接続](#)] および [[データベースの統計](#)] 属性の集計が示されます。

接続の統計

それぞれの使用状況の [[タイプ](#)] で収集される属性には、[[現在](#)]、[[平均](#)]、[[低](#)]、および [[ピーク](#)] の [クライアント](#) 接続数があります。

使用状況	説明
FileMaker Pro クライアント	接続している FileMaker Pro クライアントの数。この情報を使用して、FileMaker Pro クライアントの最大数を設定することができます。
ODBC/JDBC	接続している ODBC/JDBC クライアントの数。
インスタント Web 公開	接続している インスタント Web 公開 クライアントの数。
カスタム Web 公開 (PHP、XML、XSLT)	接続している カスタム Web 公開 クライアントの数。この情報を使用して、カスタム Web 公開クライアントの最大数を設定することができます。

データベースの統計

それぞれの使用状況の [[タイプ](#)] で収集される属性には、[[現在](#)]、[[平均](#)]、[[低](#)]、および [[ピーク](#)] の値があります。

使用状況	説明
キャッシュヒット %	FileMaker Server がデータをハードディスクからではなく キャッシュ (RAM) から取得した回数のパーセンテージ。RAM からの読み取りはハードディスクからの読み取りよりも大幅に効率的なので、この値は、90 や 95 などの高い数字である必要があります。この値が高くない場合は、FileMaker Server データベースキャッシュにより多くのメモリを割り当てることができます。
保存していないキャッシュ %	現在保存されていないキャッシュの割合。システムクラッシュが発生した場合にデータが失われないよう、これは 0 や 5 などの低い数字である必要があります。この数字が常に高い場合は、キャッシュフラッシュの間隔を短くしてください。
ディスク (キロバイト/秒)	ディスクに書き込まれているデータの量。データの単位は KB です。
経過時間/呼び出し	リモートコールの処理時間。[経過時間/呼び出し] の平均値が高く、[待ち時間/呼び出し] の平均値が低い場合、サーバーで実行している処理が変更されたかどうかをクライアントに確認してください。さらに多くのフィールドに索引を追加するか、他のソリューション変更が必要な場合があります。

使用状況	説明
I/O 時間 / 呼び出し	リモートコールがディスクの読み取りまたは書き込みを待機する時間。[I/O 時間 / 呼び出し] の平均値が高く、[キャッシュヒット %] の平均値が低い場合、データベースキャッシュのサイズを増やすことができます。[I/O 時間 / 呼び出し] および [キャッシュヒット %] の平均値がともに高い場合、コンピュータで追加のハードドライブまたは RAID システムを使用できます。
ネットワーク (キロバイト / 秒)	ネットワークで転送されているデータの量 (KB 単位)。
データベースを開く	開いているデータベースの数。この情報を使用して、[ホストする最大のファイル数:] オプションを設定します。
リモート呼び出し / 秒	すべてのクライアントから受信した個々のリモートコール数を時計のサンプリング間隔で除算した結果。クライアントサイドからは 1 つの処理を実行しているように思える場合でも、リモートコールは複数ある可能性があるので注意してください。
待ち時間 / 呼び出し	リモートコールが他のプロセスを待機する時間。

FileMaker Server では、指定した間隔で使用状況リストが更新されます。使用状況の計算に必要なオーバーヘッドを減らすには、FileMaker Server による使用状況の収集間隔を広げることができます。ただし、この場合、使用状況は、FileMaker Server によりシステムリソースがどのように使用されているかを示す概算値になります。

使用状況収集間隔の設定の詳細については、[ログおよび使用状況の設定](#)を参照してください。

FileMaker Server では、使用状況をログファイルに保存することもできます。[ログファイルでのアクティビティの追跡](#)を参照してください。

関連項目

[クライアントの管理](#)

[データベースの管理](#)

[ログおよび使用状況の設定](#)

[FileMaker Server の監視](#)

ログファイルでのアクティビティの追跡

FileMaker Server では、アクティビティや[クライアント](#)アクセス、および処理されるその他の情報が追跡されます。この情報は以下のログファイルに記録されます。

- [イベントログ](#)
- [アクセスログ](#)
- [使用状況ログ](#)
- [Web 公開ログ](#)
- [Web サーバーモジュールログ](#)

標準のテキストファイルを開くことができるアプリケーションまたは Mac OS のコンソールアプリケーションを使用して、このファイルを開いたり、印刷したりすることができます。

FileMaker Server の実行中に、Mac OS のコンソールアプリケーションでログファイルを開いておくことができます。イベントは継続的に記録され、最新のログエントリは、コンソールアプリケーションのウィンドウの末尾に表示されます。

すべてのログファイルは、「Logs」フォルダ内の次の場所にあります。

- Windows: [ドライブ]:\Program Files\FileMaker\FileMaker Server\Logs
- Mac OS:/ライブラリ/FileMaker Server/Logs

注意 複数のマシン[展開](#)では、これらのログファイルは、ログを生成する FileMaker Server コンポーネントと同じマシンにあります。

関連項目

[ログおよび使用状況の設定](#)

[一般 Web 公開設定](#)

[FileMaker Server の監視](#)

イベントログ

[データベースサーバー](#) の実行中に発生するイベントは、タイムスタンプとともにログに記録されます。ログに記録される代表的なイベントを以下に示します。

- データベースサーバーの起動と停止
- データベースサーバーによって開かれたデータベースファイルと閉じられたデータベースファイル
- 正しく閉じられなかった、または FileMaker 製品で開かれたことがないファイルに対して一貫性チェックが実行されます。
- 新しい[スケジュール](#)、完了したスケジュール、予定されたスケジュール、および実行中のスケジュール
- 現在の設定でデータベースサーバーによって検出された、あらかじめ定義されたエラーと状態
- データベースサーバーが起動したときの現在のプロパティの設定、およびデータベースサーバーセッション中に変更された設定

イベントは、「FileMaker Server/Data/Logs/」フォルダに作成される「Event.log」ファイルにタブ区切り付きで記録されます。

Event.log ファイルは、タブ区切りデータを読み込み可能なアプリケーション（FileMaker Pro またはテキストエディタ）またはコンソールアプリケーション（Mac OS）などで開くことができます。

Event.log ファイルのサイズが、データベースサーバーの [ログ] タブで指定した [ログサイズ] に達すると、このファイルの名前が Event-old.log に変更され、新しい Event.log ファイルが作成されます。

Event.log ファイルのサイズを設定するには、[ログおよび使用状況の設定](#)を参照してください。

Windows では、イベントは、[イベントビューア](#)でアクセスされる Windows アプリケーションログにも記録されます。詳細については、[イベントビューアでのアクティビティの表示 \(Windows\)](#)を参照してください。

イベントログで報告されるエラー状況の詳細については、[FileMaker Server イベントログメッセージ](#)を参照してください。

関連項目

[イベントログの言語の変更](#)

[ログファイルでのアクティビティの追跡](#)

イベントビューアでのアクティビティの表示 (Windows)

FileMaker Server アクティビティの情報を表示するには、Windows [イベントビューア](#)を使用できます。イベントビューアを開くには、[スタート]メニュー、[コントロールパネル]、[管理ツール]、[イベントビューア]の順にクリックします。次に、[アプリケーション]ログを選択します。

[ソース]列で、FileMaker Server により記録されたイベントを参照します。イベントをダブルクリックしてイベントの詳細を表示します。

ログファイルの内容をテキストファイルに保存するには、[操作]メニューから[一覧のエクスポート]を選択して、イベントビューアに表示される情報をタブ区切りテキストファイル(.TXT)に保存します。その後、情報を FileMaker Pro データベースにインポートして、さらに細かく分析することができます。

関連項目

[イベントログ](#)

[ログファイルでのアクティビティの追跡](#)

イベントログの言語の変更

「Event.log」で、FileMaker Server のインストール時にコンピュータで使用されていた言語と異なる言語を使用する場合は、[マスタ](#)マシンの環境設定ファイル（Mac OS）またはレジストリ（Windows）を変更することによって [Event.log](#) の言語を変更することができます。

以下の手順では、サポートされている言語、English、French、German、Japanese、Italian、または Swedish（ロケール名の大文字と小文字は区別されます）のいずれかの名前にロケール設定を変更できます。

「Event.log」に使用する言語を変更するには、次の操作を行います（Mac OS）。

重要 次の手順は、ターミナルアプリケーションに精通している上級ユーザにのみお勧めします。ルートユーザとしてログインする必要があります。

1. ターミナルアプリケーション（/アプリケーション/ユーティリティ/ターミナル）を起動します。
2. [データベースサーバー](#) を停止します。詳細については、[FileMaker Server の起動と停止](#) を参照してください。
3. ルートユーザとしてログインします。
4. 次の場所にある .plist ファイルを探します。
/Library/FileMaker Server/Library/Preferences/ByHost
5. <key>System Locale</key> の直後の行で、上記の値のいずれかにロケールの名前を変更します。
たとえば、<string>Japanese</string> を <string>French</string> に変更します。
6. 変更を保存します。
7. 変更を有効にするために、データベースサーバーを再起動します。
次回「Event.log」を開くと、エントリが新しい言語で表示されます。

「Event.log」に使用する言語を変更するには、次の操作を行います（Windows）。

重要 次の手順は、Windows レジストリに精通している上級ユーザにのみお勧めします。管理アクセス権を持つ [アカウント](#) を使用してログインする必要があります。

1. データベースサーバーを停止します。詳細については、[FileMaker Server の起動と停止](#) を参照してください。
2. レジストリエディタを起動します。
[スタート] ボタン、[ファイル名を指定して実行] の順にクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスに regedit を指定します。
ヒント レジストリエディタを使用して、レジストリのコピーをエクスポートしてから、先に進みます。
3. レジストリエディタで、以下のキーを探します。
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\FileMaker\FileMaker Server\9.0\Preferences
4. このキーで、SystemLocale エントリをダブルクリックします。

5. SystemLocale エントリの値を上記のいずれかの値に変更して、**[OK]** をクリックします。
たとえば、Japanese を French に変更します。
6. レジストリエディタを終了します。
7. 変更を有効にするために、データベースサーバーを再起動します。
次回「Event.log」を開くと、エントリが新しい言語で表示されます。

関連項目

[イベントログ](#)

[ログファイルでのアクティビティの追跡](#)

アクセスログ

データベースサーバーでは、データベースへのアクセスが Access.log と呼ばれる個別のログファイルに記録されます。ログに記録される代表的なイベントを以下に示します。

- データベースサーバーに接続、およびその接続を解除したクライアント
- 個別の アカウント およびビルトインゲストアカウントを使用してクライアントがアクセスするデータベース

アクセスは、「FileMaker Server/Data/Logs/」フォルダに作成される「Access.log」ファイルにタブ区切り付きで記録されます。

Access.log ファイルは、タブ区切りデータを読み込み可能なアプリケーション（FileMaker Pro またはテキストエディタ）またはコンソールアプリケーション（Mac OS）などで開くことができます。

Access.log ファイルのサイズが、データベースサーバーの [ログ] タブで指定した [ログサイズ] に達すると、このファイルの名前が Access-old.log に変更され、新しい Access.log ファイルが作成されます。

アクセスログを設定するには、[ログおよび使用状況の設定](#)を参照してください。

関連項目

[ログファイルでのアクティビティの追跡](#)

使用状況ログ

[データベースサーバー](#)の使用状況ログを有効にすると、「FileMaker Server/Data/Logs/」フォルダにログファイルが作成されます。Admin Console の [使用状況] ペインに表示されるすべての値には、タイムスタンプが付けられ、ファイルに書き込まれます。[使用状況の表示](#)を参照してください。

これらの使用状況情報を表示するには、タブ区切りデータを読み込み可能なアプリケーション (FileMaker Pro またはテキストエディタ)、またはコンソールアプリケーション (Mac OS) などで「Stats.log」ファイルを開きます。

Stats.log ファイルのサイズが、データベースサーバーの [ログ] タブで指定した [ログサイズ] に達すると、このファイルの名前が Stats-old.log に変更され、新しい Stats.log ファイルが作成されます。

使用状況ログを設定するには、[ログおよび使用状況の設定](#)を参照してください。

関連項目

[ログファイルでのアクティビティの追跡](#)

Web 公開ログ

[Web 公開エンジン](#)では、以下のログファイルが生成されます。

- 「wpc_access_log.txt」アクセスログは、[XML](#) を生成したり、FileMaker Server [インスタント Web 公開](#)を使用するためのすべてのエンドユーザリクエストの記録です。これらのリクエストは、[Web サーバー](#)から Web 公開エンジンの Web 公開コアコンポーネントに直接ルーティングされます。
- pe_internal_access_log.txt アクセスログは、XSLT リクエストの処理中に Web 公開エンジンの XSLT-CWP ソフトウェアコンピュータによって実行されるすべての内部 [XML](#) リクエストの記録です。これらのリクエストは、Web 公開エンジン内で、XSLT-CWP ソフトウェアコンポーネントから Web 公開コアソフトウェアコンポーネントに内部的にルーティングされます。
- pe_application_log.txt アプリケーションログファイルは、Web 公開エンジンエラー、[ScriptMaker](#) スクリプト、およびユーザログ情報のレコードです。
 - エラーログ情報には、Web 公開エンジンで発生した一般的ではないエラーが記述されます。Web ユーザに通知された一般的なエラー（たとえば、「データベースが開いていません」など）は記録されません。
 - スクリプトログ情報には、Web ユーザがスクリプトを実行したときに生成されたエラーが記録されます。たとえば、スクリプトステップが Web 互換でない場合に、スキップされたスクリプトステップの一覧が記述されます。
 - ユーザログメッセージには、XSLT スタイルシートの XSLT `<xsl:message>` エレメントによって生成されたメッセージが含まれます。Web ユーザが XSLT スタイルシートにアクセスすると、`<xsl:message>` エレメント内に含めた情報がアプリケーションログファイルに記録されます。

Web 公開のログを設定するには、[一般 Web 公開設定](#)を参照してください。

注意 Web 公開ログの詳細については、開始ページの『FileMaker Server カスタム Web 公開 with XML and XSLT』および『FileMaker Server カスタム Web 公開 with [PHP](#)』を参照してください。

関連項目

[ログファイルでのアクティビティの追跡](#)

Web サーバーモジュールログ

Web サーバーが Web 公開エンジンに接続できない場合は、Web サーバーモジュールによって、処理に関するエラーの記録であるログファイルが生成されます。このファイルは「web_server_module_log.txt」という名前で、Web サーバー上の「FileMaker Server/Logs/」フォルダにあります。

関連項目

[ログファイルでのアクティビティの追跡](#)

プラグインの管理

FileMaker Server では、サーバーサイドプラグインを使用するように設計されているホストされた FileMaker Pro データベースで外部関数 [プラグイン](#) を使用できます。ホストされるデータベースで、FileMaker Server で有効にされたプラグインが使用される場合、FileMaker Server を実行するマシンでは、[クライアント](#) マシン以外のプラグイン機能を実行できます。

また、FileMaker Server では、必要な、または古いバージョンのクライアントサイドプラグインを FileMaker Pro クライアントに自動的にインストールまたは更新できます。

注意

- ホストコンピュータ上での計算式の解決については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。
- 他社の FileMaker プラグインの開発については、www.filemaker.co.jp で『FileMaker Pro Advanced デベロップメントガイド』を参照してください。

関連項目

[サーバーサイドプラグインの有効化](#)
[プラグインの自動更新の有効化](#)

サーバーサイドプラグインの有効化

サーバーサイド [プラグイン](#) では、以下の目的に使用される外部機能を利用できます。

- 保存された計算またはサーバーサイドクエリー
- FileMaker Server で実行するようにスケジュールされた [ScriptMaker](#) スクリプト ([ScriptMaker スクリプトの実行](#) を参照)

FileMaker Server でプラグインを有効にするには、次の操作を行います。

1. FileMaker Server で使用できるように、プラグインを正しいフォルダに置きます。
詳細については、[サーバーサイドプラグインファイルのフォルダ](#) を参照してください。
2. Admin Console で、データベースサーバーの [サーバープラグイン] タブをクリックします。
3. [**FileMaker Server** でプラグインを使用できるようにする] を選択します。
リストには、プラグインフォルダにあるプラグインが表示されます。
4. FileMaker Server で実行する各プラグインで [有効にする] を選択します。
5. [保存] をクリックします。

注意

- プラグイン（およびプラグインが参照するライブラリ）の中には、システムにログインしているユーザが実行した場合にのみ読み込まれるものがあります。FileMaker Server は、ユーザプロセスとしてではなく [サービス](#) (Windows) または [デーモン](#) (Mac OS) として実行されます。そのため、FileMaker Server で動作するように異なる方法でプラグインを作成する必要があります。ユーザは、オペレーティングシステムのマニュアルを参照して、どのライブラリが標準的に使用可能かを確認する必要があります。
- Web 公開ソリューションで、プラグインが使用される場合、[Web 公開エンジン](#) を実行するマシンのフォルダに同じプラグインのコピーを置く必要があります (Web 公開エンジンが [データベースサーバー](#) と同じマシンで実行している場合も同様です)。

関連項目

[プラグインの管理](#)

サーバーサイドプラグインファイルのフォルダ

[データベースサーバーでプラグイン](#)を使用できるようにするには、FileMaker Server [展開](#)の[マスタ](#)マシンの正しいフォルダにそのプラグインを置く必要があります。

- Windows: [ドライブ]\%Program Files\FileMaker\FileMaker Server\Database Server\Extensions\
- Mac OS: /ライブラリ /FileMaker Server/Database Server/Extensions/

Web 公開ソリューションで、プラグインが使用される場合、[Web 公開エンジン](#)を実行するマシンのフォルダに同じプラグインのコピーを置く必要があります（Web 公開エンジンがデータベースサーバーと同じマシンで実行している場合も同様です）。

- Windows: [ドライブ]:\%Program Files\FileMaker\FileMaker Server\Web Publishing\publishing-engine\wpc\Plugins\
- Mac OS: /ライブラリ /FileMaker Server/Web Publishing/publishing-engine/wpc/Plugins/

注意

- Mac OS 環境の FileMaker Server の場合、プラグインの正しいファイルアクセス権を設定する必要があります。[プラグインファイルアクセス権の変更 \(Mac OS\)](#) を参照してください。
- Web 公開エンジンのプラグインの他に、FileMaker Server または FileMaker Pro 用にインストールされている可能性があるプラグインもインストールする必要があります。これらのプラグインが同じであっても、両方のプラグインをインストールする必要があります。
- Plugins フォルダが存在しない場合、作成する必要があります。このフォルダまたはサブフォルダに配置されたプラグインファイルは、fmsadmin グループによって所有され、グループが読み込み可能、および実行可能でなければなりません。

関連項目

[サーバーサイドプラグインの有効化](#)

プラグインファイルアクセス権の変更 (Mac OS)

プラグインのファイルアクセス権を変更するには、次の操作を行います。

1. ターミナルアプリケーションを起動します。必要に応じて、cd コマンドを使用して、パスを設定します。
2. コマンドラインで次のコマンドを入力します。

```
chmod g+rx <ファイルパス>
```

または

```
chmod g+wx <ファイルパス>
```

プラグインとシステムレベルのスクリプトでは、グループの読み込み、および実行のビットが有効になっている必要があるため、`g+rx` が必要です。`g+wx` 形式を使用して、書き込みアクセス権も許可します。環境設定や追加ファイルのフォルダを使用するプラグインやスクリプトでは、それらのファイルやフォルダへの書き込みアクセス権が必要になる場合があります。

関連項目

[サーバーサイドプラグインファイルのフォルダ](#)

[プラグインの自動更新の有効化](#)

[サーバーサイドプラグインの有効化](#)

プラグインの自動更新の有効化

FileMaker Server でホストされているデータベースファイルで、[クライアント](#)で実行することを目的とした[プラグイン](#)が使用される場合、FileMaker Server と FileMaker Pro クライアントの両方で、Auto Update プラグイン機能を有効にできます。この機能を使用すると、FileMaker Server で、必要な、あるいは古いバージョンのプラグインまたはサポートファイルを FileMaker Pro クライアントに自動的にインストールまたは更新できます。

プラグインを自動的に更新するには、次の操作を行います。

1. プラグインまたはサポートファイルを FileMaker Server [展開のマスタ](#)マシンにコピーします。

Windows: [ドライブ]:\Program Files\FileMaker\FileMaker Server\Data\Databases\AutoUpdate\

Mac OS: /ライブラリ/FileMaker Server/Data/Databases/AutoUpdate/

2. (Mac OS) FileMaker Server にインストールされたプラグインは、fmsadmin グループによって所有され、グループの読み出しアクセス権を持っている必要があります。

注意 プラグインを .tar ファイルフォーマットに変換して、FileMaker Server for Mac OS に置きます。[Mac OS プラグインファイルの .tar 形式への変換の準備](#)を参照してください。

3. Admin Console で、データベースサーバーの **[FileMaker Pro クライアント]** タブをクリックして、**[FileMaker Pro クライアントによって更新を自動的にダウンロードできるようにする]** を選択します。

4. FileMaker Pro で、[環境設定] ダイアログボックスの [プラグイン] タブで **[Auto Update]** プラグインを有効にする必要があります。

プラグインの更新の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

自動更新機能のプラグインおよびデータベースの準備の詳細については、開始ページの『FileMaker Server プラグインの更新ガイド』を参照してください。

関連項目

[プラグインファイルアクセス権の変更 \(Mac OS\)](#)

[プラグインの管理](#)

Mac OS プラグインファイルの .tar 形式への変換の準備

Mac OS の FileMaker Server では、クライアントへのダウンロードのために、圧縮されていない Mac OS [プラグイン](#) は .tar フォーマットに一時的に変換されます。ただし、この自動変換では、任意のリソースフォークが削除されるので、リソースフォークを含むプラグインが [クライアント](#) で使用できなくなることがあります。

リソースフォークを含む Mac OS プラグインファイルでは、自動更新が正しく機能するための特別な操作が必要です。

- FileMaker Server に置かれる前に、プラグインを手動で圧縮する必要があります。
- このプラグインで自動更新を使用する Mac OS の FileMaker Pro クライアントには、プラグインを自動的に展開する Stuffit Expander をインストールする必要があります。

[リソースフォークを含むプラグインを手動で圧縮するには、次の操作を行います。](#)

1. Stuffit Standard などの他社のユーティリティを使用して、Mac OS プラグイン全体を .sitx アーカイブなどの 1 つにファイルに手動で圧縮します。出力ファイルが Stuffit Expander で自動的に展開できる限り、リソースフォークを含むファイルを圧縮する任意ユーティリティを使用できません。
2. .sitx またはその他の拡張子の付いたの圧縮ファイルの最後を .tar に変更します。たとえば、プラグインの名前が test.fmplugin で、圧縮ファイルの名前が test.fmplugin.sitx の場合、この圧縮ファイルの名前は test.fmplugin.tar に変更する必要があります。
3. 圧縮されたプラグインをサーバーコンピュータの適切なフォルダに保存します。[サーバーサイドプラグインファイルのフォルダ](#)を参照してください。

重要 特別に圧縮したプラグインを展開するには、Stuffit Expander を Mac OS クライアントコンピュータにインストールする必要があります。自動更新では、プラグインがダウンロードされた後に、Stuffit Expander が自動的に起動されます。Stuffit Expander は、www.allume.com から利用できます。

関連項目

[プラグインの自動更新の有効化](#)

データの保護

FileMaker Pro と Web クライアントの両方のデータをさらに安全に保護するいくつかの FileMaker Server 機能を使用できます。

- [データベースサーバー](#)と FileMaker Pro [クライアント](#)間の接続、およびデータベースサーバーと [Web 公開エンジン](#)間の接続を暗号化します。ユーザ [アカウント](#)情報とデータは、いずれも Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化を使用して保護されます。データベースサーバーから [セキュリティ] タブをクリックして、[FileMaker Server への接続を保護する] を有効にします。[データベースサーバーのセキュリティ設定](#)を参照してください。
- データベースを Web ベースのクライアントに公開する場合は、[Web サーバー](#)で SSL 暗号化を有効にして、Web 上で Web サーバーからゲストコンピュータに渡されるデータを暗号化します。

Web サーバーで SSL を有効にする場合、[展開アシスタント](#)を使用して、Web サーバーとの通信に HTTPS プロトコルが使用されるように FileMaker Server を設定する必要があります。展開アシスタントでは、HTTP プロトコルを使用した Web サーバーの検出が試行されます。そのため、Web サーバーで HTTPS が使用されている場合、展開アシスタントによる Web サーバーの検出が失敗し、詳細を求めるプロンプトが表示されます。展開アシスタントの [Web サーバーテストの失敗] 手順で、[HTTPS] を選択して、次に進みます。[FileMaker Server の展開の変更](#)を参照してください。

SSL の有効化と設定の詳細については、Web サーバーのマニュアルを参照してください。

- [PHP](#)、[XML](#)、[XSLT](#)、および Web 公開エンジンの [インスタント Web 公開](#)など、特定の [拡張アクセス権](#)を有効または無効にすることができます。たとえば、あるサーバー上のすべてのファイルがカスタム Web 公開 with PHP で共有されることがわかっている場合は、他の種類の Web 公開をすべて無効にすることができます。XML データへのアクセスを許可する拡張アクセス権がファイルに含まれていても、そのサーバー上の FileMaker Server 展開でファイルがホストされているときは、XML データへのアクセスを利用できません。FileMaker Server のすべてのファイルに対して任意の Web 公開テクノロジーを有効または無効にするには、[Web 公開] をクリックします。次に、[PHP]、[XSLT]、[XML]、または [インスタント Web 公開] タブのいずれかをクリックします。これらの各タブでは、対応する拡張アクセス権が有効にされている場合でも、ホストされているすべてのデータベースの Web 公開を有効または無効にできます。[Web 公開の設定](#)を参照してください。
- Apple [Open Directory](#) または Windows [Active Directory](#) などの外部認証サーバーを介してユーザが認証されるように、FileMaker Server を設定できます。詳細については、[データベースアクセスの外部認証](#)を参照してください。
- FileMaker Server を設定し、ファイルを記録してデータベースへのアクセスを監視できます。[ログファイルでのアクティビティの追跡](#)を参照してください。

注意 詳細については、FileMaker Pro ヘルプの「外部サーバーで認証するアカウントの作成」および www.filemaker.co.jp/support/security を参照してください。

管理タスクのスケジュール

[スケジュール] ペインには、FileMaker Server によりホストされるデータベースで実行された[タスクスケジュール](#)のリストが表示されます。タスクスケジュールは、[有効なスケジュールを実行可能にする] を選択し、選択したスケジュールが有効な場合、自動的に実行されます。[スケジュールの有効化と無効化](#)を参照してください。

タスクスケジュールの詳細の表示

このリストには、スケジュールで実行するタスク、前回の実行時刻、および次回の実行時刻など、定義されている各スケジュールの概要が表示されます。選択したスケジュールの詳細は、[詳細情報] に表示できます。

スケジュールタスクの管理

スケジュールを選択します。次に、以下の[処理:] からいずれか1つを選択して、[処理の実行] をクリックします。

[処理:] では、以下のいずれかを選択します。	目的
スケジュールを作成	スケジュールアシスタントを実行して、以下のいずれかのタスクスケジュールを作成します。 <ul style="list-style-type: none"> データベースのバックアップ: ホストされているすべてのデータベース、選択したフォルダ内のデータベース、または選択したデータベースをバックアップします。データベースバックアップのスケジュールを参照してください。 スクリプトの実行: ScriptMaker スクリプト (ScriptMaker スクリプトの実行) またはシステムレベルのスクリプトファイル (システムレベルのスクリプトファイルの実行) を実行します。 メッセージの送信: ホストされたデータベースのクライアントにメッセージを送信します。ホストされたデータベースのクライアントへのスケジュールメッセージの送信を参照してください。
スケジュールの編集	スケジュールアシスタントを実行して、タスクスケジュールを変更します。 スケジュールの編集 を参照してください。
スケジュールの複製	既存のスケジュールを複製します。 スケジュールの複製 を参照してください。
選択されたスケジュールの削除	選択されたスケジュールを削除します。 スケジュールの削除 を参照してください。
スケジュールを今実行する	選択されたスケジュールをすぐに実行します。 手動でのスケジュールの実行 を参照してください。
すべてのスケジュールを有効にする	リストされたすべてのスケジュールを有効にします。 スケジュールの有効化と無効化 を参照してください。
すべてのスケジュールを無効にする	リストされたすべてのスケジュールを無効にします。 スケジュールの有効化と無効化 を参照してください。

[処理 :] では、以下のいずれかを選択します。	目的
選択しスケジュールを有効にする	選択されたスケジュールを有効にします。 スケジュールの有効化と無効化 を参照してください。
選択しスケジュールを無効にする	選択されたスケジュールを無効にします。 スケジュールの有効化と無効化 を参照してください。

スケジュールアシスタントを使用して、スケジュールを作成または編集します。スケジュールアシスタントでは、タスクスケジュールの詳細の指定、頻度の指定、およびタスクスケジュールが完了したときの電子メール通知を行う手順が示されます。タスクスケジュールの作成および編集については、スケジュールアシスタントの [ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

注意

- 新しいタスクスケジュールはデフォルトで有効になります。つまり、タスクはスケジュール時刻に自動的に実行されます。タスクスケジュールの有効化と無効化の詳細については、[スケジュールの有効化と無効化](#)を参照してください。
- 一覧のスケジュールタスクを昇順または降順でソートするには、列タイトルをクリックします。
- 列の幅を変更するには、列タイトルを選択して横方向にドラッグします。
- FileMaker Server では、最大で 50 のスケジュールを定義することができます。
- タスクスケジュールが完了すると、FileMaker Server により電子メール通知を送信できます。ただし、この機能がスケジュールに対して有効にされている場合です。[電子メールのスケジュールでの有効化](#)を参照してください。
- タスクスケジュールが実行されると、FileMaker Server によりエントリが Events.log ファイルに追加されます。[ログファイルでのアクティビティの追跡](#)を参照してください。
- FileMaker Server により、Admin Console およびコマンドラインインターフェースから以下の個々のキューに、タスクおよびファイル関連コマンドが保存されます。
 - [データベースのバックアップ] タスクおよびファイル関連コマンド (たとえば、[開く]、[閉じる]、[一時停止]、および [再開])。このキューから一度に実行されるタスクまたはコマンドは 1 つだけです。残りのタスクまたはコマンドは、現在の処理が完了するまで、実行されません。
 - [メッセージの送信] および [スクリプトの実行] タスク (ScriptMaker スクリプトおよびシステムレベルのスクリプトファイル)。このキューからは、複数のタスクを同時に実行できません。

FileMaker Server では、両方のキューからタスクが同時に実行されます。たとえば、最初のキューに [データベースのバックアップ] タスクおよび [一時停止] コマンドがあり、2 つめのキューに、[スクリプトの実行] タスクおよび [メッセージの送信] タスクがあるとします。この場合、FileMaker Server により、[データベースのバックアップ]、[スクリプトの実行]、および [メッセージの送信] タスクが同時に実行されます。[一時停止] コマンドは、[データベースのバックアップ] タスクが完了するまで、実行されません。

関連項目

[電子メール通知設定](#)

[デフォルトフォルダの設定](#)

データベースバックアップのスケジュール

ホストされているすべてのデータベース、選択したフォルダ内のデータベース、または選択したデータベースをバックアップできます。

データベースの**バックアップ**は、デフォルトバックアップフォルダ、または指定したフォルダに保存されます。パスは、スケジュール**アシスタント**で設定できます。

バックアップの際には、データベースはアクティブな状態のまま FileMaker Server によってコピーされ、ユーザは引き続き変更を加えることができます。コピーが完了すると、データベースは一時停止され、バックアップファイルが最新のデータベースと同期されてから再開されます。また、スケジュールアシスタントで、バックアップファイルで一貫性チェックを実行するかどうか、およびバックアップ完了時に電子メール通知を受信するかどうかを指定することもできます。

ホストされたファイルとバックアップの保存先のディスクに十分な空き容量が必要です。ファイルの変更中にハードディスクの容量が足りなくなったり、データベースファイルが 8 テラバイトのサイズ制限に達した場合、ファイルは圧縮されます。圧縮の完了には多少時間がかかる場合があります。

バックアップ中にハードディスクの容量が足りなくなった場合、バックアップは停止してバックアップファイルが削除され、FileMaker Server によって、**Event.log** にエラーが記録されます。スケジュールリストで、**[前回の実行ステータス]** にエラー状態が報告されているどうかを確認することをお勧めします。ファイルのバックアップ中にディスク容量が足りなくなるのを避けるには、バックアップの保存先として、別のハードディスクを選択するか、完了したバックアップをオフラインストレージに移します。

バックアップの詳細については、[データベースバックアップのヒント](#)を参照してください。

関連項目

[スケジュールの作成](#)

[ログファイルでのアクティビティの追跡](#)

[デフォルトフォルダの設定](#)

[管理タスクのスケジュール](#)

データベースバックアップのヒント

ビジネスに不可欠な情報サービスを実行する代替サイトおよびシステムを含む、データの復元計画を策定します。最新の**バックアップ**があれば、あるユーザがファイルの管理者**アカウント**の情報を紛失した状況や、ユーザエラー（場合によってはデータベースの設計の不備）によってデータが不適切に削除または変更された状況からの回復に役立てることができます。

次の点に注意してください。

- データベースは FileMaker Server でホストし、定期的にスケジュールされた自動バックアップを作成します。

FileMaker Pro データベースでホストされているサードパーティのバックアップソフトウェアを使用しないでください。まず、FileMaker Server を使用してデータベースのバックアップコピーを作成し、そのコピーにサードパーティのバックアップソフトウェアを実行します。バックアップソフトウェアは、開いているホストされたデータベースに損傷を与える可能性があります。

たとえば、平日の 06:00:00、09:00:00、正午 12:00、15:00:00、18:00:00、および 23:30:00 に、ファイルのローカルバックアップを作成します。深夜には、企業のバックアップシステムにシステム全体（アクティブなホストされているデータベース）の増分バックアップを作成します。最後に、金曜日の深夜に完全システムバックアップ（アクティブなホストされているデータベース）を実行するか、バックアップ中に **データベースサーバー** を停止します。

バックアップメディアは、コピーして離れた場所に保管します。この方法によって、複数のドライブの重大な障害以外の何らかの理由でサーバーが停止した場合、データファイルのより最近のバックアップ（つまり、失われたデータの最大 3 時間分）を使用することができます。重大なドライブ障害が発生した場合は、前日の夜のバックアップメディアを使用して、損失を 1 日分のデータにまで最小化することができます。

- **スケジュールアシスタント** で、[**バックアップの整合性の確認**] を有効にできます。バックアップの完了後、FileMaker Server により、一貫性チェックが実行され、ホストされているファイルとバックアップファイルが同じかどうかを確認されます。このチェックを有効にすると、バックアップファイルのエラーを検出して、チェック完了時に電子メール送信できます。ただし、このオプションを有効にしてバックアップ操作を実行すると、完了までに時間がかかり、他の **マスタ** マシンでの他のアクティビティの速度が遅くなる可能性があります。
- バックアップコピーが損傷していたり、アクセス不能でないことを確認します。必要になる前に、バックアップコピーが正しく機能することを確認してください。ハードドライブに対して診断ツールを実行して、ファイルを定期的にバックアップします。
- バックアップコピーからファイルのセット全体を復元できることを確認します。
- データを定期的にエクスポートして、ファイルの損傷に対して保護します。
- バックアップメディアを保護します。バックアップは、耐火性のある別の場所に保管します。
- ネットワーク管理者が不在の場合にファイルを元に戻すことができるバックアップ管理者を割り当てます。

重要 予想外の停電、ハードドライブの障害、ソフトウェアの障害などのサーバー障害が発生した場合は、バックアップファイルを使用します。システム障害によって FileMaker Server が不適切にシャットダウンした場合、**キャッシュ** データがディスクに書き込まれておらず、ファイルが適切に閉じられていないと、ファイルの破損につながる可能性があります。ファイルを再度開いて一貫性チェックまたは修復を実行しても、ファイルは内部で破損したままになっている可能性があります。ファイルの修復では、問題が解決されたことを保証できません。破損したファイルを修復する方法については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

関連項目

[スケジュール繰り返しの例](#)

[データベースバックアップのスケジュール](#)

サーバーサイドスクリプトの実行

FileMaker Server では、2種類のスクリプトを実行して、[管理タスク](#)を自動化できます。

- ホストされているデータベースで定義されている [ScriptMaker](#) スクリプト。[ScriptMaker スクリプトの実行](#)を参照してください。
- システムレベルのスクリプトファイル。[システムレベルのスクリプトファイルの実行](#)を参照してください。

どちらのスクリプトも、FileMaker Server [展開](#)の[マスタ](#)マシンで実行されます。

スクリプトを実行するには、FileMaker Server でタスクスケジュールを作成します。スクリプト、およびスクリプトを実行するタイミングと頻度を指定します。任意のスケジュールと同様に、タスクスケジュールはいつでも自動的に実行できます。

関連項目

[管理タスクのスケジュール](#)

ScriptMaker スクリプトの実行

FileMaker Server では、ホストされているデータベースで定義される ScriptMaker スクリプトを実行できます。スクリプトの実行[タスクスケジュール](#)を作成し、スクリプト実行に使用するデータベースおよび FileMaker [アカウント](#)を指定します。次に、データベースで定義されているスクリプトを選択して、スクリプトを実行するタイミングを選択します。FileMaker Server で実行される ScriptMaker スクリプトは、単純または複雑なタスクを実行できます。以下に例を示します。

- すべてのレコードのフィールドの再計算を実行する
- 新しいトランザクションを夜に処理およびアーカイブする
- スケジュール[バックアップ](#)の前に重複するレコードを削除する

ScriptMaker 機能を FileMaker Pro で使用し、スクリプトステップと呼ばれる Web 互換 FileMaker Pro コマンドのリストからスクリプトおよびそのオプションを指定して、スクリプトを構築します。

ScriptMaker スクリプトを FileMaker Server で実行するには、次の操作を行います。

- スクリプトには、Web 互換のスクリプトステップが必要です。
- スクリプトは、FileMaker Server でホストされているデータベースファイルで定義されている必要があります。[データベースのホスト](#)を参照してください。

Web 互換スクリプトステップを含んだ ScriptMaker スクリプトの作成の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

注意

- サポートされていないステップ（Web 互換ではないステップなど）がスクリプトに含まれる場合は、[ユーザによる強制終了を許可] スクリプトステップを使用して、以降のステップの処理方法を決定します。
 - [ユーザによる強制終了を許可] スクリプトステップオプションが有効（選択されている）の場合、サポートされていないスクリプトステップが使用されていると、スクリプトの続行は停止されます。
 - [ユーザによる強制終了を許可] スクリプトステップが無効な場合（デフォルト）、サポートされていないスクリプトステップはスキップされ、スクリプトの実行が続行されます。
 - このスクリプトステップが含まれない場合、スクリプトは、この機能が有効な場合と同様に実行されるため、サポートされていないスクリプトステップが使用されていると、スクリプトは停止します。

スクリプトステップによっては、ダイアログボックスを表示するオプションなど、スキップされるオプションがあります。[Event.log](#) ファイルには、エラー、または FileMaker Server で ScriptMaker が実行されるときにスキップされるスクリプトステップの詳細情報が含まれています。[ログファイルでのアクティビティの追跡](#)を参照してください。

- サーバーサイド ScriptMaker スクリプトは、[カスタム Web 公開](#)と同様に、[データベースサーバー](#)の個別のセッションで実行されます。各セッションには、グローバルフィールドおよび変数の独自のコピーがあります。計算機能は、カスタム Web 公開でスクリプトが実行された場合と同じ値を返します。ただし、以下の例外があります。
 - Get(アカウント名) では、最初に、スクリプトが実行されたときのアカウント名が返されます（これは、[schedule](#) の作成時にスケジュール[アシスタント](#)で指定されます）。
 - Get(ユーザ名) では、スケジュール名が返されます。
 - Get(アプリケーションバージョン) では、データベースサーバーバージョン文字列が返されません。

- Get(システム IP アドレス) など、ハードウェア関連の機能では、データベースサーバーから情報が返されます。

関連項目

[スケジュールの作成](#)

[サーバーサイドスクリプトの実行](#)

[管理タスクのスケジュール](#)

システムレベルのスクリプトファイルの実行

FileMaker Server では、Windows バッチ、Mac OS シェルスクリプト、Perl、または VBScript ファイルなど、システムレベルのスクリプトファイルを実行できます。スクリプトの実行[タスクスケジュール](#)を作成、スクリプトファイルを指定、およびスクリプトを実行するタイミングを指定できます。システムレベルのスクリプトを使用して、FileMaker Server 外でタスクを実行します。

タスクスケジュールとしてスクリプトを実行するには、システムレベルのスクリプトファイルを FileMaker Server Scripts フォルダに置く必要があります。

- Windows: [ドライブ]:\Program Files\FileMaker\FileMaker Server\Data\Scripts\
- Mac OS: /ライブラリ/FileMaker Server/Data/Scripts/

システムレベルのスクリプト作成については、使用するスクリプト言語のマニュアルを参照してください。

注意

- Mac OS では、シェルスクリプトのファイルアクセス権の修正が必要な場合があります。シェルスクリプトは、`fmserver` ユーザ ID および `fmsadmin` グループ ID で実行されます。したがって、スクリプトファイルには、`fmsadmin` グループの読み出しおよび実行アクセス権が必要です。したがって、アクセス権が設定されているコマンドの中には、スクリプトから呼び出すことができないものがあります。たとえば、スクリプトは「/etc」フォルダにアクセスできません。
- スクリプトに対して何らかの形式のログを有効にして、発生する可能性があるアクセス権の問題をトラブルシューティングできます。Mac OS でのログファイルの作成の詳細については、Apple の Web サイトを参照してください。

関連項目

[ユーザ、グループ、およびアクセス権 \(Mac OS\)](#)

[スケジュールの作成](#)

[サーバーサイドスクリプトの実行](#)

[管理タスクのスケジュール](#)

ホストされたデータベースのクライアントへのスケジュールメッセージの送信

メッセージを作成して、そのメッセージを FileMaker ユーザに配信する [スケジュール](#) を設定できます。メッセージを送信することで、サーバーシャットダウン、データベースアップグレード、または期限の確認など、重要なイベントをユーザに通知できます。

メッセージは以下のユーザに送信できます。

- ホストされているデータベースに現在接続している FileMaker Pro ユーザ
- 選択したフォルダのデータベースに接続している FileMaker Pro ユーザ
- 選択したデータベースに接続している FileMaker Pro ユーザ

関連項目

[スケジュールの作成](#)

[管理タスクのスケジュール](#)

[選択したデータベースの FileMaker Pro クライアントへのメッセージの送信](#)

スケジュールの作成

[タスクスケジュール](#)を作成する一般的な手順を以下に示します。詳細な説明および手順については、スケジュール[アシスタント](#)の[ヘルプ]ボタンをクリックしてください。

スケジュールタスクを作成するには、次の操作を行います。

1. [スケジュール]を選択します。
2. [処理:]で、[スケジュールを作成]を選択します。
3. [処理の実行]をクリックして、スケジュールアシスタントを開きます。
4. スケジュールの詳細を指定します。スケジュールアシスタントの[完了]をクリックして、スケジュールに行った変更を保存します。
詳細については、スケジュールアシスタントの[ヘルプ]ボタンをクリックしてください。
5. スケジュールの横にある[有効にする]を選択して、実行可能にします。

関連項目

[スケジュール繰り返しの例](#)
[手動でのスケジュールの実行](#)
[管理タスクのスケジュール](#)

スケジュール繰り返しの例

以下の例は、複数回実行する場合に[スケジュール](#)がどのように機能するか示します。この例では、今日 4:30 PM にスケジュールが作成および有効にされ、今日が金曜日だとします。

スケジュールの定義方法	実行される時間
毎日、2008/12/31 まで 1 日に 1 回 5:00 PM に実行	最初の時間は、今日、金曜日の 5:00 PM です。 次の時間は、明日、土曜日の 5:00 PM です。 スケジュールは、2008/12/31 の 5:00 PM まで毎日 1 回 5:00 PM に実行されます。
毎日、9:00 AM から 5:00 PM まで毎時間実行、終了日指定なし	最初の時間は、今日、金曜日の 5:00 PM です。 次の時間は、明日、土曜日の 9 AM、10 AM、11 AM、12 PM、1 PM、2 PM、3 PM、4 PM、および 5 PM です。 スケジュールは、毎日、9 AM から 5 PM まで毎時間実行されます。
毎週、2008/12/31 まで毎週金曜、1 日に 1 回 5:00 PM に実行	最初の時間は、今日、金曜日の 5:00 PM です。 次の時間は、次の週の金曜日の 5:00 PM です。 スケジュールは、2008/12/26（最終日前の最後の金曜日）の 5:00 PM まで、毎週金曜日 5:00 PM に 1 回実行されます。
n 日ごと、9:00 AM から 5:00 PM まで 3 日おき、毎時間実行、終了日指定なし	最初の時間は、今日、金曜日の 5:00 PM です。 次の時間は、次の週の金曜日の 9:00 AM で、5:00 PM まで毎時間実行されます。 スケジュールは、3 日おきに、9 AM から 5 PM まで毎時間実行されます。

注意

- 開始 / 終了日、および開始 / 終了時間も含まれます。スケジュールが実行される最後の時間は、スケジュールされた最終日のスケジュールされた最終時間です。
- スケジュールの開始時間および終了時間は、同じ日でなければなりません。スケジュールを夜通しで繰り返し実行する場合、スケジュールを 2 つ作成します。たとえば、データベースの[バックアップ](#)を毎週金曜日の 9:00 PM から徹夜で次の日の 5:00 AM まで実行する場合、毎週金曜日の 9:00 PM から 11:00 PM まで毎時間バックアップするスケジュールと、毎週土曜日の 12:00 AM から 5:00 AM まで毎時間バックアップするスケジュールを作成します。

関連項目

[スケジュール頻度の選択](#)

[スケジュールの作成](#)

[スケジュールの編集](#)

[管理タスクのスケジュール](#)

スケジュールの編集

[タスクスケジュール](#)を編集する一般的な手順を以下に示します。詳細な説明および手順については、スケジュール[アシスタント](#)の[ヘルプ]ボタンをクリックしてください。

スケジュールを編集するには、次の操作を行います。

1. [スケジュール]を選択して、リストからスケジュールを選択します。
2. [処理:]で、[スケジュールの編集]を選択します。
3. [処理の実行]をクリックして、スケジュールアシスタントを開きます。
4. スケジュールを変更します。スケジュールアシスタントの[完了]をクリックして、スケジュールに行った変更を保存します。
詳細については、スケジュールアシスタントの[ヘルプ]ボタンをクリックしてください。
5. スケジュールの横にある[有効にする]を選択して、実行可能にします。

関連項目

[スケジュールの有効化と無効化](#)

[スケジュール繰り返しの例](#)

[手動でのスケジュールの実行](#)

[管理タスクのスケジュール](#)

スケジュールの複製

新しいスケジュールを定義するよりも、既存の[スケジュール](#)を複製および編集した方が効率的な場合があります。

既存のスケジュールを複製するには、次の操作を行います。

1. [スケジュール] を選択して、リストからスケジュールを選択します。
2. [処理:] で、[スケジュールの複製] を選択します。
3. [処理の実行] をクリックします。

選択したスケジュールは、<スケジュール名> **Copy** という名前でコピーされます。

ヒント スケジュールの名前は、スケジュール[アシスタント](#)で変更できます。[処理:] で、[スケジュールの編集] を選択して、スケジュールアシスタントを開き、スケジュール名を変更します。

関連項目

[スケジュールの編集](#)

[スケジュールの削除](#)

[管理タスクのスケジュール](#)

スケジュールの削除

スケジュールを削除するには、次の操作を行います。

1. [スケジュール] を選択します。
2. リストから1つまたは複数の[スケジュール](#)を選択します。
3. [処理:] で、[選択したスケジュールの削除] を選択します。
4. [処理の実行] をクリックします。
[はい] をクリックして、選択したスケジュールを削除することを確認します。

関連項目

[スケジュールの編集](#)

[スケジュールの複製](#)

[管理タスクのスケジュール](#)

手動でのスケジュールの実行

スケジュールが自動的に実行されない、または無効な場合でも、スケジュールを手動で実行することができます。たとえば、スケジュールは、以下のような場合に手動で実行できます。

- [有効にする]の選択を解除して、特定のスケジュールを無効にした場合。
- [有効なスケジュールを実行可能にする]の選択を解除して、すべてのスケジュールを無効にした場合。
- 最後のスケジュール実行がすでに終了しているため、スケジュールが無効になっている場合。
[前回の実行]列は、スケジュールを手動で実行した時刻に更新されます。[次回の実行]列は、[無効]のままです。

スケジュールを手動で実行するには、次の操作を行います。

1. [スケジュール]を選択して、リストからスケジュールを選択します。
2. [処理:]で、[スケジュールを今実行する]を選択します。
3. [処理の実行]をクリックします。

[前回の実行]列に、FileMaker Server が実行されているコンピュータの現在の日付と時刻が表示されます。

関連項目

[スケジュールの有効化と無効化](#)

[管理タスクのスケジュール](#)

スケジュールの有効化と無効化

特定の[スケジュール](#)を有効または無効にしたり、すべてのスケジュールを一度に無効にすることができます。

目的	実行方法
スケジュールの作成時または編集時にスケジュールを有効にする	スケジュール アシスタント を使用してスケジュールを作成する場合、タスクスケジュールは、デフォルトで有効になります。
無効になっていたスケジュールを有効にする	[スケジュール] ペインで、スケジュール名の横にある空のチェックボックスを選択します。 注意 スケジュールの最終実行時間にすでに到達している場合、このスケジュールを再び有効にするには、実行時間を編集する必要があります。
選択されたスケジュールを無効にする	[スケジュール] ペインで、スケジュール名の横にあるチェックボックスの選択を解除します。
すべてのスケジュールの実行を禁止する	[スケジュール] ペインで、[有効なスケジュールを実行可能にする] の選択を解除します。 このオプションは、サーバーコンピュータで 管理タスク を実行する場合に便利です。 この設定は、有効になっている個々のスケジュール設定よりも優先されます。
有効なスケジュールを実行可能にする	[スケジュール] ペインで、[有効なスケジュールを実行可能にする] を選択します。 チェックマークは、スケジュールタスクの一覧で個別に選択されているスケジュールタスクがすべて有効であることを示します。 個別に無効にしたスケジュールタスクは、個別に有効にするまで再度有効にはなりません。

関連項目

[手動でのスケジュールの実行](#)

[管理タスクのスケジュール](#)

タスクの選択

このスケジュールタスク手順では、実行するタスクを選択します。

タスクを選択するには、次の操作を行います。

1. 次の3つのタスクオプションのいずれかを選択します。

選択項目	目的
データベースのバックアップ	1つまたは複数のホストされたデータベースをバックアップします。
スクリプトファイルの実行	ScriptMaker またはシステムレベルのスクリプトを FileMaker Server で実行します。
メッセージの送信	ホストされているデータベースに接続している1人以上の FileMaker Pro ユーザにメッセージを送信します。メッセージは、FileMaker Pro 内のダイアログボックスに表示されます。

2. [進む] をクリックします。

[キャンセル] をクリックして、スケジュールアシスタントを終了します。

関連項目

[データベースバックアップのスケジュール](#)

[サーバーサイドスクリプトの実行](#)

[ホストされたデータベースのクライアントへのスケジュールメッセージの送信](#)

[管理タスクのスケジュール](#)

データベースバックアップのスケジュール

このスケジュールアシスタントの手順では、あらかじめ設定されている**バックアップ**スケジュールまたはカスタムスケジュールを選択します。あらかじめ設定されているスケジュールを開始点として選択して、後でスケジュールアシスタントで詳細を変更できます。

バックアップスケジュールを選択するには、次の操作を行います。

1. あらかじめ設定されている、またはカスタムバックアップスケジュールを選択します。

選択項目	目的
毎時間	すべてのデータベースをデフォルトのバックアップフォルダに毎日、8 am から 5 pm に毎時間バックアップします。
毎日	すべてのデータベースをデフォルトのバックアップフォルダに毎日、11 pm から 1 回バックアップします。
毎週	すべてのデータベースをデフォルトのバックアップフォルダに毎週、11 pm から 1 回バックアップします。
カスタム	カスタムバックアップスケジュールを作成します。

2. [進む] をクリックします。

[戻る] をクリックして直前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックしてスケジュールアシスタントを終了します。

関連項目

[データベースバックアップのスケジュール](#)

[デフォルトフォルダの設定](#)

[管理タスクのスケジュール](#)

データベースの選択

このスケジュールアシスタントの手順では、このスケジュールでバックアップするデータベースを選択します。

バックアップするデータベースを選択するには、次の操作を行います。

1. バックアップするデータベースを選択します。

選択項目	目的
すべてのデータベース	サブフォルダのデータベースを含む、デフォルトデータベースフォルダのすべてのデータベース、および追加データベースフォルダをバックアップします。追加データベースフォルダの詳細については、 デフォルトフォルダの設定 を参照してください。
次のフォルダ内のデータベース：	選択したフォルダにあるすべてのデータベースをバックアップします。
データベースを選択：	選択したデータベースをバックアップします。データベースファイルを1つだけ選択します。

2. [進む] をクリックします。

[戻る] をクリックして直前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックしてスケジュールアシスタントを終了します。

関連項目

[データベースバックアップのスケジュール](#)
[管理タスクのスケジュール](#)

バックアップフォルダの選択

このスケジュールアシスタントの手順では、必ず、デフォルトデータベースフォルダまたはオプションの追加データベースフォルダとは異なる[バックアップフォルダ](#)を指定してください。これらのデータベースフォルダと同じフォルダを指定すると、FileMaker Server を起動したときに、誤ってバックアップファイルがホストされる可能性があります。

バックアップフォルダを選択するには、次の操作を行います。

1. [バックアップフォルダ] で、バックアップフォルダのパスを入力します。

独自のバックアップフォルダのパスを指定するか、デフォルトバックアップフォルダを使用できません。パスを指定するには、次の操作を行います。

Windows: filewin:/pathname-to-backup-folder/

Mac OS: filemac:/pathname-to-backup-folder/

注意 [元に戻す] をクリックすると、パスの変更を元に戻すことができます。

2. [検証] をクリックすると、バックアップフォルダのパスが存在し、アクセス可能かどうか検証できます。パスが有効でない場合、[有効なフォルダのヒント](#)を参照してください。

3. [バックアップの確認] で、[バックアップの整合性の検証] を選択して、ホストされているファイルとバックアップファイルが同じかどうかを確認します。

後で、スケジュールアシスタントで、電子メール通知を送信する場合、電子メールには、この確認のステータスが含まれます。

詳細については、[データベースバックアップのヒント](#)を参照してください。

4. [進む] をクリックします。

[戻る] をクリックして直前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックしてスケジュールアシスタントを終了します。

注意 スケジュールアシスタントのこの手順に表示されるデフォルトバックアップフォルダを設定できません。[デフォルトフォルダの設定](#)を参照してください。

関連項目

[データベースバックアップのスケジュール](#)

[管理タスクのスケジュール](#)

スケジュール頻度の選択

このスケジュールアシスタントでは、タスクスケジュールを実行するタイミング、およびその頻度を指定します。

スケジュール頻度を指定するには、次の操作を行います。

1. [頻度:] で、[毎日]、[n 日ごと]、[1 度だけ]、または [毎週] を選択します。
2. [スケジュールの詳細] を指定します。これは、選択した頻度により異なります。

選択項目	目的
開始日	このスケジュールの開始日を選択します。カレンダーをクリックして、日付を選択します。
終了日	[終了日] を選択して、このスケジュールのオプションの終了日を入力します。カレンダーをクリックして、日付を選択します。
1 日 1 回	選択した [開始時間] にスケジュールを実行します。開始する時刻を入力します。
次の頻度で実行	[時間] または [分] に指定した間隔でスケジュールを実行します。また、[開始時刻] および [終了時刻] を選択して、スケジュールの実行を開始および終了する時間を指定することもできます。
曜日	スケジュールを実行する曜日を選択します。
開始時刻	スケジュールを実行する開始時間を選択します。

詳細については、[スケジュール繰り返しの例](#)を参照してください。

3. [進む] をクリックします。
[戻る] をクリックして直前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックしてスケジュールアシスタントを終了します。

関連項目

[管理タスクのスケジュール](#)

スケジュール名の指定

このスケジュールタスク手順では、このスケジュールに一意的な名前を指定します。これは、[スケジュール] ペインに表示される名前です。

スケジュール名を指定するには、次の操作を行います。

1. [スケジュール名] を入力します。

注意 スケジュール名に使用できる文字数は、最大 31 文字です。

2. [進む] をクリックします。

[戻る] をクリックして直前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックしてスケジュールアシスタントを終了します。

関連項目

[管理タスクのスケジュール](#)

電子メールのスケジュールでの有効化

このスケジュールアシスタントの手順では、タスク完了時に電子メール通知を送信するスケジュールを有効にします。

電子メール通知を有効にするには、次の操作を行います。

1. [電子メールの通知を送信する]を選択します。
2. 通知する電子メールアドレスを入力します。
複数のアドレスは、カンマで区切ります。
例: user1@email.com, user2@email.com, ...
3. [進む]をクリックします。
[戻る]をクリックして直前の手順に戻るか、[キャンセル]をクリックしてスケジュールアシスタントを終了します。

注意

- 電子メール通知は、スケジュールが成功したかどうかに関係なく、送信されます。エラーまたは警告の電子メール通知が、[一般設定]の[電子メール通知]タブで有効にされている場合、このタブで指定した電子メールアドレスに2通目の電子メールメッセージが送信されます。電子メールアドレスが両方のリストに表示される場合、このアドレスは、同じイベントに関する2通の電子メールメッセージを受け取ります。[スケジュールが失敗したときの電子メール通知の受信](#)を参照してください。
- 電子メール通知には、[一般設定]の[電子メール通知]タブで指定されているSMTPサーバー設定が必要です。SMTPサーバー設定は、このスケジュールアシスタントペインが表示されるときに確認されます。SMTPサーバーが設定されていない場合、スケジュールアシスタントは、ダイアログボックスを開き、このスケジュールの作成後にSMTPサーバーを設定するように要求します。

関連項目

[管理タスクのスケジュール](#)

スケジュールが失敗したときの電子メール通知の受信

管理者は、[タスクスケジュール](#)が失敗した場合のみ電子メール通知を受信することができます。タスクスケジュールの電子メール通知を有効にすると、すべてのアドレスは、タスクが失敗したか成功したかに関係なく、タスク完了時に、電子メール通知を受信します。これらの電子メールメッセージの受信を停止するには、スケジュール[アシスタント](#)を使用して、特定のスケジュールの電子メール通知を無効にします（または、リストから自分の電子メールアドレスを削除します）。

FileMaker Server では、スケジュールが失敗した場合、Events.log ファイルにエントリが追加されるので、警告およびエラーの通知を有効にして、スケジュールが失敗した場合だけ電子メールを受信することができます。

スケジュールが失敗したときのみ電子メール通知を受信するには、次の操作を行います。

1. 新しいスケジュールを作成するか、既存のスケジュールを編集します。
タスクスケジュールの作成または編集については、[スケジュールの作成](#)または [スケジュールの編集](#)を参照してください。
2. スケジュールを各手順で設定して、「電子メール通知を有効にする」手順になるまで、スケジュールアシスタントで [進む] をクリックします。
3. このスケジュールですべての電子メール通知を無効にするには、[電子メールの通知を送信する] の選択を解除します。
電子メール通知を他のアドレスにだけ送信するには、電子メール通知を有効にしたまま、電子メール通知を受信しない電子メールアドレスを削除します。
4. [進む] をクリックし、[完了] をクリックします。
5. [一般設定] の [電子メール通知] タブを選択します。
6. [電子メールの通知を有効にする] を選択します。
7. [警告またはエラー] を選択して、電子メール通知を送信します。
8. [電子メール通知の送信先] で、エラーおよび警告の電子メール通知を受信する電子メールアドレスを入力します。

関連項目

[電子メールのスケジュールでの有効化](#)
[ログファイルでのアクティビティの追跡](#)

スケジュール詳細の確認

このスケジュールアシスタントの手順では、このスケジュールの詳細を確認します。次に、オプションで、このスケジュールを指定時間に実行できるようにします。

スケジュールを確認および有効にするには、次の操作を行います。

1. 詳細を確認します。[戻る]を選択して直前の手順に戻り、スケジュール設定を変更します。
2. [このスケジュールを有効にする]を選択します。
3. [完了]をクリックして、スケジュールを保存します。

[戻る]をクリックして直前の手順に戻るか、[キャンセル]をクリックしてスケジュールアシスタントを終了します。

関連項目

[管理タスクのスケジュール](#)

スクリプトタイプの選択

このスケジュールアシスタントの手順では、[ScriptMaker](#) スクリプトまたはシステムレベルのスクリプトを FileMaker Server で実行するように選択できます。詳細については、[サーバーサイドスクリプトの実行](#)を参照してください。

スケジュールアシスタントを開始する前に、システムレベルのスクリプトファイルを Scripts フォルダに置いてください。

- Windows: [ドライブ]:\Program Files\FileMaker\FileMaker Server\Data\Scripts\
- Mac OS: /ライブラリ/FileMaker Server/Data/Scripts/

スクリプトタイプを選択するには、次の操作を行います。

1. [スクリプトタイプ] を選択します。

選択項目	目的
ScriptMaker スクリプト	ホストされているデータベースで定義されている ScriptMaker スクリプトを実行します。
システムレベルのスクリプト	Scripts フォルダにある Windows バッチ、Mac OS シェルスクリプト、Perl、または VBScript ファイルなどのシステムレベルのスクリプトファイルを実行できます。

2. [進む] をクリックします。

[戻る] をクリックして直前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックしてスケジュールアシスタントを終了します。

関連項目

[管理タスクのスケジュール](#)

ScriptMaker スクリプトを実行するデータベースの選択

このスケジュールアシスタントの手順では、実行する [ScriptMaker](#) スクリプトを含むデータベースを選択します。詳細については、[ScriptMaker スクリプトの実行](#)を参照してください。

実行する **ScriptMaker** スクリプトを含むデータベースを選択するには、次の操作を行います。

1. リストから [データベース] を選択します。
2. スクリプト実行時に FileMaker Server で使用する [アカウント](#)のタイプを選択します。

目的	選択項目
ビルトインゲストアカウントを使用する	ゲストアカウント アカウント名またはパスワードは必要ありません。
任意の他のアカウントを使用する	アカウント名とパスワード FileMaker Server でスクリプトの実行時にデータベースのアクセスに使用されるアカウントを選択します。使用するアカウントにはスクリプトを実行できるアクセス権が必要です。アカウントと アクセス権セット の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。 [アカウント名] および [パスワード] を入力します。

3. [進む] をクリックします。
 [戻る] をクリックして直前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックしてスケジュールアシスタントを終了します。

関連項目

[管理タスクのスケジュール](#)

実行する ScriptMaker スクリプトの選択

このスケジュールアシスタントの手順では、実行する [ScriptMaker](#) スクリプトを選択します。

実行する **ScriptMaker** スクリプトを選択するには、次の操作を行います。

1. [スクリプト名:] リストからスクリプトを選択します。

ヒント リストのスクリプトグループが閉じている場合、グループ名の横にあるアイコンをクリックして、グループを開き、スクリプトを表示します。

2. オプションの [スクリプトパラメータ] を入力します。

注意 スクリプトパラメータの詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

3. [進む] をクリックします。

[戻る] をクリックして直前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックしてスケジュールアシスタントを終了します。

関連項目

[ScriptMaker スクリプトの実行](#)

[管理タスクのスケジュール](#)

実行するシステムレベルのスクリプトの選択

このスケジュールアシスタントの手順では、実行するシステムレベルのスクリプトを選択します。詳細については、[システムレベルのスクリプトファイルの実行](#)を参照してください。

スケジュールアシスタントを開始する前に、システムレベルのスクリプトファイルを Scripts フォルダに置いてください。

- Windows: [ドライブ]:\Program Files\FileMaker\FileMaker Server\Data\Scripts\
- Mac OS: /ライブラリ/FileMaker Server/Data/Scripts/

目的のスクリプトが表示されない場合、[キャンセル] をクリックして、スケジュールアシスタントを終了し、スクリプトを FileMaker Server コンピュータの Scripts フォルダにコピーして、スケジュールアシスタントを再び実行します。

[戻る] をクリックして直前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックしてスケジュールアシスタントを終了します。

関連項目

[管理タスクのスケジュール](#)

メッセージを送信するユーザの選択

このスケジュールアシスタントの手順では、メッセージを受信するユーザを選択します。1つ以上のデータベースを選んで、ユーザを選択します。これらのいずれかのデータベースに接続されている任意の FileMaker Pro ユーザがメッセージを受信します。

メッセージを送信するユーザを選択するには、次の操作を行います。

1. スケジュールメッセージを送信する以下のいずれかのオプションを選択します。

選択項目	目的
すべての FileMaker Pro ユーザ (すべてのデータベース)	ホストされているデータベースに接続しているすべての FileMaker Pro ユーザにスケジュールメッセージを送信します。
フォルダ内のデータベースの FileMaker Pro ユーザ	指定フォルダ内のホストされているデータベースに接続しているすべての FileMaker Pro ユーザにスケジュールメッセージを送信します。
選択したデータベースの FileMaker Pro ユーザ	選択したホストされているデータベースに接続している FileMaker Pro ユーザにスケジュールメッセージを送信します。

2. [進む] をクリックします。

[戻る] をクリックして直前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックしてスケジュールアシスタントを終了します。

関連項目

[ホストされたデータベースのクライアントへのスケジュールメッセージの送信](#)
[管理タスクのスケジュール](#)

メッセージの作成

このスケジュールアシスタントの手順では、FileMaker Pro ユーザのメッセージを作成します。

メッセージを作成するには、次の操作を行います。

1. 送信するメッセージを入力します。
2. [進む] をクリックします。
[戻る] をクリックして直前の手順に戻るか、[キャンセル] をクリックしてスケジュールアシスタントを終了します。

関連項目

[ホストされたデータベースのクライアントへのスケジュールメッセージの送信](#)
[管理タスクのスケジュール](#)

トラブルシューティング

一般的に、FileMaker Server に関する問題は、次の領域で発生します。

- [展開の問題](#)
- [Admin Console の問題](#)
- [一般的な問題](#)
- [ネットワークの問題](#)
- [クライアントコンピュータの問題](#)
- [FileMaker Server イベントログメッセージ](#)
- [コマンドラインのエラーメッセージ](#)
- [パフォーマンスの向上](#)

注意 [FileMaker Pro](#) がすでに実行されている場合、[データベースサーバー](#)を同じコンピュータ上で開始するとデータベースサーバーは起動しますがすぐに停止します。FileMaker Pro を停止してからデータベースサーバーを起動してください。この問題が続く場合は、コンピュータを再起動してデータベースサーバーを起動してから FileMaker Pro を起動します。

展開の問題

展開アシスタントが Web サーバーテストが失敗したことをレポートしている

[展開アシスタント](#)が指定した [Web サーバー](#)と通信できない場合、さらに情報を追加して再試行することができます。

Web サーバーを検出するには、次の操作を行います。

1. [サーバー展開の編集] をクリックします
2. 展開アシスタントで、[進む] をクリックして Web サーバーのテストに失敗の手順を表示します。
3. [Web サーバーのテストの失敗](#)の手順に従います。

Mac OS Web サーバーがスタートアップ時に失敗する

FileMaker Server サポートバージョンの [PHP](#) をインストールするときに、Mac OS X Server Admin ツール内に表示されません。リストされるようにみなされません。Mac OS X Server Admin ツールを使用して PHP をオンにする場合、Server Admin ツールは 2 番目の PHP エンジン Web サーバーの設定ファイルに追加します。その結果、Web サーバーは 2 番目の PHP エンジンのロードを試行するとスタートアップ時に失敗します。

詳細については、FileMaker データベースを参照してください。[カスタマサポートとデータベース](#)を参照してください。

関連項目

[トラブルシューティング](#)

Admin Console の問題

Admin Console 開始ページで Java がインストールされているのにインストールするように指示される

Internet Explorer がアドオンの実行を拒否するように設定されている場合があります。ブラウザウィンドウの上部にある情報バーをクリックして Internet Explorer で [Java Web Start](#) ActiveX Control アドオンを実行するように許可してください。Java Web Start テクノロジではこのアドオンを使用して必要なバージョンの Java がインストールされているかどうかを判別します。このアドオンの実行を許可したら、[\[Admin Console の開始\]](#) をクリックします。

リモートコンピュータから Admin Console を起動できない

- [マスタ](#)コンピュータでファイアウォールが有効になっている場合は、FileMaker Server で要求されるポートを開いてユーザと管理者と通信できるようにする必要があります。[FileMaker Server によって使用されるポート](#)を参照してください。
- Admin Console のショートカットをダブルクリックしても Admin Console が開かない場合は、マスタコンピュータの [IP アドレス](#)が変更されていないかどうかを確認します。各ショートカットは特定の FileMaker Server [展開](#)に対する Admin Console を開始します。マスタコンピュータの IP アドレスが変更されている場合は、ショートカットを削除して、FileMaker Server Admin Console 開始ページからもう一度 Admin Console を開始する必要があります。[Admin Console の起動](#)を参照してください。

関連項目

[トラブルシューティング](#)

一般的な問題

FileMaker Server が送信している電子メールメッセージが多すぎる

電子メール通知が有効になっている頻繁に実行する [タスクスケジュール](#) がたくさんあります。電子メール通知を無効にするか、またはいくつかのタスクスケジュール用の電子メールアドレスを削除します。 [スケジュールが失敗したときの電子メール通知の受信](#) も参照してください。

タスクスケジュールが実行されない

FileMaker Server がスケジュールの実行を許可しないように設定されています。FileMaker Server が有効スケジュールを実行するように許可するには、[スケジュール] をクリックして [有効なスケジュールを実行可能にする] を選択します。

追加データベースフォルダまたはバックアップデータベースフォルダへのパスが有効でない

フォルダの所有権およびアクセス権を確認してください。[データベースサーバー]>[デフォルトフォルダ] または スケジュール [アシスタント](#) の [検証] をクリックすると、フォルダが正しいアクセス権を持っていないために Admin Console はフォルダパスの検証に失敗します。フォルダがユーザ fmserver (またはグループ fmsadmin) によって所有されていて、読み/書きアクセス権があることを確認します。 [有効なフォルダのヒント](#) を参照してください。

関連項目

[トラブルシューティング](#)

ネットワークの問題

TCP/IP を使用している FileMaker Pro クライアントがネットワーク上で FileMaker Server データベースを見つけることができない

ホストおよび [クライアント](#) コンピュータに [TCP/IP](#) ネットワークソフトウェアが適切にインストールされていることを確認します。また、指定した同時クライアント接続数の制限に達していないことを確認します。

クライアントコンピュータ上で、FileMaker Pro の [共有ファイルを開く] ダイアログボックスで、次のように入力します。

```
fmnet:/[IP address]
```

クライアントコンピュータが [共有ファイルを開く] ダイアログボックスに FileMaker Server を見つけられない場合、サーバーネットワーク接続を確認して FileMaker Server ポートがファイアウォール上で開いていることを確認します。

リモートコンピュータから Admin Console を起動できない

[マスタ](#) コンピュータでファイアウォールが有効になっている場合は、FileMaker Server で要求されるポートを開いてユーザと管理者と通信できるようにする必要があります。[FileMaker Server によって使用されるポート](#) を参照してください。

各ショートカットは特定の FileMaker Server [展開](#) に対する Admin Console を開始します。マスタコンピュータの [IP アドレス](#) が変更されている場合は、ショートカットを削除して、FileMaker Server Admin Console ページからもう一度 Admin Console を開始する必要があります。[Admin Console の起動](#) を参照してください。

クライアントで FileMaker Server でホストされているデータベースが表示されない

マスタコンピュータ上のファイアウォール設定がクライアントへのデータベースの表示をブロックしている可能性があります。ファイアウォールでブロックしてはならないポートの詳細については、[FileMaker Server によって使用されるポート](#) を参照してください。

関連項目

[FileMaker Server イベントログメッセージ](#)
[トラブルシューティング](#)

FileMaker Server によって使用されるポート

ファイアウォールを使用している環境で FileMaker Server を実行する場合は、各コンピュータ上のファイアウォールを FileMaker Server の通信を許可するように設定してください。次の表は、FileMaker Server **展開**で使用されるすべてのポートを一覧表示しています。

注意 次に一覧表示されているポートのすべてがエンドユーザに対して、または FileMaker Server 展開内のすべてのコンピュータ間で開かれている必要はありません。複数コンピュータへの展開の詳細については、開始ページの『FileMaker Server 入門ガイド』を参照してください。

エンドユーザに対しては次のポートのみが開いてする必要があります。

- Web 公開に対してはポート 80、または [Web サーバー](#) でデフォルトとは別のポートを使用している場合は別のポート
- FileMaker Pro クライアントに対してはポート 5003。

Admin Console ユーザはポート 16000 および 16001 が開いている必要があります。

ポート番号	ポートを使用するプログラム	目的
80	Web サーバーコンピュータ、エンドユーザ	HTTP
5003	マスタ コンピュータ、エンドユーザ	ファイルのホスト用 FileMaker Pro および FileMaker Server
16000	すべてのコンピュータ、Admin Console ユーザ	HTTP: Admin Console 開始ページ、管理ヘルパー
16001	マスタコンピュータ、Admin Console ユーザ	HTTPS: Admin Console 通信
16004	すべてのコンピュータ	Admin Console
16006	Web 公開エンジン コンピュータ	FileMaker 内部
16008	Web 公開エンジンコンピュータ	FileMaker 内部
16010	Web 公開エンジンコンピュータ	カスタム Web 公開エンジン
16012	Web 公開エンジンコンピュータ	FileMaker 内部
16014	Web 公開エンジンコンピュータ	FileMaker 内部
16016	Web 公開エンジンコンピュータ	AJP (Apache Jakarta Protocol) 1.3
16018	Web 公開エンジンコンピュータ	AJP (Apache Jakarta Protocol) 1.3
50003	マスタコンピュータ (ローカルのみ)	FileMaker Server サービス (Windows) または デーモン (Mac OS)
50006	マスタコンピュータ (ローカルのみ)	FileMaker Server Helper サービス (Windows) またはデーモン (Mac OS)

関連項目

[ネットワークの問題](#)

クライアントコンピュータの問題

Admin Console 開始ページで Java がインストールされているのにインストールするように指示される

Internet Explorer がアドオンの実行を拒否するように設定されている場合があります。ブラウザウィンドウの上部にある情報バーをクリックして Internet Explorer で [Java Web Start](#) ActiveX Control アドオンを実行するように許可してください。FileMaker Server ではこのアドオンを使用して必要なバージョンの Java がインストールされているかどうかを判別します。このアドオンの実行を許可したら、[**Admin Console** の開始] をクリックします。

FileMaker Pro の [共有ファイルを開く] ダイアログボックスに FileMaker Server の名前が表示されない

- Windows: サービス (ローカル) ノードで、FileMaker Server [サービス](#) が開始されていることを確認します。
- FileMaker Server が実行されているコンピュータのホスト [IP アドレス](#) を指定しなければならないことがあります。[共有ファイルを開く] ダイアログボックスで、次のように入力します。
fmnet:/[IP address]

クライアントで FileMaker Server でホストされているデータベースが表示されない

FileMaker Server コンピュータ上のファイアウォール設定が [クライアント](#) へのデータベースの表示をブロックしている可能性があります。ファイアウォールでブロックしてはならないポートの詳細については、[FileMaker Server によって使用されるポート](#) を参照してください。

クライアントコンピュータで「ホストとの通信が中断され、回復不可能です。」というメッセージがクライアントに表示される

データベースを閉じるよう求める FileMaker Server からの要求にクライアントが応じなかったため、クライアントは FileMaker Server によってデータベースから接続が解除されました。ホストとクライアントの間の通信が切断された理由として、ハードウェアエラー (ネットワーク接続の切断)、またはソフトウェアの接続タイムアウト (一定の時間クライアントからの応答がない) によるものがあります。接続タイムアウトは、スクリーンセーバーや、プロセッサへの負荷が高い処理が原因で発生する可能性があります。

クライアントコンピュータで「使用可能なサーバー名がなくなりました」または「ホストの容量を超えました」というメッセージがクライアントに表示される

FileMaker Server がシャットダウンしたか、または、FileMaker Server で、使用可能な接続またはクライアントの最大数に達しています。FileMaker Server が実行されていることを確認するか、または [プロパティ] ダイアログボックス (Windows) または [データベースサーバー] > [FileMaker Pro クライアント] タブで、許可するクライアントの数を増やします。

クライアントコンピュータで「ホストの容量を超えました」というメッセージがクライアントに表示される

FileMaker Server で、使用可能な接続またはクライアントの最大数に達しています。[データベースサーバー] > [FileMaker Pro クライアント] タブで、許可するクライアントの数を増やします。

クライアントコンピュータで「このファイルは変更禁止なので、この操作は実行できません。」というメッセージがクライアントに表示される（**Mac OS の FileMaker Server** でホストされた **FileMaker Pro** データベース）

データベースファイルのアクセス権が正しく設定されていないため、クライアントはデータベースファイルを変更できません。オペレーティングシステムレベルのグループ `fmsadmin` がデータベースファイルを所有していて、読み／書きアクセス権を持っている必要があります。「[Event.log](#)」には、「データベース「ファイル名」を読み込み専用で開きました。」と報告されます。データベースファイルがグループ `fmsadmin` によって所有されていない場合、データベースファイルは FileMaker Server によって認識されず、「Event.log」にエントリは記述されません。

関連項目

[FileMaker Server イベントログメッセージ](#)

[データベースサーバーの設定](#)

[パフォーマンスの向上](#)

[ユーザ、グループ、およびアクセス権 \(Mac OS\)](#)

[トラブルシューティング](#)

FileMaker Server イベントログメッセージ

次に、「[Event.log](#)」または Windows [イベントビューア](#)に表示される場合があるログファイルメッセージの五十音順の一覧と、各メッセージの説明を示します。保存先の名前やファイル名など、FileMaker Server またはオペレーティングシステムによって返される変数は、角括弧 [] で囲まれています。

クライアント 「[クライアント名]」 より反応がありません。接続は解除されました。
([エラー番号])

ネットワークの切断またはソフトウェアエラーのために、接続されたクライアントのコンピュータが FileMaker Server との通信を停止しました。

重大なエラーが発生しました。データベース 「[ファイル名]」 を閉じます。 ([エラー番号])

エラー状態のため、指定されたファイルは FileMaker Server によって閉じられます。旧バージョンの FileMaker Pro を使用してファイルを回復しなければならない場合があります。損傷ファイルの修復の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

データベースのキャッシュのサイズ: [x] MB。

指定されたメモリ量 (x) がデータベース[キャッシュ](#)用に使えます。このメッセージは FileMaker Server の開始時にログに記録されます。アプリケーションメモリは [データベースサーバー]>[データベース] タブの [データベースキャッシュに予約されている RAM] を変更することによって調整できます。新しいキャッシュサイズはただちに有効になります。

データベース 「[ファイル名]」 の一貫性チェックが管理者によってスキップされ、データベースが開きました。このデータベースを使用するとデータが破損する可能性があります。

管理者が [データベース] ウィンドウ内でデータベースを [開く] 操作によってファイル一貫性チェックを省略しました。[ホストされているファイルの開き方](#)を参照してください。

データベース 「[ファイル名]」 を開くことができません。データベースが損傷している可能性があります。FileMaker Pro 9 で [修復] コマンドを使用します。

指定したファイルが一貫性チェックに失敗しました。FileMaker Pro でファイルを開いてみます。FileMaker Pro アプリケーションを起動してファイルを開き、画面の指示に従います (ファイルの修復の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください)。その後、ファイルを FileMaker Server で開いてみます。

現在の状態でデータベース 「[ファイル名]」 を開けませんでした。まず、FileMaker Pro でデータベースを開いてください。

データベースが古いフォーマットの可能性があります (FileMaker Server 9 を使用してデータベースをホストするには、データベースが FileMaker Pro 7 (.fp7) のフォーマットである必要があります)。ファイルの変換の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください。

FileMaker 9 でデータベース 「[ファイル名]」 を初めて開いています。一貫性チェックを実行しています ...

指定したファイルが FileMaker Pro 7 で作成されていて FileMaker 8 以降の製品で開かれていないため、FileMaker Server はファイル一貫性チェックを実行します。

データベース 「[ファイル名]」 は壊れているため閉じられました。

FileMaker Pro でファイルを開いてみます。FileMaker Pro アプリケーションを起動してファイルを開き、画面の指示に従います（ファイルの修復の詳細については、FileMaker Pro ヘルプを参照してください）。その後、ファイルを FileMaker Server で開いてみます。

データベース 「[ファイル名]」 は正しく閉じられていません。一貫性チェックを実行しています。

指定されたファイルが FileMaker Pro または FileMaker Server が異常終了したときに使用されていました。したがって、FileMaker Server はファイルのブロックを検証するための一貫性チェックを実行します。

FileMaker Server はスリープモードに入ります。キャッシュ全体がフラッシュされ、スケジュールはすべて中断されます。

一定時間操作を行わなかったときにサーバーコンピュータがスリープするように設定されている場合、スリープを開始する前に、オペレーティングシステムにより、開いている各サービスまたはアプリケーションに対し、サービスまたはアプリケーションが省エネルギーモードに対応できるかどうかを確認するようメッセージが表示されます。ホストされたデータベースに現在クライアントが接続している場合、FileMaker Server はスリープ要求を拒否し、サーバーコンピュータはスリープしません。クライアントが接続していない場合、FileMaker Server は、保存されていない変更をディスクに書き込み（キャッシュをフラッシュし）、サーバーコンピュータがスリープできるようにします。スリープ中は、タスクスケジュールはすべて中断され、サーバーコンピュータがスリープしていない次のスケジュール時刻までは再度実行されません。

FileMaker Server はスリープモードから復旧しました。すべてのスケジュールは再開されます。

このメッセージは、サーバーコンピュータがスリープモードから復旧したときに、FileMaker Server によってログに送信されます。スリープ中は、タスクスケジュールはすべて中断され、サーバーコンピュータがスリープしていない次のスケジュール時刻まで実行されません。

FileMaker Server を終了します。回復不能なエラーが発生しました。（[エラー番号]）

ネットワークエラーなどの原因により、ネットワークの使用中に FileMaker Server によってサーバーエラーが検出されました。ネットワークのインストール、設定、およびシステムエラーログを確認してください。

ディレクトリサービスへの登録に失敗しました。（[エラー番号]）

LDAP サーバーからの LDAP エラー番号が報告され、ディレクトリサービスへの登録に失敗しました。

スケジュール「[\[\[スケジュール名\] \]](#)」は強制終了されました。「[\[\[保存先\] \]](#)」が見つかりませんでした。

指定された保存先が見つかりませんでした。保存先がリムーバブルメディアの場合は、メディアがドライブに挿入されていることを確認します。保存先が外部ドライブまたはネットワークドライブの場合は、ドライブを接続するか、またはネットワークに接続します。保存先ボリュームのドライブを正しくセットアップしたら、もう一度実行してみます。

スケジュール「[\[\[スケジュール名\] \]](#)」は強制終了されました。データベースが開いていません。

スケジュールで、FileMaker Server が開いているデータベースが存在しないフォルダが指定されています。したがって、スケジュールタスクを続行できません。スケジュールで正しい処理対象のフォルダが指定されていること、およびすべてのデータベースが正しく開かれていることを確認してください。

スケジュール「[\[\[スケジュール名\] \]](#)」は強制終了されました。「[\[\[保存先\] \]](#)」は書き込み禁止です。

指定された保存先がアクセス不可能なので、スケジュールは無効になりました。保存先がリムーバブルメディアの場合は、ドライブから取り出して書き込み可能にし、もう一度挿入しなければならないことがあります。保存先を正しくセットアップしたら、もう一度実行してみます。

関連項目

[ネットワークの問題](#)

[クライアントコンピュータの問題](#)

[イベントビューアでのアクティビティの表示 \(Windows\)](#)

[トラブルシューティング](#)

コマンドラインのエラーメッセージ

次に、[コマンドラインインターフェース](#)を使用している場合に表示されることがあるエラーコードの一覧と、各コードの簡単な説明を示します。追加情報については、[Event.log](#) または [トラブルシューティング](#)を参照してください。

10001 無効なパラメータ

10502 ホストに接続できません

サーバーが利用可能になっていることを確認します。

10504 管理者を接続解除することはできません

接続を解除しようとしているクライアントは管理者です。管理者は常に接続している必要があります。

10600 スケジュールが見つかりません

10604 スケジュールを有効にできません

10606 スケジュールの無効なバックアップの保存先

10801 ロケールが見つかりませんでした

10900 エンジンがオフラインです

10901 開いているファイルが多すぎます

10902 ファイルが開いていません

10903 同じ名前のファイルがすでに開いています

10904 この操作に対するファイルが見つかりませんでした

11000 ユーザが無効なコマンドを指定しました

11001 ユーザが無効なオプションを指定しました

11002 コマンドの書式が無効です

11005 クライアントが存在しません

20302 不明なユニバーサルパスタイプ

20400 ファイルの操作がキャンセルされました

20401 ファイルの終わり

20402 アクセス権がありません

20404 ファイルが開いていません

20405 ファイルが見つかりません

20406 ファイルが存在します

20407 ファイルはすでに開いています

20500 ディレクトリが見つかりません

20600 ネットワーク初期化エラー

その他のエラーコードについては、[カスタマサポートとデータベース](#)を参照してください。

関連項目

[コマンドラインリファレンス](#)

パフォーマンスの向上

最適なパフォーマンスのために、FileMaker Server は、データベースサーバー用に予約された専用のコンピュータ上で実行することをお勧めします。多くの[クライアント](#)をホストしたり、多くのデータベースファイルをホストする場合、FileMaker Server は、プロセッサ、ハードディスク、およびネットワークの容量を大量に使用します。同じコンピュータで、プロセッサへの負荷が高い他のソフトウェアが実行されていたり、ネットワークトラフィックの負荷が増加したりすると、FileMaker Server の実行速度が遅くなり、クライアントコンピュータ上の FileMaker Pro のパフォーマンスも低下します。

- ユーザのメインのワークステーションや、ネットワークファイルサーバーとして使用するコンピュータに FileMaker Server をインストールすることは避けてください。
- 同一コンピュータ上に同時に異なる 2 つのバージョンの FileMaker Server を実行することはできません。
- FileMaker Server を実行しているコンピュータを電子メール、プリント、またはファイルサーバーとして使用することは避けてください。
- システム[バックアップ](#)ソフトウェアを使用して FileMaker Server によってホストされているデータベースをバックアップしないでください。代わりに、FileMaker Server Admin Console を使用してデータベースのバックアップを[スケジュール](#)します。
- アンチウィルスソフトウェアを使用してホストされているデータベースファイルを含むフォルダをスキャンしないでください。
- サーバーのスクリーンセーバーおよび[スリープ](#)（または[休止状態](#)および[スタンバイ](#)）モードを無効にしてください。これらの OS 機能はパフォーマンスを低下させたりホストされているデータベースへのアクセスを中断させたりします。
- 高速なハードディスクを使用してください。
- ファイル索引設定（Windows では Indexing Service、Mac OS では Spotlight、またはその他のサードパーティファイル索引設定ソフトウェア）をオフにしてください。この機能はパフォーマンスを低下させます。
- 多数の FileMaker Pro および Web Publishing クライアントを持っている場合は、複数コンピュータ[展開](#)を考慮してください。

注意 DHCP サーバーの中には一定の時間で [IP アドレス](#) を割り当て直すものがあるため、静的 IP アドレスの使用をお勧めします。

関連項目

[トラブルシューティング](#)

更新の確認

開始ページから、FileMaker Server ソフトウェアの更新を確認できます。[ソフトウェア更新] セクションの [即時チェック] をクリックします。更新が利用可能な場合は、リンクをクリックして更新をダウンロードできます。

この機能の有効化または無効化の詳細については、[Admin Console の設定](#) を参照してください。

ライセンスキーについて

FileMaker ソフトウェアには、35 文字の固有のライセンスキーが付属します。ライセンスキーを、紛失しないようご注意ください。ライセンスキーは、ソフトウェアの再インストールが必要な場合に備えて安全な場所に保管することをお勧めします。

ライセンスキーは、CD ケースの裏にあります。

ライセンスキーは、一度に 1 台のコンピュータまたは 1 台の複数マシン展開で本ソフトウェアのコピー 1 部の使用が許諾されるライセンス（「ソフトウェア・ライセンス」を参照）に従うために使用されます。ライセンスキーが無効、または同一のライセンスキーによりインストールされたソフトウェアがネットワーク上の別のコンピュータで実行されている場合、FileMaker Server ソフトウェアによって、エラーメッセージが表示され、FileMaker Server は起動しません。

FileMaker Server コンポーネントは単一の FileMaker Server コンポーネントを形成して機能する複数のコンピュータ上に展開することもできます。各複数コンピュータ展開に対して固有のライセンスキーを持っているか、または複数の展開に対してはボリュームライセンスを取得する必要があります。各展開に対して FileMaker Server を 1 部ずつ購入する必要があります。

FileMaker Server ライセンスの更新

同じコンピュータ上でライセンスを FileMaker Server 9 の評価版からアップグレードする場合や、FileMaker Server 9 から FileMaker Server 9 Advanced にアップグレードする場合は、FileMaker Server のライセンスキーを更新する必要があります。

既存の展開の FileMaker Server ライセンスを更新するには、[サーバー情報の設定](#)を参照してください。

FileMaker Server 9 展開を新しいコンピュータに移動するか、または旧バージョンの FileMaker Server からアップグレードするには、開始ページの『FileMaker Server 入門ガイド』を参照してください。

コマンドラインリファレンス

FileMaker はコマンドラインインターフェース (CLI) を使用して FileMaker Server を管理するための `fmsadmin` ツールを提供しています。CLI を使用するには、FileMaker Server を実行しているコンピュータにログオンする必要があります。

注意 CLI は、コマンドプロンプト (Windows) またはターミナルアプリケーション (Mac OS) で使用できます。

コマンドラインインターフェースファイル

CLI 実行可能 `fmsadmin` は次のフォルダにあります。

- Windows: [ドライブ]:\Program Files\Filemaker\FileMaker Server\Database Server\fmsadmin.exe
- Mac OS: /usr/bin/fmsadmin

コマンド

`fmsadmin` コマンドの一般フォーマットは次のとおりです。

```
fmsadmin command [options]
```

次の例は、[Admin Console](#) ユーザ名 `admin` およびパスワード `pwd` で認証し、開いているすべてのデータベースを確認のプロンプトを表示しないで閉じます。

```
fmsadmin close -y -u admin -p pwd
```

重要 CLI コマンドには、Admin Console 名とパスワードを含めることができます。コマンドを対話形式で使用する場合、ユーザ名は表示されますが、パスワードは表示されません。スクリプトやバッチファイル内のコマンドに名前とパスワードを含める必要がある場合は、パスワードの所有者だけがスクリプトやバッチファイルを参照できるようにしてください。

CLI では、`fmsadmin help` コマンドを使用して、他のコマンドのヘルプページを表示します。特定のコマンドに関する FileMaker Server オンラインヘルプについては、[fmsadmin コマンド](#)を参照してください。

オプション

オプションを使用してスイッチおよびパラメータを `fmsadmin` に渡します。一覧を参照するには、“`fmsadmin help options`” と入力します。オプションは、短い形式または長い形式で指定できます。たとえば、`-h` または `--help` の形式を使用することができます。次のオプションは、すべてのコマンドで使用できます。

使用	目的
<code>-h</code> 、 <code>--help</code>	このページを出力します。
<code>-p password</code> 、 <code>--password password</code>	サーバーの 認証 に使用するパスワードを指定します。
<code>-u username</code> 、 <code>--username username</code>	FileMaker Server への接続に使用するユーザ名または ドメイン名 、あるいはその両方を指定します。
<code>-v</code> 、 <code>--version</code>	バージョン情報を出力します。

使用	目的
<code>-w seconds</code> 、 <code>--wait seconds</code>	コマンドがタイムアウトになるまでの時間を秒単位で指定します。
<code>-y</code> 、 <code>--yes</code>	すべてのプロンプトに自動的に「yes」で回答します。

特定のコマンドのオプション

使用	目的
<code>-d path</code> 、 <code>--dest path</code>	保存先のパスを指定します。
<code>-f</code> 、 <code>--force</code>	データベースを強制的に閉じるか、またはサーバーをシャットダウンします。
<code>-m message</code> 、 <code>--message message</code>	クライアントに送信するテキストメッセージを指定します。
<code>-o</code> 、 <code>--offline</code>	オフラインバックアップを実行します。
<code>-s</code> 、 <code>--stats</code>	ファイルまたはクライアントの使用状況を返します。
<code>-t seconds</code> 、 <code>--grace-time seconds</code>	クライアントを強制的に終了するまでの時間を秒単位で指定します。

- 短い形式のオプションを指定するには、1つのハイフン (-) を使用します。複数のオプションを同時に指定することができます。オプションにパラメータが必要な場合、通常は、そのオプションが最後に指定するオプションになります。次に例を示します。

```
fmsadmin close -ym 'Closing for maintenance' Database.fp7
```

- 長い形式のオプションを指定するには、2つのハイフン (--) を使用します。スクリプトで長いオプションを使用すると、読みやすさが向上します。各オプションは、それぞれに2つのハイフンを付けて別々に指定する必要があります。オプションとパラメータの間にはスペースが必要です。次に例を示します。

```
fmsadmin close --yes --message "Closing for maintenance" Database.fp7
```

引数

- スペースが含まれるパラメータは、シングルクォーテーションまたはダブルクォーテーションで囲みます。
ヒント コンピュータとファイル名には、スペースを除く、標準的な ASCII 文字で構成される名前を使用します。
- ファイル名の代わりにファイル ID を指定することができます。ファイル ID や他の使用状況を返すには、`fmsadmin list files [-s]` を使用します。ファイル ID は動的に生成されます。
- シェルによって解釈される可能性がある記号は、エスケープする必要があります。つまり、記号の前に円通貨記号またはバックスラッシュ (\) を付ける必要があります。シェルまたはコマンドインタプリタのマニュアルを参照してください。
- 例：次のコマンドは、確認のプロンプトを表示せず (-y)、クライアントがファイルを閉じるまでに5分間の余裕を与え (-t300)、メッセージを送信します (-m)。このコマンドは、ファイル ID 20 と 22、およびフォルダ「Solution」に対して動作します。

コマンドラインリファレンス

```
fmsadmin close -y -t300 -m "Closing for maintenance" 20 22 "filemac:/Library/FileMaker Server/Data/Databases/Solution/"
```

スクリプト言語

シェルコマンドやターミナルコマンドの実行が許可されているスクリプト言語を使用する場合は、`fmsadmin` を使用して、多くのタスクをスクリプトに記述することができます。Mac OS では、`cron` または `launchd` などのツールを使用して `un schedule` または `バックアップ` などの `fmsadmin` コマンドの実行をスケジュールできます。Windows では、タスクウィザードを使用してスクリプトタスクをスケジュールすることができます。

管理者認証

FileMaker Server では常に CLI を認証しています。FileMaker Server は、成功または失敗にかかわらずすべての管理者接続をログに記録します。

関連項目

[コマンドラインのエラーメッセージ](#)

fmsadmin コマンド

次に、fmsadmin [CLI \(コマンドラインインターフェース\)](#) のコマンドの一覧を示します。一覧を参照するには、“fmsadmin help commands” と入力します。詳細については、リンクをクリックしてください。

使用	目的
BACKUP コマンド	データベースを バックアップする
CLOSE コマンド	データベースを閉じる
DISABLE コマンド	スケジュール を無効にする
DISCONNECT コマンド	クライアント の接続を解除する
ENABLE コマンド	スケジュールを有効にする
HELP コマンド	fmsadmin コマンドのヘルプページを表示する
LIST コマンド	クライアント、ファイル、 プラグイン 、またはスケジュールの一覧を表示する
OPEN コマンド	データベースを開く
PAUSE コマンド	データベースアクセスを一時的に停止する
RESUME コマンド	データベースを使用可能にする
RUN コマンド	スケジュールを実行する
SEND コマンド	メッセージを送信する
START コマンド	データベースサーバー の起動
STATUS コマンド	クライアントまたはファイルのステータスを取得する
STOP コマンド	データベースサーバーの停止

関連項目

[コマンドラインのエラーメッセージ](#)

[コマンドラインリファレンス](#)

BACKUP コマンド

形式

```
fmsadmin BACKUP [FILE...] [PATH...] [options]
```

説明

指定したファイル (FILE)、または指定したパス (PATH) にあるホストされたすべてのファイルをバックアップします。

デフォルトでは、BACKUP コマンドは、[クライアント](#)によるファイルの使用を妨げることなく、ホストされたファイルのライブ[バックアップ](#)を実行します。または、オフラインバックアップを実行するには、最初にデータベースに対して PAUSE を実行してから BACKUP コマンドを発行し、続いて RESUME コマンドを実行します。パスを指定しなかった場合、データベースはデフォルトバックアップフォルダにバックアップされます。ファイルを指定しなかった場合、ホストされたデータベースがすべてバックアップされます。

オプション

-d path, --dest path

保存先のデフォルトバックアップフォルダを上書きして、指定したパスにデータベースをバックアップします。パスが存在しない場合は、FileMaker Server によって作成されます。

関連項目

[RUN コマンド](#)

[デフォルトフォルダの設定](#)

[コマンドラインリファレンス](#)

CLOSE コマンド

形式

```
fmsadmin CLOSE [FILE...] [PATH...] [options]
```

説明

指定したファイル (FILE)、または指定したパス (PATH) にあるホストされたすべてのファイルを閉じます。FILE または PATH が指定されていない場合は、ホストされたファイルをすべて閉じます。

注意 特定のファイルを閉じる場合は、オプションとファイル名またはファイル ID の間にスペースを入力する必要があります。次に例を示します。

コマンド	結果
<code>fmsadmin close -y Database</code>	指定したファイルのみを閉じます。
<code>fmsadmin close -y</code>	ホストされたファイルをすべて閉じます。

オプション

`-m message, --message message`

接続を解除する [クライアント](#) に送信するテキストメッセージを指定します。

`-t seconds, --grace-time seconds`

クライアントの接続を強制的に解除するまでの合計の秒数を指定します。デフォルト (および最小) の値は 120 秒です。

たとえば、次のように入力すると

```
fmsadmin close --grace-time 120
```

クライアントに対してただちにダイアログボックスが表示され、クライアントは [今閉じる] または [キャンセル] をクリックすることができます。クライアントがボタンをクリックしなかった場合、ファイルは 30 秒で閉じられます。クライアントが [キャンセル] をクリックした場合、指定した時間制限 (120 秒) の 45 秒前に、もう一度ダイアログボックスが表示されます。この時点でクライアントが [今閉じる] をクリックすると、ファイルはただちに閉じられます。クライアントが再び [キャンセル] をクリックした場合は、さらに 45 秒が経過した後に、ファイルが閉じられます。

`-f, --force`

確認をプロンプト表示しないでデータベースが強制的に閉じられます。

関連項目

[DISCONNECT コマンド](#)

[OPEN コマンド](#)

[STOP コマンド](#)

[コマンドラインリファレンス](#)

DISABLE コマンド

形式

```
fmsadmin DISABLE [TYPE] [SCHEDULE_NUMBER]
```

説明

指定した TYPE のアイテムを無効にします。

有効な TYPE

SCHEDULE: [スケジュール](#)を無効にします。

SCHEDULE_NUMBER には、無効にするスケジュールの ID を指定します。各スケジュールの ID 番号を取得するには、LIST SCHEDULES コマンドを使用します。

オプション

なし

関連項目

[ENABLE コマンド](#)

[LIST コマンド](#)

[コマンドラインリファレンス](#)

DISCONNECT コマンド

形式

```
fmsadmin DISCONNECT CLIENT [CLIENT_NUMBER] [options]
```

説明

指定した[クライアント](#)の接続を解除します。CLIENT_NUMBER には、クライアントの ID 番号を指定します。クライアントと ID 番号の一覧を取得するには、LIST CLIENTS コマンドを使用します。

重要 コマンド `fmsadmin DISCONNECT client` でクライアント ID 番号がない場合は、すべてのクライアントの接続が解除されます。

オプション

`-m message, --message message`

接続を解除するクライアントに送信するテキストメッセージを指定します。

関連項目

[CLOSE コマンド](#)

[LIST コマンド](#)

[STOP コマンド](#)

[コマンドラインリファレンス](#)

ENABLE コマンド

形式

```
fmsadmin ENABLE [TYPE] [SCHEDULE_NUMBER]
```

説明

指定した TYPE のアイテムを有効にします。

有効な TYPE

SCHEDULE: [スケジュール](#)を有効にします。

SCHEDULE_NUMBER には、有効にするスケジュールの ID を指定します。各スケジュールの ID 番号を取得するには、LIST SCHEDULES コマンドを使用します。

オプション

なし

関連項目

[DISABLE コマンド](#)

[LIST コマンド](#)

[コマンドラインリファレンス](#)

HELP コマンド

形式

```
fmsadmin [options] HELP [COMMAND]
```

説明

他の fmsadmin コマンドのヘルプページを表示します。

- 一般的な情報を参照するには、“fmsadmin help” と入力します。
- 使用可能なコマンドの一覧を参照するには、“fmsadmin help commands” と入力します。
- 特定のコマンドのヘルプを参照するには、“fmsadmin help [COMMAND]” と入力します。
- 使用可能なオプションの一覧を参照するには、“fmsadmin help options” と入力します。

関連項目

[コマンドラインリファレンス](#)

LIST コマンド

形式

```
fmsadmin LIST [TYPE] [options]
```

説明

指定した TYPE のアイテムの一覧を表示します。

有効な TYPE

CLIENTS: 接続されているクライアントを一覧表示します。次の例では、現在接続されているユーザの一覧を表示します。

```
fmsadmin list clients
```

FILES: ホストされているファイルを一覧表示します。次の例は、デフォルトフォルダ内にある、現在開いていてホストされているファイルのファイル ID およびその他の使用状況を返します。

```
fmsadmin list files [-s]
```

PLUGIN: データベースサーバー計算プラグインを一覧表示します。次の例は、すべてのプラグインを一覧表示します。

```
fmsadmin list plugins
```

SCHEDULES: スケジュールを一覧表示します。次の例は、すべてのスケジュールを一覧表示します。

```
fmsadmin list schedules
```

オプション

-s, --stats

CLIENTS および FILES の使用状況情報を表示します。

関連項目

[コマンドラインリファレンス](#)

OPEN コマンド

形式

```
fmsadmin OPEN [FILE...] [PATH...]
```

説明

デフォルトフォルダおよび追加データベースフォルダ内にあるデータベースを開きます。指定した各 FILE、または各 PATH のファイルがすべて開かれます。FILE または PATH が指定されていない場合は、デフォルトフォルダ内にあるすべてのファイルが開かれます。

ファイルをファイル名でなく ID で指定するには、最初に LIST コマンドを使用して現在開いているすべてのファイルおよびファイル ID の一覧を取得します。

```
fmsadmin list files [-s]
```

ファイル ID を取得した後で、OPEN コマンドを使用して開くファイルの ID を指定します。

たとえば、次のコマンドは、ファイル ID 20 と 22、およびフォルダ「Solution」を開きます。

```
fmsadmin open 20 22 "filemac:/Library/FileMaker Server/Data/Databases/  
Solution/"
```

オプション

なし

関連項目

[CLOSE コマンド](#)

[LIST コマンド](#)

[コマンドラインリファレンス](#)

PAUSE コマンド

形式

```
fmsadmin PAUSE [FILE...] [PATH...]
```

説明

指定したファイル (FILE)、または指定したパス (PATH) にあるホストされたすべてのファイルを一時停止します。FILE または PATH が指定されていない場合は、ホストされたファイルをすべて一時停止します。

ファイルが一時停止された後は、RESUME が実行されるまでファイルオンコピーまたはバックアップが安全に実行できます。

オプション

なし

関連項目

[BACKUP コマンド](#)

[RESUME コマンド](#)

[コマンドラインリファレンス](#)

RESUME コマンド

形式

```
fmsadmin RESUME [FILE...] [PATH...]
```

説明

一時停止したデータベースを再度使用できるようにします。指定した各 FILE が再開され、各 PATH のファイルがすべて再開されます。FILE または PATH が指定されていない場合は、一時停止されたファイルすべてが再開されます。

オプション

なし

関連項目

[BACKUP コマンド](#)

[PAUSE コマンド](#)

[コマンドラインリファレンス](#)

RUN コマンド

形式

```
fmsadmin RUN schedule [SCHEDULE_NUMBER]
```

説明

SCHEDULE_NUMBER によって指定された[スケジュール](#)を手動で実行します。スケジュールと ID 番号の一覧を取得するには、LIST SCHEDULES コマンドを使用します。

オプション

なし

関連項目

[LIST コマンド](#)

[コマンドラインリファレンス](#)

SEND コマンド

形式

```
fmsadmin SEND [options] [CLIENT_NUMBER] [FILE...] [PATH...]
```

説明

CLIENT_NUMBER によって指定された [クライアント](#)、指定されたファイル (FILE)、または指定されたパス (PATH) にあるファイルに接続しているクライアントにテキストメッセージを送信します。

CLIENT_NUMBER、FILE、または PATH が指定されていない場合は、接続しているすべてのクライアントにメッセージが送信されます。デフォルトでは、パラメータは FILE または PATH と想定されます。

CLIENT_NUMBER を指定するには、`-c` オプションを使用する必要があります。例：

```
fmsadmin SEND -c 2 -m "This is a test message"
```

オプション

`-m message`, `--message message`

送信するテキストメッセージを指定します。

`-c`, `--client`

CLIENT_NUMBER を指定します。

関連項目

[LIST コマンド](#)

[コマンドラインリファレンス](#)

START コマンド

形式

```
fmsadmin START SERVER
```

説明

[データベースサーバー](#)を起動します。このコマンドは、FileMaker Server サービス（Windows）またはデーモン（Mac OS）が実行している場合にのみ実行されます。

オプション

なし

関連項目

[STOP コマンド](#)

[FileMaker Server の起動と停止](#)

[コマンドラインリファレンス](#)

STATUS コマンド

形式

```
fmsadmin STATUS [TYPE] [CLIENT_NUMBER] [FILE]
```

説明

指定した TYPE のオブジェクトのステータスを取得します。

有効な TYPE

CLIENT: CLIENT_NUMBER によって指定された [クライアント](#) のステータスを取得します。例：

```
fmsadmin STATUS client 2
```

クライアントと ID 番号の一覧を取得するには、LIST CLIENTS コマンドを使用します。

FILE: FILE によって指定された開いているファイルのステータスを取得します。たとえば、「Database」という名前のファイルのステータスを取得するには

```
fmsadmin STATUS file Database
```

オプション

なし

関連項目

[LIST コマンド](#)

[コマンドラインリファレンス](#)

STOP コマンド

形式

```
fmsadmin STOP [options]
```

説明

データベースサーバーを停止します。

オプション

`-f, --force`

データベースサーバーのシャットダウンを高速に実行します。すべてのクライアントの接続がただちに解除されます。

`-m message, --message message`

接続しているクライアントに送信するテキストメッセージを指定します。

`-t seconds, --grace-time seconds`

クライアントの接続を強制的に解除するまでの合計の秒数を指定します。デフォルト（および最小）の値は 120 秒です。

たとえば、次のように入力すると

```
fmsadmin stop --grace-time 120
```

クライアントに対してただちにダイアログボックスが表示され、クライアントは [今閉じる] または [キャンセル] をクリックすることができます。クライアントがボタンをクリックしなかった場合、クライアントの接続は 30 秒で解除されます。クライアントが [キャンセル] をクリックした場合、指定した時間制限（120 秒）の 45 秒前に、もう一度ダイアログボックスが表示されます。この時点でクライアントが [今閉じる] をクリックすると、クライアントの接続はただちに解除されます。クライアントが再び [キャンセル] をクリックした場合は、さらに 45 秒が経過した後に、クライアントの接続が解除されます。

`grace-time` オプションは、`--force` オプションが使用されていない場合にのみ使用できます。

関連項目

[START コマンド](#)

[CLOSE コマンド](#)

[DISCONNECT コマンド](#)

[LIST コマンド](#)

[FileMaker Server の起動と停止](#)

[コマンドラインリファレンス](#)

用語集

英数字

Active Directory

Windows において、Microsoft Windows 2000 および 2003 Server オペレーティングシステムに付属する分散型ディレクトリサービス。Active Directory により、一元化された安全な方法でネットワークを管理することができます。

Admin Console

FileMakerServer の設定と管理、ホストされたデータベースとの作業、接続されたクライアントの詳細の表示、および使用状況情報の追跡を行うために使用するアプリケーション。

API (Application Programming Interface)

ソフトウェアアプリケーションを構成するクラス、メソッド、データ構造、変数、プロシージャ、関数などの要素。

AppleScript

Mac OS: Mac OS または AppleScript をサポートするアプリケーション (スクリプト可能なアプリケーション) の機能を制御するために使うスクリプト言語。

CLI

CLI は、コマンドラインインターフェースの略です。FileMaker Server CLI を使用すると、管理者は `fmsadmin` コマンドを入力して FileMaker Server を管理することができます。

DN (識別名)

コンマ区切りの一連の属性を使用して、ディレクトリツリーのエントリを一意に識別します。DN では、最も左にあるコンポーネントが実際のディレクトリオブジェクトで、最も右側の値がディレクトリルートになります。

Event.log

データベースサーバーの実行中に発生するイベントを記録するファイル。

FileMaker Pro

データベースを作成および変更するためのアプリケーション。クライアントは、FileMaker Pro を使用して、FileMaker Server でホストされたデータベースファイルにアクセスします。

FileMaker Pro Advanced

データベースの開発者が Web 上やワークグループ内で使用するカスタム FileMaker ソリューションを作成したり、無償のランタイムアプリケーションやカスタム FileMaker プラグインを作成することを可能にするアプリケーション。

IP アドレス

ネットワークまたはインターネット上のコンピュータを識別する、4つの数字部分 (12.34.56.78 など) から構成されるアドレス。

IWP (インスタント Web 公開)

Web ブラウザを使用して他のユーザと FileMaker データベースを共有する方法。Web クライアントは、データベースを公開するユーザが提供するレイアウト、および Web クライアントのユーザアカウントに割り当てられているアクセス権セットに制限されます。

JDBC

SQL 文を使用して、さまざまなデータベース管理システムのデータへのアクセスや交換を行う Java API。JDBC ドライバは、Java アプレットと FileMaker Pro または FileMaker Server データソースの間で通信します。

JDBC クライアントドライバ

JAR (Java Archive) ファイル。データベース内のデータにアクセスするための SQL クエリーを送信し、受信したデータをクライアントアプリケーションに配信します。

Java Web Start

標準 Web サーバーからアプリケーションを利用可能にすることによってユーザに対してアプリケーションを展開するテクノロジー。ユーザコンピュータは Java Runtime Environment (JRE) が必要です。

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol)

このプロトコルは TCP/IP 上で動作し、システム管理者がユーザ、グループ、デバイス、およびその他のデータを一元管理できるようにします。

NetInfo

Mac OS プラットフォームの情報管理システム。NetInfo は、ユーザとグループなど、オペレーティングシステムのすべての設定と情報を管理します。また、ユーザの認証も処理します。

ODBC

SQL 文を使用して、さまざまなデータベース管理システムのデータへのアクセスや交換を行う API。FileMaker Server Advanced は ODBC を介してデータをデータソースとして共有できます。FileMaker Server は他のアプリケーションからのデータとも情報交換できます (ODBC クライアントアプリケーションとして)。

ODBC クライアントドライバ

DLL (Windows) または共有ライブラリ (Mac OS)。データソース内のデータにアクセスするための SQL クエリーを送信し、要求されたデータをクライアントアプリケーションに配信します。

Open Directory

Apple の Mac OS X 用標準ベースのディレクトリおよびネットワーク認証サービスアーキテクチャ。

PHP (Hypertext Preprocessor: ハイパーテキストプロセッサ)

元はサーバー側のアプリケーションソフトウェアで動的な Web ページを作成するために使用されたオープンソースのプログラミング言語。FileMaker Server では、PHP で作成したカスタム Web ページ上で FileMaker Pro データベースのデータを公開することができます。

ScriptMaker

FileMaker Pro の 1 機能。これを使用し、1 つまたは一連の動作、あるいはスクリプトステップを実行するスクリプトを作成することができます。

SSL (Secure Sockets Layer)

インターネット上で通信を暗号化および認証するプロトコル。HTTPS アクセス方法で使用されます。

SMTP (Simple Mail Transfer Protocol)

電子メールメッセージ転送用の標準サーバー間プロトコル。FileMaker Server はこのプロトコルを使用して電子メール通知を送信します。

SQL

データベース管理システム (DBMS) を管理し、DBMS と相互に操作する構造化プログラムクエリー言語。

Stats.log

FileMaker Server のパフォーマンスに関する使用状況情報を記録するファイル。

TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol)

インターネットの基礎となる基本的な通信規約。

Web 公開コア

Web 公開エンジンのソフトウェアコンポーネント。データへの要求を処理してデータをデータベースサーバーから XML に変換します。

Web 公開エンジン

Web 公開エンジンは、FileMaker Server によってホストされるデータベース用のカスタム Web 公開サービスおよびインスタント Web 公開サービス (FileMaker Server Advanced 用) を提供します。

Web サーバー

Web 上でユーザからの HTTP または HTTPS 要求に応答するソフトウェア。FileMaker Server 展開でデータベースを Web 上に公開するために必要です。

Web サーバーモジュール

Web サーバーコンピュータ上にインストールされる FileMaker Server ソフトウェアコンポーネント。Web サーバーモジュールにより、Web 公開エンジンが Web サーバーに接続できるようになります。

XML

XML は厳密なファイル形式ではなく、複数のグループがデータ交換に使用することができる合意済みの形式を定義するための言語です。多くの組織や企業が、XML を使用して製品情報、取引、在庫などの業務データを送信しています。

XSLT

XSLT (XSL Transformations) は、XML ドキュメントの構造を別のドキュメント形式に変換 (変更) する場合に使用される XSL (Extensible Stylesheet Language) のサブセットです。たとえば、XSLT スタイルシートを使用して、XML ドキュメントを HTML または TXT のドキュメントに変換することができます。

あ

アカウント

定義されたアクセス権レベルでファイルにアクセスするユーザ名と、通常はパスワード。

アクセス権

表示または使用できるレコード、フィールド、レイアウト、値一覧、およびスクリプトを制限したり、実行可能な操作を制限したりするための権利。

アクセス権セット

データベースファイルへのアクセスレベルを決定する権利を定義したセット。

アシスタント

タスクを手順ごとにガイドする画面上の指示。

アップロード

データまたはファイルを 1 台のコンピュータからリモートコンピュータに転送する。たとえば、データベースアップロードアシスタントを使用して、FileMaker Server にデータベースファイルを転送します。

イベントビューア

Windows: さまざまなログファイルに保存されているイベントを表示する、Windows オペレーティングシステムに付属の管理ツール。FileMaker Server ではイベントはアプリケーションログに報告され、イベントビューアを使用して、報告されたイベントを表示することができます。

か

拡張アクセス権

FileMaker Pro データ共有アクセス権。ユーザが FileMaker Pro を使用してホストされているファイルにアクセスすることを許可するか、データベースを ODBC/JDBC データソースとして使用することを許可するか、または Web 上で公開されたデータにアクセスすることを許可するかを決定します。

管理タスク

FileMaker Server の効率的な動作を維持し、ホストされたデータベースのデータの整合性を確保するために、管理者が定期的に行う手順。たとえば、データベースのスケジュールバックアップを定期的に行うことは、代表的な管理タスクです。

キャッシュ

頻繁に使用されるデータを格納しておき、データをハードディスクから読み取らなければならない場合よりも高速なアクセスを提供するために、プログラムによって予約される RAM の領域。キャッシュメモリのサイズを大きくしておくこと、FileMaker Server のパフォーマンス（処理能力）が向上します。

クライアント

FileMaker Pro、Web ブラウザ、または ODBC/JDBC クライアントアプリケーションを使用して FileMaker Server 上でホストされているデータベースへの接続を開くユーザ。

クライアントアプリケーション

データソースからデータを要求するアプリケーション。例として、FileMaker Server によってホストされるデータベースにアクセスする場合は FileMaker Pro、ODBC または JDBC を経由して SQL を使用してデータを要求する場合はスプレッドシートがあります。

オブジェクトフィールド

画像、サウンド、QuickTime ムービー、またはその他のタイプのファイルを保存できる FileMaker Pro フィールド。

カスタム Web 公開

FileMaker データベースを Web 上で XML、XSLT、または PHP を使用して共有する方法。ユーザが FileMaker Server 上でホストされているデータベースと情報交換できる動的 Web ページを作成できます。

コンピュータの役割

FileMaker Server 展開内の各コンピュータは、マスタ（1台のみ）またはワーカー（1台または2台）としてのコンピュータの役割を割り当てられます。

さ

サービス

Windows: バックグラウンドで動作して他のプログラムをサポートする機能を実行するプロセス。FileMaker Server は Windows 内でサービスとして実行します。

スケジュール

ホストされたデータベースのバックアップ、スクリプトの実行、クライアントへのメッセージの送信を行うスケジュールを作成することができます。

スタンバイ

Windows: アイドル状態のシステムの消費電力を節約する電源節約機能。FileMaker Server が実行されているコンピュータがスタンバイモードになると、すべてのクライアントアクティビティが中断されます。ホストされたデータベースに FileMaker Pro クライアントが接続している場合、サーバーコンピュータがスタンバイモードになることはありません。

スリープ

非アクティブなコンピュータの消費電力を節約するオペレーティングシステムの機能。FileMaker Server が実行されているコンピュータがスリープ状態になると、クライアントのアクティビティはすべて中断されます。

た

ツールバー

頻繁に使用するコマンドを実行するための Admin Console のツールの集合。

デーモン

Mac OS: バックグラウンドで動作して他のプログラムをサポートする機能を実行するプロセス。
Mac OS では、FileMaker Server は複数のデーモンとして実行します。

データベースファイル

「顧客」や「請求書」など、特定のデータに関連する1つまたは複数のテーブルで構成されたファイルにまとめられた情報。1つの大規模なデータベースを複数のデータベースファイルで構成することもできます。

データベースファイルの圧縮

データベースファイルの空白のフィールド、または重複するデータや不要なデータを取り除いて、必要なディスク容量を最小化する処理。

データベースサーバー

データベースをホストする FileMaker Server のコンポーネント。複数コンピュータの展開で、データベースサーバーを実行しているコンピュータはマスタコンピュータと呼ばれます。データベースファイルはマスタコンピュータのハードディスクに保存されます。

データベースフォルダ

FileMaker Server は、起動時に、デフォルトデータベースフォルダ、追加フォルダ、および1レベル下のサブフォルダで、ホストするデータベースを検索します。

データソース

アクセスしたいデータ、たとえば FileMaker Pro データベースまたは別のデータベース管理システム内のデータ。

データソース名 (DSN)

ODBC ドライバがデータベースに接続するために必要な特定のデータベースに関する情報を含むデータ構造。

展開

1台または複数のコンピュータ上への FileMaker Server コンポーネントのインストールおよび設定プロセスおよび結果。複数コンピュータ展開では、コンポーネントは複数のコンピュータおよびネットワーク上で1つのユニットとして展開されます。

ドメイン名

インターネット上のコンピュータを識別する名前。

ドライバ

ODBC または JDBC ドライバは、SQL クエリーを DBMS が理解できるコマンドに翻訳します。

ODBC または JDBC ドライバは、ODBC または JDBC コールを処理し、SQL リクエストをデータソースに送り、受け取ったデータをドライバマネージャに返します。ドライバマネージャはそのデータを要求元のアプリケーションに送ります。

な

認証

アクセス権を割り当てたり、システムやデータベースファイルへのアクセスを許可したりする前に、アカウントとパスワード（定義されている場合）が有効かどうかをチェックする処理。

ネットワークプロトコル

コンピュータがネットワークを通じてデータを交換するとき使用する一連の規則。一般的なプロトコルには TCP/IP、HTTP、および HTTPS があります。

は

バックアップ（名詞）

元のファイルが失われたり、損傷したり、その他の理由で取得不可能になった場合に使用できるデータベースファイルのコピー。

プラグイン

特定の処理で、アプリケーションに機能を追加するソフトウェア。

ブロック

個別の単位として記録または送信される一続きのデータ要素。多くの場合、ブロックは、プログラムがハードディスクから読み取ったり、ハードディスクに書き込んだりするデータの最小単位です。

ホストされたデータベース

クライアントがコンピュータネットワーク上で使用できるように、FileMaker Server によって開かれるファイル。ホストされたデータベースの情報には、1人または複数のクライアントが同時にアクセスして変更することができます。

ま

マスタ

データベースサーバーを実行してすべてのワーカーコンピュータを管理する FileMaker Server 展開内のコンピュータ。マスタはワーカーと通信してユーザからのデータベース要求を処理し、すべてのコンピュータ上の設定を構成し、すべてのコンポーネントのステータスとアクティビティを監視します。

ら

ランタイムソリューションファイル

FileMaker Pro Advanced ソフトウェアで作成されたデータベースファイル。データを追加、削除、および変更することはできますが、データベースフィールドやレイアウトを変更することはできません。

リレーションシップグラフ

FileMaker Pro で、現在のファイルおよび外部の関連データベースファイルの両方のテーブルの名前を参照することができます。リレーションシップグラフで、テーブルを結合したり、異なるテーブルのフィールド間のリレーションシップを変更したりします。

わ

ワーカー

FileMaker Server 展開内のコンピュータ。Web 公開エンジンまたは Web サーバーを実行します。ワーカーはマスタによって設定および監視されます。

ユーザ登録

FileMaker Server Admin Console の [ヘルプ] メニューの [ユーザ登録] を選択して、製品を登録してください。ソフトウェアをユーザ登録すると、アップグレードサービスやカスタマサービスなどの利点を受けることができます。

FileMaker Pro 評価版を使用している場合、使用の前にソフトウェアを登録する必要があります。

詳細については、開始ページの『FileMaker Server 入門ガイド』の「ユーザ登録とサポート」を参照してください。

カスタマサポートとデータベース

テクニカルサポートとカスタマサービスの詳細については、www.filemaker.com/intl を参照してください。

FileMaker Web サイトで、既成のソリューションや FileMaker データベースなどのリソースにアクセスするには、[ヘルプ]メニュー [FileMaker Web ページ] を選択してください。

無償オンラインテクニカルサポートについては、サポートインフォメーションおよび FileMaker Knowledge Base をご利用ください。このデータベースには、問い合わせの多い質問、ヒント、トラブルシューティングのアドバイスなどが記載されています。FileMaker Knowledge Base データベース記事は英語のみです。

<http://www.filemaker.com/kb>

重要 操作上のご質問などサポートについては FileMaker Call Center まで、ユーザ登録やアップグレードについては FileMaker Customer Center までご連絡ください。

著作権情報

© 2007 FileMaker, Inc. All Rights Reserved.
FileMaker, Inc.
5201 Patrick Henry Drive
Santa Clara, California 95054

FileMaker、ファイルメーカー及びファイルフォルダロゴは、FileMaker, Inc. の米国及びその他の国における登録商標です。ScriptMaker は、FileMaker, Inc. の商標です。その他記載された会社名及びロゴ、製品名などは該当する各社の商標または登録商標です。

FileMaker のドキュメンテーションは著作権により保護されています。FileMaker, Inc. からの書面による許可無しに、このドキュメンテーションを複製したり、頒布することはできません。このドキュメンテーションは、正当にライセンスされた FileMaker ソフトウェアのコピーがある場合そのコピーと共にのみ使用できます。

また、製品及びサンプルファイル等に登場する会社名、氏名、住所などのデータは全て架空のもので、実在する企業、人物とは一切関係ありません。スタッフはこのソフトウェアに付属する「Acknowledgements」ドキュメントに記載されます。他社の製品に関する記述は、情報の提供を目的としたもので、保証、推奨するものではありません。詳細情報については www.filemaker.co.jp をご覧ください。